

NEXCO西日本グループ  
**コミュニケーションレポート**

全体版

2015



# 事業エリア(24府県)

## (凡例) 高速道路

- 営業中道路
- 事業中道路<sup>注1</sup>
- 事業中道路<sup>注1</sup>(新直轄方式<sup>注2</sup>で整備する区間)
- 他の自動車専用道路など

注1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称  
注2 国土交通大臣が施行主体となって高速道路を整備する方式

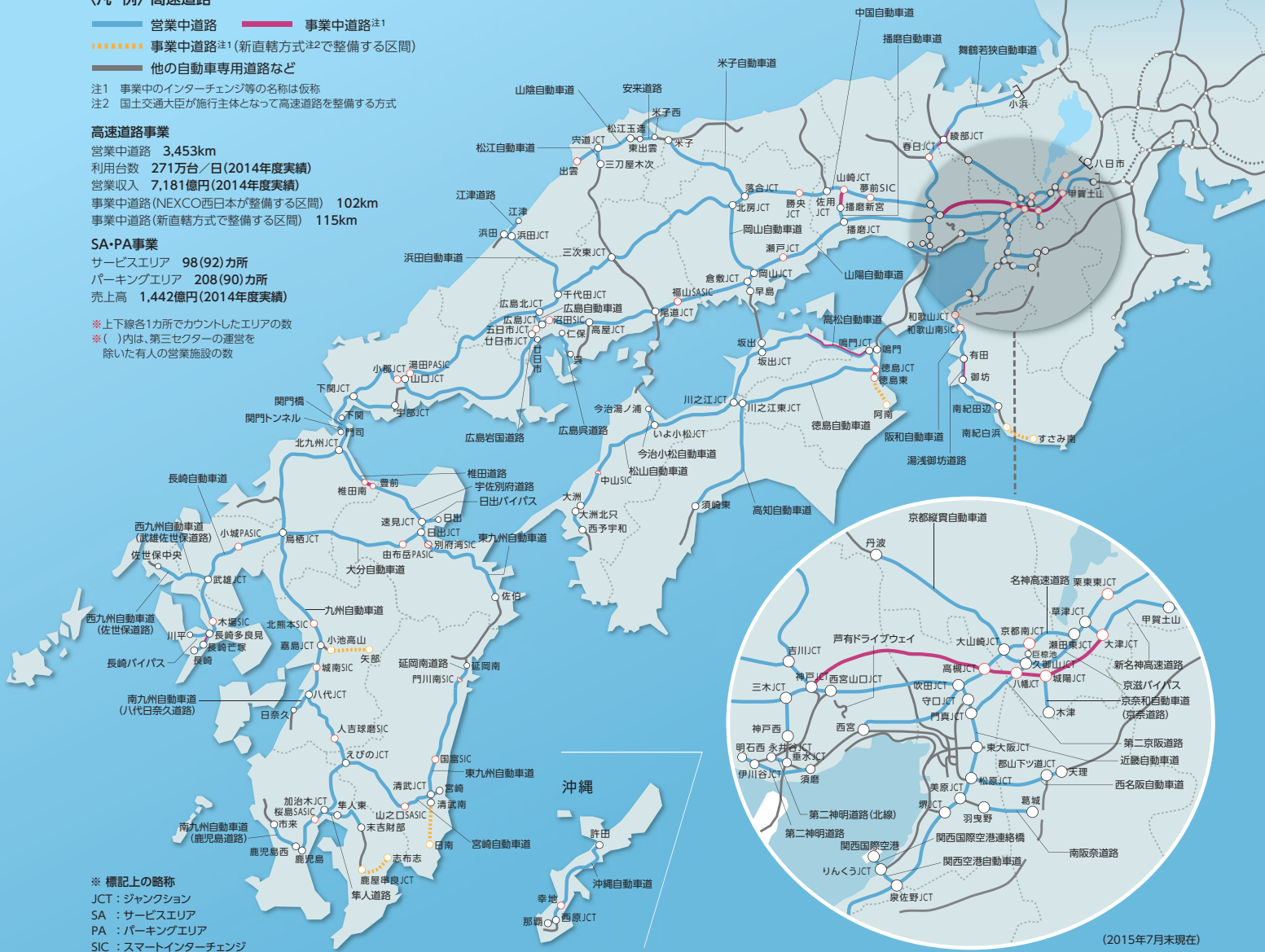
### 高速道路事業

営業中道路 3,453km  
 利用台数 271万台/日(2014年度実績)  
 営業収入 7,181億円(2014年度実績)  
 事業中道路(NEXCO西日本が整備する区間) 102km  
 事業中道路(新直轄方式で整備する区間) 115km

### SA・PA事業

サービスエリア 98(92)カ所  
 パーキングエリア 208(90)カ所  
 売上高 1,442億円(2014年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数  
 ※( )内は、第三セクターの運営を除いた有人の営業施設の数



※ 標記上の略称  
 JCT：ジャンクション  
 SA：サービスエリア  
 PA：パーキングエリア  
 SIC：スマートインターチェンジ

(2015年7月末現在)

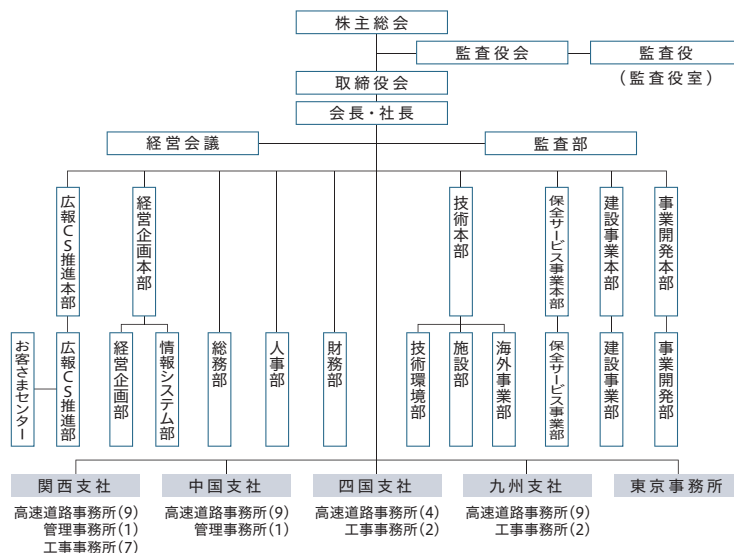
## 会社概要 (2015年7月現在)

商号 西日本高速道路株式会社  
 (West Nippon Expressway Company Limited)  
 代表者 代表取締役社長 石塚 由成  
 本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号  
 資本金 475億円  
 設立年月日 2005年10月1日  
 従業員数※ (単体)2,376人 (連結)13,507人  
 ※ 2015年3月末現在

### 使用する略称

本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社および関連会社を含めたグループ全体を表します。  
 また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

## 組織図 (NEXCO西日本、2015年7月現在)



# 目次

NEXCO西日本グループの事業 ..... 3      トップメッセージ ..... 5



**特集**  
**1 高速道路の長期保全** ..... 9








**特集**  
**2 お客さまと地域に愛される SA・PAづくり** ..... 13





**特集**  
**3 高速道路ネットワークの整備** ..... 17

NEXCO西日本グループのCSR ..... 21  
CSRの重要課題と取り組み状況 ..... 23  
コーポレート・ガバナンス ..... 27

## ステークホルダーとともに

 **お客さま** ..... 35  
 **社会** ..... 65  
 **投資家・国民の皆さま** ..... 82  
 **グループ社員** ..... 92  
 **お取引先** ..... 102

## より広い社会・未来への働きかけ

 **環境保全** ..... 108  
 **社会貢献** ..... 124  
財務報告 ..... 131  
第三者意見・第三者意見をうけて ..... 132  
編集方針 ..... 133

## グループ会社 (2015年7月現在)

### 連結子会社 26社

- **料金収受**  
西日本高速道路サービス関西株式会社  
西日本高速道路サービス中国株式会社  
西日本高速道路サービス四国株式会社  
(※交通管理も実施)  
西日本高速道路サービス九州株式会社  
西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社  
(※交通管理、点検・管理、保全作業も実施)
- **交通管理**  
西日本高速道路パトロール関西株式会社  
西日本高速道路パトロール中国株式会社  
西日本高速道路パトロール九州株式会社
- **点検・管理**  
西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社  
西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社  
西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社  
(※保全作業も実施)  
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社  
西日本高速道路ファシリティーズ株式会社  
(※保全作業も実施)
- **保全作業**  
西日本高速道路メンテナンス関西株式会社  
西日本高速道路メンテナンス中国株式会社  
西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

- **不動産関連業務および人材派遣業務**  
西日本高速道路ビジネスサポート株式会社
- **SA・PAの運営・管理**  
西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社  
西日本高速道路ロジスティクス株式会社  
西日本高速道路リテール株式会社
- **有料道路の運営・管理**  
芦有ドライブウェイ株式会社
- **海外事業**  
NEXCO-West USA, Inc.
- **ウルトラファインバブル関連事業**  
株式会社Ligaric
- **橋梁補修技術の開発および工事・コンサルタント事業**  
株式会社富士技建  
株式会社ドーユー大地
- **広告事業**  
NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

### 持分法適用の子会社および関連会社 7社

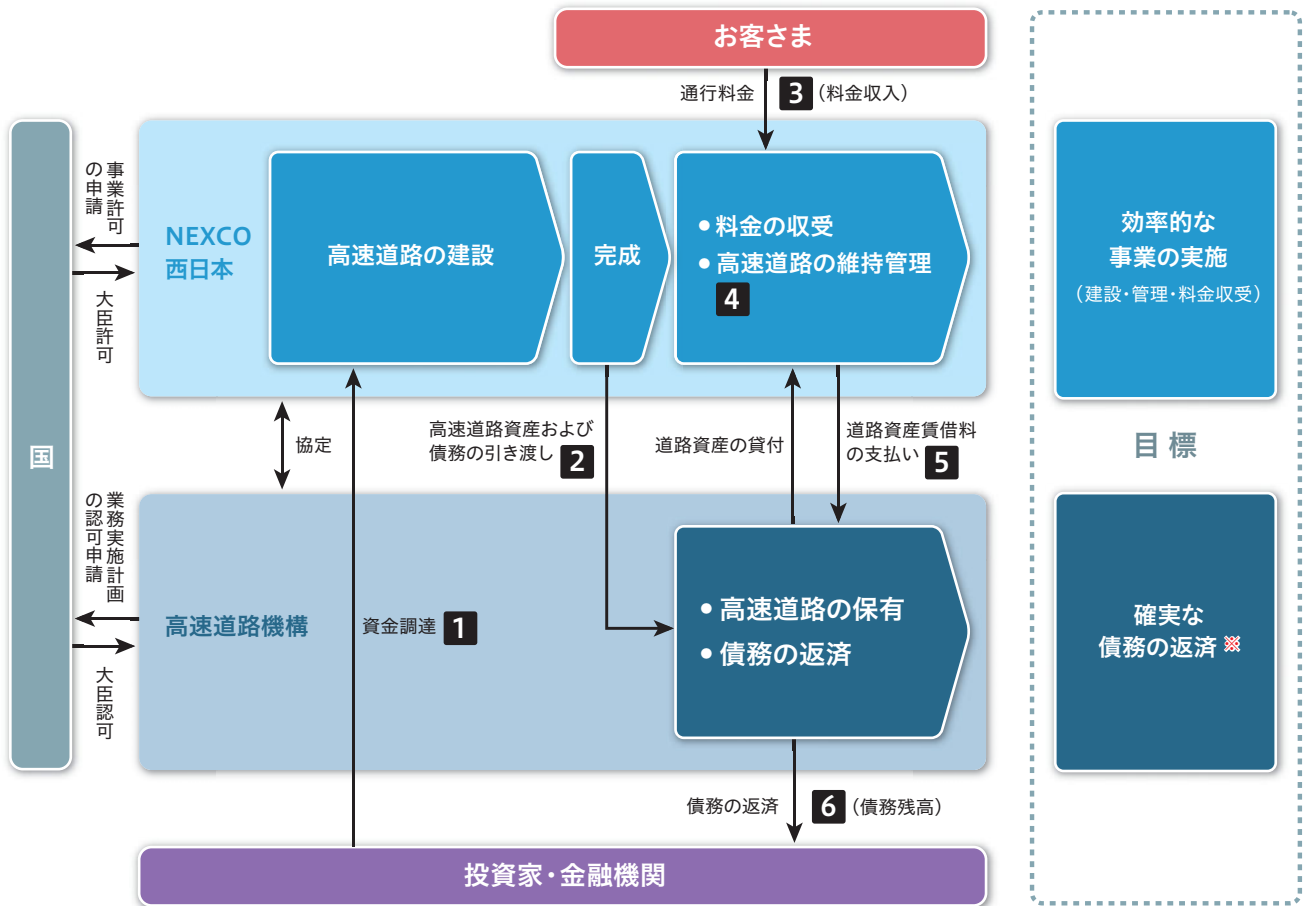
- **SA・PAの運営・管理**  
沖縄道路サービス株式会社
- **システムの開発・改良および運用管理**  
株式会社NEXCOシステムズ
- **研究および技術開発**  
株式会社高速道路総合技術研究所
- **料金収受機械保守**  
ハイウェイ・トール・システム株式会社
- **保険代理店業務**  
株式会社NEXCO保険サービス
- **トラックターミナルの運営**  
九州高速道路ターミナル株式会社
- **海外事業**  
日本高速道路インターナショナル株式会社

# NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループは、高速道路の建設と安全かつ効率的な運営管理、お客さま満足度の向上を目指すSA・PAの運営管理を主な事業とすると同時に、国民の皆さまの資産である高速道路の価値を最大化するべく、新しい価値の創造に取り組んでいます。お客さまからいただく通行料金は、高速道路機構への道路の賃借料の支払いおよび管理費用に充てられます。

## 高速道路事業(建設・運営管理)の実施スキーム

数字 ①は次ページのグラフに対応



※ 新規事業等の追加、新たな料金水準、消費税率の料金への適正な転嫁等を実施する必要がある場合は、確実な債務返済を確認し、協定および業務実施計画を適正に見直し

### 高速道路の建設と運営管理

当社の行う高速道路のプロジェクトでは、道路整備特別措置法(第3条)に基づく事業許可申請を行い、国土交通大臣から事業許可を得たのち、資金を調達し、地元協議、用地取得を行います。その後、沿道地域への工事説明を行い、安全と環境に配慮しながら、コストを削減しつつ工期を短縮し、高速道路の早期開通を目指します。

完成した道路資産は、高速道路機構に譲渡して、以降は協定に基づき当社が管理・料金收受の業務を行います。お客さまからいただく料金は、高速道路の公共性に鑑み、当社の利潤を含めないことを前提としており、料金収入は高速道路機構への道路の賃借料の支払いおよび管理費用に充てられます。

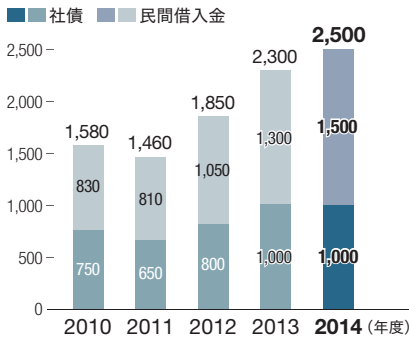
### SA・PAの運営管理

SA・PAの運営管理では、レストランや売店等のテナント会社と協力して、くつろぎ、楽しさ、賑わいなどを創出しています。また、2013年度から、地域と連携した取り組みをSA・PAで新たに実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たな価値を提供しています。

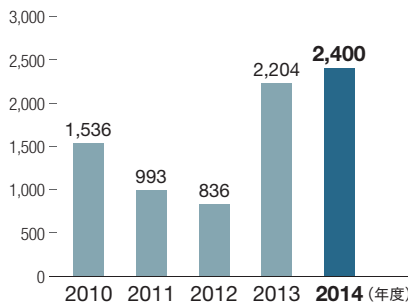
当社グループは、高速道路機構との連携のもとで、こうした高速道路事業および関連事業を通じて高速道路の社会的インフラとしての使命を果たすとともに、お客さま、地域社会、投資家と国民の皆さま、お取引先、グループ社員といったステークホルダーに対する社会的責任をグループ一体となって遂行しています。

## 主な経営指標

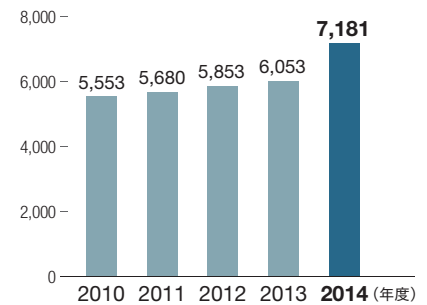
**1 資金調達額** (単位: 億円)



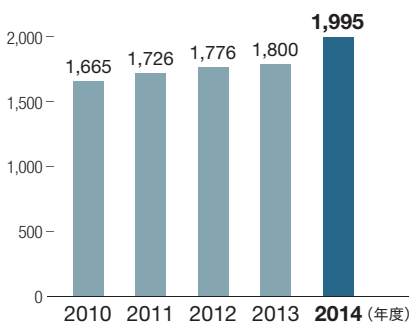
**2 道路資産完成高** (単位: 億円)



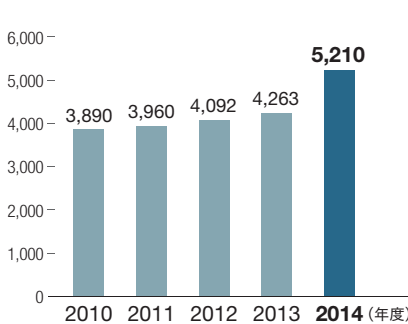
**3 料金収入** (単位: 億円)



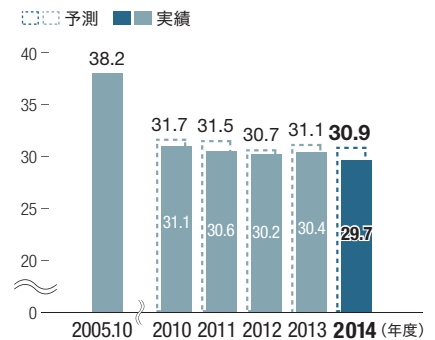
**4 管理費用** (単位: 億円)



**5 道路資産賃借料** (単位: 億円)



**6 高速道路機構の債務残高\*** (単位: 兆円)



\*全国路線網(NEXCO3会社)、首都高速道路、阪神高速道路、本州四国連絡高速道路、および全国路線網以外の一般有料道路を含む

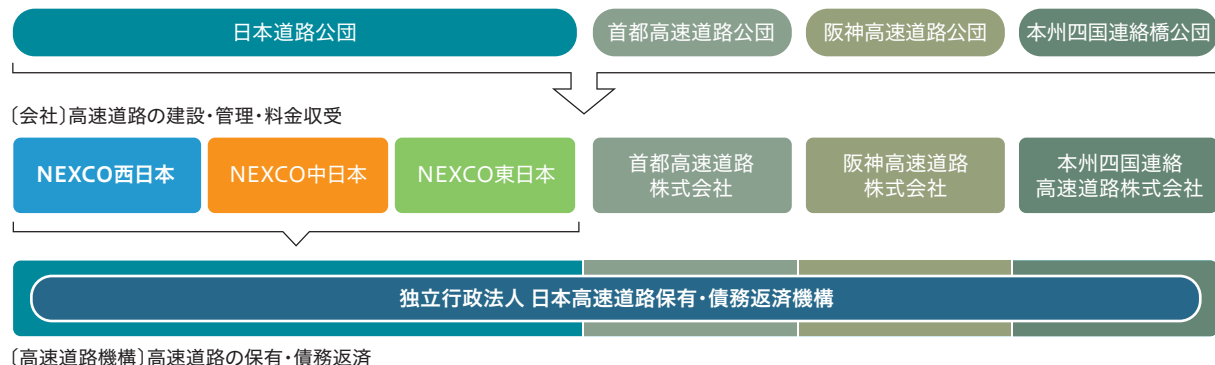
## 民営化スキーム

当社は、右の3つを目的とする旧道路関係4公団民営化において、旧日本道路公団(JH)の3分割により2005年10月1日に設立されました。

なお、道路関係4公団は下図のとおり、高速道路資産を保有し、その債務の返済を実施する高速道路機構から、高速道路資産を借り受け、運営管理を実施する6会社に分割されています。

### 民営化の目的

1. 旧道路関係4公団合計で、約40兆円にのぼる有利子債務を確実に返済すること。
2. 必要な道路を、会社の自主性を尊重しつつ、早期に、できるだけ少ない国民負担のもとで建設すること。
3. 民間企業のノウハウを發揮し、多様で弾力的な料金設定を実現し、お客さまに多様なサービスを提供すること。



「100%の安全・安心」をいっそう追求し、  
信頼される高速道路へ変革していきます。



西日本高速道路株式会社  
代表取締役社長

石塚 由成

## 「100%の安全・安心」の いっそうの追求

お客さまに高速道路を快適にご利用いただくため、NEXCO西日本グループは、設立以来一貫して「お客さまの安全・安心」を最優先課題として掲げ、「100%の安全・安心」を目指して、日々、道路保全や交通安全対策に取り組んでいます。

一方、当社が管理する高速道路のうち、供用から30年以上経過した区間が全体の約35%（約1,200km）に達しており、また、大型車両の増加や冬季の凍結防止剤使用等による塩分の影響など厳しい環境条件下で、橋梁やトンネルなど主要構造物の老朽化や劣化が顕著になってきています。

そうした中で、高速道路の健全性を永続的に確保し、高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持していくため、当社を含むNEXCO3会社は、大規模更新・大規模修繕を実施する「高速道路の更新計画」を立案し、2015年3月、道路整備特別措置法に基づく更新事業の事業許可を受けました。この事業の円滑かつ着実な実施を図るため、当社内に「高速道路強化再生計画推進会議」を設置し、事業の具体的な進め方等について検討を重ねています。2015年度からは事業に着手し、関係機関との連携を図りながら着実な事業推進に取り組んでまいります。

同じく2015年3月、当社独自の高速道路の維持管理・更新等を着実に推進するための中長期的な取り組みの方向性を明らかにした「NEXCO西日本インフラ長寿命化計画(行動計画)」を策定しました。この計画のもと、予防保全の観点等から高速道路資産の点検・診断・対策を着実に実施し、トータルコストの縮減と確実な高速道路機能の維持を図るとともに、これらにより得られた情報を次の点検・診断等に活用する「メンテナンスサイクル」の継続的な発展につなげてまいります。

さらに、NEXCO3会社および有識者からなる「点検実施基準及び資格に関する検討委員会」の検討結果を踏まえ、2015年4月に点検実施基準の見直しを行い、信頼性向上を図りました。

また、高速道路の長期保全にあたっては、さまざまな劣化事象に対処できる専門技術者の育成もきわめて重要です。2015年6月には大阪府茨木市に体験型研修も実施できる「茨木技術研修センター(I-TR)<sup>アイトレ</sup>」を整備し、専門技術者の育成強化に着手しました。今後もこれらの取り組みを通じて、「100%の安全・安心」をいっそう追求してまいります。

## 災害対応力の強化

高速道路は、大規模災害が発生した場合にも、その機能を短期間に回復し、被災地域の救命救助や支援物資輸送を支える緊急輸送路としての役割を果たさなければなりません。そのため、災害対応計画を継続的に

見直すなど、災害対応力の強化に努めています。

具体策の一例として、南海トラフ地震の被害を想定した資機材等の備蓄強化に取り組んでおり、2014年度は、災害時に一般電話が途絶した場合に備え、震度6強および津波浸水が想定される地域の各拠点に衛星携帯電話を配備しました。さらに、関係機関との総合的な協力体制を構築する観点から、当社事業エリアの全24府県と災害協力協定を締結しているほか、大規模災害時の交通路確保と被災地支援等の連携協定を陸上自衛隊と締結しており、その具体的な連携内容の調整や合同訓練に取り組んでいます。2014年度は、地震によって路面に段差が発生したことを想定した段差補修訓練を関係機関と共同で実施しました。

また、近年増加傾向にある異常降雨や大雪への対応も課題であり、災害時におけるグループ一体となった迅速な応急復旧作業、一部区間での冬用タイヤ規制導入や除雪作業の強化などにより、通行止め時間の短縮に努めています。



防災訓練

## SA・PAの「お客さま満足施設」への変革

SA・PAの地域性などを踏まえた店舗のブランド化を進め、お客さまはもちろん、地域の皆さまにも愛される「お客さま満足施設」への変革に取り組んでいます。例えば、お得感のある食事と真心のこもった「おもてなし」を提供するエリアを「モテナス」と位置付け、当社グループ直営店を順次リニューアルしています。

## トップメッセージ

また、全国のお客さまが立ち寄るSA・PAの特性を活かして、地域の皆さまとも連携しながら、観光情報を発信するイベントや特産品を活かしたメニュー開発などにも取り組んでいます。特に観光面では、高速道路ネットワークの強みを活かし、観光スポットを巡り旅行券などが当たる「お国じまんカードラリー」を22府県と連携し実施しており、2015年からは一部のSA・PAからもキャンペーンへの応募が可能となりました。

さらに、小さなお子さま連れのお客さまには、ベビーベッドなどを設けた大型トイレや授乳室などを整備しています。2014年12月には徳島自動車道 上板SA(下り線)に、室内遊具などを備えたお子さま連れのお客さま向けの専門レストラン「かみいたキッズカフェ」が、当社のエリアでは初めてオープンしました。

今後もお客さまに満足していただける店舗展開、設備を多様化し、また地域の魅力を発信するような個性的なSA・PAづくりに取り組んでまいります。

## 道路ネットワークの整備

福岡県から鹿児島県に至る東九州自動車道では、九州全域の経済・産業の活性化への期待を受けて、循環型高速道路の完成が待望されています。2015年3月までに、行橋IC～みやこ豊津ICと豊前IC～宇佐ICが開通し、現在、残り区間の事業を推進しています。また、徳島自動車道では、2015年3月に鳴門JCT～徳島ICが開通しました。

また、渋滞の抜本的解決と、大規模災害の発生時においても道路サービスを間断なく提供し続けることを基本理念に、日本の産業と社会を支え続けてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を高めるべく新名神高速道路の整備を、2023年の全線開通に向けて全力で進めています。

新名神高速道路が橋梁で通過する大阪府高槻市の淀川河川敷「鶴殿ヨシ原」には、雅楽の演奏に用いられる筆簾(ひちりき)用のヨシが自生しています。当社では、貴重なヨシの生育環境の保全を図るため、専門家による検討会を設置して、ヨシの生育状況などの調査を実施し



徳島自動車道 開通式典

ています。2014年度も環境保全に向けた各種調査や、ヨシの枯死の原因となる植物の除去などを実施しました。

今後もこうした調査などを通して、自然環境保全と新名神事業の両立を図りながら、「未来につなぐ信頼の道」としての整備を進めてまいります。

## 環境にやさしい高速道路づくり

当社グループでは、環境活動の基本理念「環境方針」を定め、「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3つを重点テーマに、環境にやさしい道路づくりを推進しています。

2014年度は、次世代自動車(電気自動車やプラグインハイブリッド車)のさらなる普及に向け、急速充電インフラの整備に取り組み、2015年3月までに計107カ所の整備を完了しました。

## 経営改善の推進

2013年1月に経営層メンバー(民間企業経営経験者を含む)を中心に「経営改善推進会議」を設置し、民営化後の経営改善の成果を確認するとともに、今後取り組むべき経営改善について議論しています。

また、「高速道路事業アドバイザー会議」を設置し、外部有識者の視点でご意見をいただいています。

この高速道路事業アドバイザー会議でのご意見を踏まえ、経営改善推進会議における議論を「NEXCO西日本



の経営上の課題と取り組み」として取りまとめました。

さらに、2015年5月に、当社のこれまでの成果や今後の課題等を取りまとめて、国土交通省が設置した外部有識者からなる「高速道路機構・会社の業務点検検討会」に報告しています。

今後も、経営改善の推進に向けた議論を進めてまいります。

こうした事業遂行のすべての基盤となるのがコンプライアンスです。そのために「NEXCO西日本グループ行動憲章」を定め、コンプライアンス違反を起こさない・許さない職場づくりに努めています。

また、国連グローバル・コンパクトの人権・労働・環境・腐敗防止に関わる10原則を支持し、2009年からその活動に参加しています。

今後も、「お客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループを目指す」というグループ理念を実現すべく、当社グループを取り巻く環境の変化に対して、常に業務の見直しを行い、進化し続けてまいります。



ステークホルダーの皆さまには、本レポートや当社グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。

2015年7月

西日本高速道路株式会社  
代表取締役社長

石塚 由成

## 国連グローバル・コンパクトの10原則とグループ行動憲章の対応関係

| 国連グローバル・コンパクト |      |                                      | グループ行動憲章   |
|---------------|------|--------------------------------------|--|
| 人権            | 原則1  | 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、         | 第5章(情報・資産) 3.個人情報保護<br>第6章(5つのステークホルダー)<br>1-1.お客さまの安全を第一、2-2.海外事業における現地の文化・慣習の尊重、<br>2-3.高齢者や体の不自由な方に配慮した事業活動、<br>4-2.人権・多様性・人格・個性の尊重、差別・ハラスメントを許さない職場環境  |
|               | 原則2  | 自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。             |  |
| 労働            | 原則3  | 企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、      | 第6章(5つのステークホルダー)<br>4-2.差別・ハラスメントを許さない職場環境、<br>4-4.安心して働ける福利厚生、安全で衛生的な職場環境   |
|               | 原則4  | あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、                  |  |
|               | 原則5  | 児童労働の実効的な廃止を支持し、                     |  |
|               | 原則6  | 雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。             |  |
| 環境            | 原則7  | 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、        | 第6章(5つのステークホルダー)<br>2-4.環境負荷の低減、2-5.生物多様性の保全   |
|               | 原則8  | 環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、              |  |
|               | 原則9  | 環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。             |  |
| 腐敗防止          | 原則10 | 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。 | 第2章(法令遵守) 1.公平・清廉を旨とした行動、2.政治・行政との正常かつ健全な関係、3.業務に関する不公正な介入の排除、4.反社会的勢力の排除<br>第3章(自由・公正)<br>2.公正かつ透明な手続き、3.業務上の立場を利用して私的利益を図る行為の排除<br>第5章(情報・資産) 4.資産の適正な管理、他者の利益の不侵害<br>第6章(5つのステークホルダー) 3-2.積極的な情報開示による透明性の高い経営、<br>5-1.適正な契約相手方の選定及び法令遵守、5-2.公正な受注活動 |

## お客さまからの期待

安心して高速道路を利用できるように、老朽化対策を万全にしてほしい

## 国民の皆さまからの期待

国民の資産でもある高速道路をずっと使えるように維持してほしい

## 私たちの取り組み

道路保全の高度化と効率化を進め、安全で安心な高速道路を提供

### 体制の整備と人材育成

将来に渡って健全な高速道路を保持するための持続可能な業務基盤・体制づくり・人材育成を進めています。

### 予防保全・大規模更新

ライフサイクルコストを最小化する予防保全、老朽化を抜本的に解決する大規模更新工事を実施します。

### 技術開発の推進

点検・診断の効率化と信頼性向上を目指して、新しい工法の開発に取り組んでいます。



撮影した画像から橋梁のひび割れを発見するauto CIMA System



プレキャストPC床版への取り替え工事

### ● 取り組みを管理するための指標

快適走行  
路面率※ **96%**

※ 快適に走行できる舗装路面の車線延長比率

大規模更新工事では、対面交通規制などにより、交通影響の軽減を図ります。

## 保全事業システムの流れ



① 点検



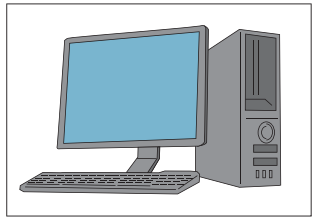
② 診断



③ 補修



④ データベース蓄積



### 体制の整備と人材育成

## 高速道路を確実に補修する、保全事業システム<sup>\*</sup>の構築を推進しています。

高速道路を将来に渡って健全な状態に保持していくために最も大切なことは、点検の結果に基づき、いつ、どのような対策を実施するか、または監視を行っていくか等を総合的な観点から判断し、そして確実に実行することへ繋げていくことです。

これを実現するためには、業務システムの整備と技術者の育成が重要な鍵を握ります。

NEXCO西日本の進める保全事業システムでは、一連の業務の手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される業務システムの整備を進め、早期に実務定着するよう取り組んでいます。

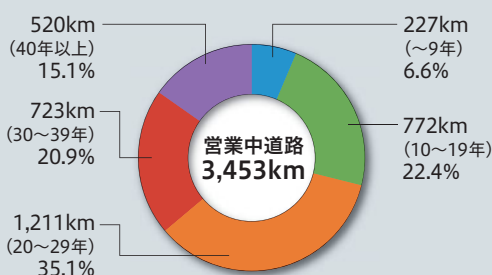
また、当社グループ内の子会社とともに協働する体制づくりを進める一方、今年度オープンした茨木技術研修センターを核に、劣化損傷した実橋梁などを設置し、基礎知識の机上学習だけでなく、点検から診断を実体験することを通じて、損傷要因の体系的理解の習得が行える研修を行っています。

<sup>\*</sup> 当社グループが自ら行うべき点検・診断・措置・記録の一連の業務サイクル

## POINT 老朽化が進む高速道路

供用後の経過年数の増加や、大型車交通量の増加とともに、車両の総重量の増加、積雪寒冷地での凍結防止剤の散布や短時間異常降雨の増加などの厳しい使用環境下で、高速道路には、建設時には想定されなかった劣化が生じています。

### 高速道路の経過年数 (2015年3月末現在)



増加する大型車両

### 老朽化の要因



短時間異常降雨



凍結防止剤の散布

予防保全・大規模更新

大規模更新・大規模修繕計画を着実に実行していきます。

高速道路ネットワークの機能を長期にわたって健全に保つため、高速道路本体構造物を再施工する大規模更新や予防的な観点からの大規模修繕を実施します。

2015年3月には、計1.1兆円の大規模更新・大規模修繕を実施する更新計画について国土交通省から事業許可を得ました。橋梁の床版を耐久性の高いプレキャストPC床版に取り替える工事や、トンネル構造の安定性を向上させる逆アーチ状のインバート(底部)を設置する工事などを実施します。

NEXCO西日本の更新計画

| 分類    | 区分   | 項目    | 延長       | 事業費     |
|-------|------|-------|----------|---------|
| 大規模更新 | 橋梁   | 床版    | 98km     | 5,669億円 |
|       |      | 桁     | 12km     | 965億円   |
|       | 小計   |       | 6,635億円  |         |
| 大規模修繕 | 橋梁   | 床版    | 111km    | 456億円   |
|       |      | 桁     | 37km     | 560億円   |
|       | 土構造物 | 盛土・切土 | 13,820カ所 | 2,463億円 |
|       | トンネル | 本体・覆工 | 46km     | 1,107億円 |
|       | 小計   |       | 4,586億円  |         |
| 合計    |      |       | 11,221億円 |         |

## POINT

### 重量超過等の違反車両への取り締まりを徹底しています。

大型車交通や車両総重量の増加に加え、重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっています。

そこで、従来から実施している専門部隊による取り締まりや措置命令に加え、積載物の軽減や通行の中止など厳格な措置命令を実施するとともに、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発など厳罰化を図っています。

専門部隊による取り締まりを強化



予防保全・大規模更新

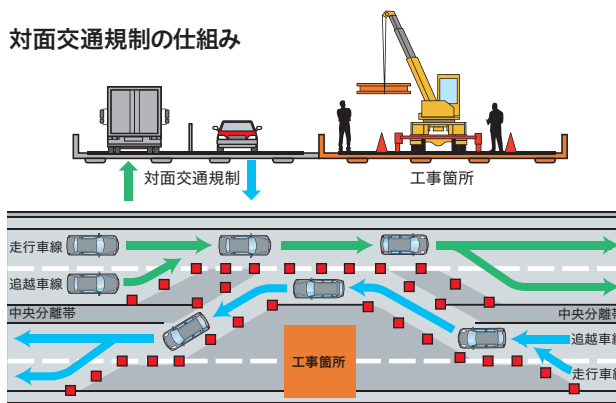
技術開発の推進

渋滞を軽減するため、車線運用方法や工期短縮などの工夫を実施します。

高速道路の更新工事では、通行規制や車線規制による渋滞の影響が予想されます。そのため、路線の交通量や利用状況なども考慮し、渋滞を軽減し工期を短縮すべく、工事や工法開発、車線運用方法などを工夫します。

また、各種メディアやウェブサイト、アイハイウェイ、ポスター、横断幕等を活用した事前広報を徹底し、社会的影響の軽減に努めます。

### 対面交通規制の仕組み



アイハイウェイ



リーフレット

技術開発の推進

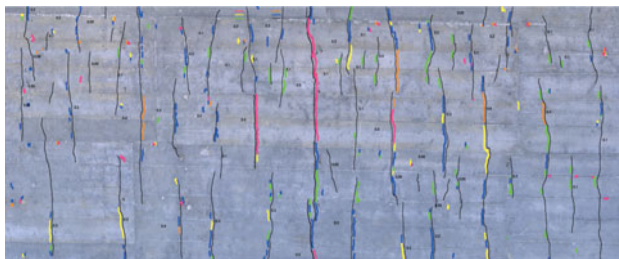
点検から補修に至る各段階での高度化・効率化を、グループ一丸で追求します。

高速道路の点検から補修に至る業務の効率性、構造物診断の精度、補修による長期耐久性の向上を図るため、当社グループでは、将来実現すべき姿を設定し、それらを具現化するための技術開発を体系的に実施しています。

## ◆ 実用化済みの主な点検技術

### コンクリート壁面高解像度画像撮影システム (auto CIMA System)

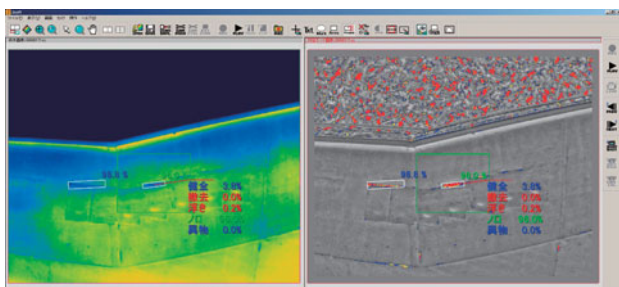
高解像度のデジタルカメラで橋梁床版の下面等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で判別、図化する技術です。接近が困難な高橋脚や長大橋等であっても、遠方からの撮影で状態を確認することができます。



auto CIMA Systemで検出したひび割れ

### 赤外線調査トータル サポートシステム (Jシステム)

コンクリートの浮き・剥離などの変状部分は、健全部分とコンクリートの表面温度が異なる性質を利用し、赤外線カメラを用いて変状部分を感知する技術です。



Jシステムでの分析画面

## ◆ 開発中の主な技術のテーマ

- ・高速走行しながら、トンネル覆工の変状を検知する技術
- ・点検時に現場からアクセスできるデータベース
- ・センサーによるモニタリングデータから、将来起こりうる変状を予測する技術
- ・構造物の耐久性を高める技術
- ・工期を短縮し社会への影響を緩和する技術

### WEB掲載情報



高速道路の長期保全

高速道路の長期保全に向けた当社の各種取り組み  
〔「インフラ長寿命化計画」「高速道路の更新計画」「高速道路の点検実施基準」〕を紹介しています。



### 社外コメント

#### 今こそメリハリの効いたメンテナンスを

NEXCO西日本の高速道路が安全で安心なインフラであり続けることは、我々の生活や産業を支えるうえで不可欠です。そのためには、高速道路網を構成する橋梁、トンネル、舗装、土工構造物、附帯設備など、あらゆる施設・設備の安全性を担保することが重要であり、しっかりとしたメンテナンスが必要です。これまで、NEXCO西日本は組織的に高度なメンテナンスに取り組んでいますが、今後の我が国の社会情勢を鑑みると、メンテナンス手法の継続的改善が求められます。



東京工業大学 大学院  
理工学研究科  
土木工学専攻 教授  
岩波 光保様

また、道路法の改正により義務付けられた5年に一度の近接目視点検への対応など、メンテナンスにかかる人的、金銭的な負担は増すばかりですが、この負担から多くのことを学び、これを次のメンテナンスに活かしていくサイクルを是非回してほしいと思います。例えば、近接目視に代わる安価で効率的な点検技術や土中や水中などの不可視部分に適用可能な調査・モニタリング技術の開発などです。

必要なコストや手間暇はかけつつも、最大限の効果が得られるメリハリの効いたメンテナンスをNEXCO西日本が先導的に推し進めていくことを期待しています。



### 社員コメント

NEXCO西日本

#### 点検から補修までのメンテナンスサイクルの 高度化・効率化に努めてまいります

道路構造物の変状は、造られた時点の設計基準や、材料や工事方法などの施工基準、開通後の使用環境により、その進行速度が異なります。点検・診断・措置を決定するうえで記録・蓄積された一連の情報が重要な所以であり、高速道路の安全・安心を守る私達は、この保全事業システムの下、適切な時期に予防保全や大規模更新などの措置を講じてまいります。あわせてこの保全事業システムの中でも、点検・診断・措置の段階で、これに携わる人材の育成や、必要な技術の開発に弛まぬ努力を続け、高度化・効率化を進めてまいります。



保全サービス  
事業部長  
北田 正彦

大規模更新・大規模修繕を実施するうえでは、皆さまへのご迷惑を出来る限り少なくする工夫と、丁寧にご案内に努めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(注) 所属・役職は、2015年3月時点のものです

## お客さまからの期待

**高速道路の旅を、もっと便利にもっと快適にしてほしい**

高速道路で長距離を移動する際には、必ず立ち寄るSA・PA。不便でサービスがよくないと旅行自体も面倒になるし、もっと便利・快適な場所になってほしい。

## 地域の皆さまからの期待

**高速道路利用者と地域をつなぐ拠点になってほしい**

大都市から離れた地方にとって、高速道路のSA・PAは、全国の人が立ち寄る貴重な場所。そんなSA・PAを地域活性化の拠点としてもっと活用させてほしい。

## 私たちの取り組み

**地域の魅力を取り入れながら、高速道路の旅をさらに楽しく**

### さらに利用しやすく

高齢の方、障がいをお持ちの方、外国の方、小さなお子さま連れの方など、すべてのお客さまが利用しやすい環境整備を進めています。

### 名物・名所の窓口

観光情報を発信するブースを設けたり、特産品を生かしたメニューを開発するなど、沿線地域の魅力の発信に努めています。

### にぎわいの創出

SA・PAのブランド化を進め、「くつろぎ、楽しさ、にぎわい」を実感していただけのバラエティに富んだ施設展開や独自サービスを強化しています。

### ● 取り組みを管理するための指標

ウェルカムゲート設置数

5カ所 (累計 65カ所)

Wi-Fiサービス提供箇所

146カ所



高速道路の外からもSA・PAに立ち寄れるウェルカムゲート



さらに利用しやすく

にぎわいの創出

お得な統一メニューと笑顔のおもてなしで  
お迎えする「モテナス」への  
リニューアルを進めています。

NEXCO西日本グループが直接運営するエリアを店舗ブ  
ランド「モテナス」へ順次リニューアルしています。「モテナス」  
店舗では、「モテナスランチ」「モテナススイーツ」などお得感の  
ある食事と、真心のこもった「おもてなし」を提供しています。

2014年度は、8カ所のPAを「モテナス」にリニューア  
ルし、計23カ所となりました。今後も、お客さま満足施  
設を目指し、エリアの魅力向上に取り組んでいきます。

2014年度にリニューアルした店舗一覧 ★:モテナス店舗

| 道路名    | SA・PA名        |
|--------|---------------|
| 名神高速道路 | 菩提寺PA(上り線)★   |
| 中国自動車道 | 赤松PA(上り線)★    |
| 九州自動車道 | 吉志PA(上り線)★    |
| 山陽自動車道 | 道口PA(上り線)★    |
| 山陽自動車道 | 淡河PA(上り線)★    |
| 中国自動車道 | 王司PA(上り線)★    |
| 中国自動車道 | 美東SA(上り線/下り線) |
| 山陽自動車道 | 沼田PA(上り線)★    |
| 名神高速道路 | 黒丸PA(下り線)★    |

名物・名所の窓口

にぎわいの創出

地域の魅力を生かしたメニューを  
競うコンテストを実施しています。

お客さまに地域に伝わる料理、地域の食材を楽しん  
でいただくため、「ご当地食材」を使用したメニューで競  
い合うコンテストを2010年度から開催しています。

4年目となる2014年度は「西イチグルメ決定戦」を開  
催しました。155店舗が参加して趣向を凝らした新メ

ニューを開発・販売し、関西・中四国・九州の3ブロック  
での大会で勝ち抜いた7店舗が、西イチグランプリを競  
い合いました。

2015年度も、地域の食材や特色を活かしたさまざま  
なイベントを実施します。



「西イチグルメ決定戦」の様子



社員コメント

NEXCO西日本リテール

### 「おもてなしの心」で、楽しく気持ちよく お買い物していただける店づくりを

私は、ショッピングコーナーでの接客・  
レジの業務や商品の受発注業務、スタッ  
フの教育などを担当しています。お客さ  
まにワクワクした気持ちでお買物を楽  
しんでいただけるように、見やすいデ  
ィスプレイやわかりやすいPOPを工夫し  
たり、お花を飾りつけたり、日頃からスタッ  
フ全員で明るくきれいな店づくりに取り  
組んでいます。「商品が見やすいですね」



名神高速道路  
草津PA(下り線)  
売店スタッフ

苗村 美樹

「お花のいい香りがしますね」などお客さまからお声掛けいた  
だくことが、スタッフのモチベーションアップに繋がっています。

これからも、お客さまのニーズにお応えできるよう、新たな  
商品の提供や紹介方法をさらに工夫するなど、真心のこも  
った「おもてなし」をご提供できるよう、いっそう取り組んでまい  
ります。高速道路をご利用の際は、ぜひお立ち寄りください。

「おもてなし」の心で  
お客さまをお迎え



モテナスランチの  
新メニュー「満腹セット」(880円)

2014年度西イチ決定戦でグランプリを受賞した  
「佐賀の恵み玉手箱御膳〜有田焼の器にのせて〜」  
(長崎道 川登SA上り線)



さらに利用しやすく

お子さま連れのお客さま向けの設備・サービスを多様化させています。

授乳室や、親子で利用できる親子トイレ、ベビーベッドを設けた大型トイレブースなど、小さいお子さま連れのお客さまに配慮した設備の整備を進めています。

2014年12月にリニューアルオープンした徳島自動車道 上板SA(下り線)には、室内遊具や親子トイレを備えた、当社のエリアでは初となるお子さま連れのお客



親子トイレ



かみいたキッズかふえ(徳島自動車道 上板SA 下り線)

さま向けの専門レストラン「かみいたキッズかふえ」がオープンしました。

2015年度は、春の交通安全キャンペーンで家族連れ向けのイベントを実施します。



お客さまの声より

授乳室が整備され、子連れでも安心してドライブに出かけられます。

子どもができてからは、遠出する際は、数時間ごとの子どもの授乳やオムツ交換、休憩の時間を計算しながらの移動となります。高速道路のSAにある授乳室を利用すれば、これらの作業が移動中にできるため、目的地を高速道路のICの近くに設定し、一般道ではなく、高速道路を多用するようになりました。

いつもよく利用するNEXCO西日本のSAでは、オムツ替えやミルクをつくるための調乳器やお湯、流し台、エアコンが完備された授乳室が設置されていて、子どもにぐずられることが少なくなりました。子連れだと出かけるのが難しいと思っていましたが、いつも清潔で快適な授乳室が提供されているおかげで、安心して出かけられます。通行料金を支払った以上に満足度の高いドライブができ、とても感謝しています。

維持管理費などを考えると、小さなSAやPAには設置が難しいかもしれませんが、これからもこうした授乳室が増えていくことを願ってやみません。スタッフや関係者の皆さまありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。



(左)授乳室、(右)調乳器

POINT 充電インフラの整備を通じて、環境にやさしい次世代自動車の普及に貢献

政府が掲げる低炭素社会の実現にあたり、次世代自動車(電気自動車やプラグインハイブリッド車)の普及は必要不可欠であるといわれています。

高速道路の利便性向上、地域への貢献および次世代自動車の普及・技術発展の実現に向けいっそうの推進が図れ、高速道路の価値最大化に寄与することを目的とし、ジャパンチャージネットワーク(株)との業務提携を結び、協働により、次世代自動車用急速充電インフラの整備に取り組んでいます。

2014年度より、新たに84カ所※の整備を進め、2015年3月末時点で累計107カ所に設置しております。

※ ハイウェイオアシス(4カ所)への設置を含む



2015年3月末現在の設置数

**107**カ所

次世代自動車用急速充電設備(中国自動車道 西宮名塩SA 下り線)



## 地域の魅力や特色を発信する「地域に開かれたSA・PAづくり」に取り組んでいます。

SA・PAを訪れるお客さまに地域の魅力や特色を発信するイベントの実施やスペースの整備に取り組んでいます。

例えば、2015年4月からは、瀬戸内7県で構成する瀬戸内ブランド推進連合と連携し、中国自動車道 美東SA(上下線)、山陽自動車道 淡河PA(上り線)で、同連合の観光情報サイト“瀬戸内Finder”から、おすすめの瀬戸内の風景写真を展示する写真展を開催しています。同連合と実施している旅行企画「瀬戸内周遊ドライブパスPRキャンペーン」の一環として6月末まで実施しているもので、期間中は瀬戸内ブランド認定商品なども展示し、瀬戸内の魅力を伝えています。

また、2014年11月に「モテナス」にリニューアルした中国自動車道 赤松PA(上り線)では、地元で採れた新鮮な野菜や果物などを取り揃えた「野菜マルシェ」を開いています。



瀬戸内写真展  
(山陽自動車道 淡河PA 上り線)



瀬戸内ブランド認定商品  
「レモドラ」

野菜マルシェ  
(中国自動車道 赤松PA 上り線)



## 社外コメント

### 広域的な高速ネットワークが、「瀬戸内」の魅力浸透を大きく後押ししてくれています

多目的スペースでの情報発信については、瀬戸内域内での交流や、瀬戸内への誘客を図る観点から、ダイレクトに観光客の皆さまにPRすることができる効果的な方法であると考えております。また、推進連合で認定している瀬戸内ブランド商品等を積極的にSA・PAで展開していただくことで、お客さまの瀬戸内ブランドに接する機会が増え、瀬戸内のブランド化に大きく貢献いただいていると考えております。実際に私たちが実施しているアンケートでは、「SA・PAで「瀬戸内ブランド」を知った」という多くの声が寄せられました。



瀬戸内ブランド  
推進連合※理事  
広島県商工労働局  
海の道プロジェクト・  
チーム担当課長  
村上 隆宣様

今後とも、御社との連携を通じて瀬戸内に多くの観光客の皆さまにお越しいただき、瀬戸内の魅力を感じていただければと思います。何より御社には、瀬戸内ブランドの確立に向け、欠かすことのできないパートナーとして、末永くお付き合いいただけることを願っています。

※ 瀬戸内海に面した7県が、2014年に設立した団体。

## POINT 2年目を迎えた「お国じまんカードラリー」がさらに充実

高速道路ネットワークを活用した地域活性化の取り組みのひとつとして、西日本各府県と連携した広域観光連携キャンペーン「お国じまんカードラリー」を実施しています。

2014年は、19府県が選ぶ一押しスポットに設置された応募券付き「GO! JIMANカード」を集めて応募すると、抽選で旅行券や地域の名産品などが当たるキャンペーンを実施し、5,000名以上の方からご応募をいただくなど、たいへん好評を博しました。

2015年は、一部のSA・PAでも応募可能とするなどの改善をしつつ、新規参加の3県を加えた22府県と連携してキャンペーンを実施しております。



(右)お国じまんカード  
(左)告知ポスター

## お客さま・地域の皆さまからの期待

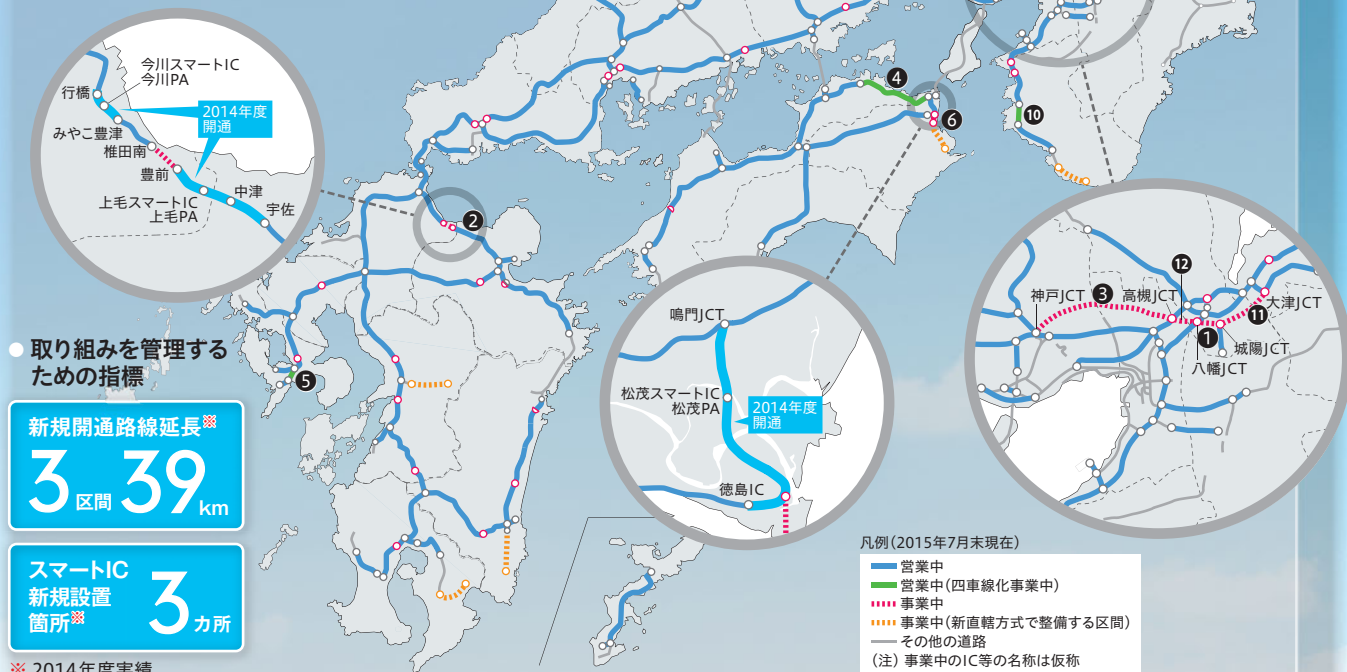
高速道路にアクセスできない地域をなくして、使いやすくしてほしい

## 道路沿線の皆さまからの期待

説明会等をしっかりと行い、生活環境や自然環境に配慮しながら工事をすすめてほしい

## 私たちの取り組み

各地で早期開通を目指して、地域と対話しながら整備促進



### 高速道路を身近に

未整備区間を整備し、高速道路が途絶している区間(ミッシングリンク)の解消を推進しています。

### ネットワークの多重化

名神高速道路を多重化し、渋滞の抜本的解消と、災害時のネットワーク維持を実現します。

### 事業地域との共生

各関係機関や沿道地域の皆さまと協議を重ね、ご理解をいただきながら事業を進めています。



東九州道 行橋IC～みやこ豊津IC 開通式



東九州道 豊前IC～宇佐IC  
開通記念マラソン大会



徳島道 鳴門JCT～徳島IC 開通パレード

高速道路を身近に

事業地域との共生

途絶している未整備区間(ミッシングリンク)を結び、高速道路の機能を高めます。

◆ 東九州道: 行橋IC～みやこ豊津IC、豊前IC～宇佐IC

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点として、大分・宮崎・鹿児島各県を結び、鹿児島市に至る延長約436kmの高速道路です。沿線では、企業誘致計画が進められており、地域産業の発展や雇用創出の促進が期待されます。なかでもアジアをリードする自動車の一大生産拠点をめざす北部九州では、循環型高速道路の完成が待望されています。また災害時の代替

ルート確保や緊急搬送など、暮らしの安全にも重要な役割を果たすものです。2014年12月に行橋IC～みやこ豊津IC(延長7.4km)、2015年3月に豊前IC～宇佐IC(延長21.1km)が開通し、合計で344kmが開通したことになります。

◆ 徳島道: 鳴門JCT～徳島IC

2015年3月に徳島自動車道の鳴門JCT～徳島ICが開通しました。当区間は南海トラフ地震など震度6強で津波浸水深が3～4mに達した場合でも、高速道路の道路機能を確保できる設計となっています。災害発生時の復旧作業や緊急輸送路、また防波堤や避難場所としての機能を有し、地域の防災力向上に貢献します。

今後の開通予定※1

| 区間                     | 延長   | 年度     |
|------------------------|------|--------|
| ① 新名神 城陽JCT～八幡JCT      | 4km  | 2016年度 |
| ② 東九州道 椎田南～豊前※2        | 7km  |        |
| ③ 新名神 高槻JCT～神戸JCT※3    | 40km | 2018年度 |
| ④ 高松道 鳴門～高松市境(四車線化)    | 52km |        |
| ⑤ 長崎道 長崎芒塚～長崎多良見(四車線化) | 8km  |        |
| ⑥ 徳島道 徳島東～徳島JCT        | 4km  | 2019年度 |
| ⑦ 播磨道 播磨新宮～山崎JCT       | 12km | 2020年度 |
| ⑧ 舞鶴若狭道 福知山～綾部(四車線化)   | 10km |        |
| ⑨ 舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西(四車線化) | 5km  |        |
| ⑩ 湯浅御坊道路 御坊～有田(四車線化)   | 19km | 2021年度 |
| ⑪ 新名神 大津JCT～城陽JCT      | 25km | 2023年度 |
| ⑫ 新名神 八幡JCT～高槻JCT      | 10km |        |

(注) 事業中区間のIC・JCT名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 会社努力目標は2016年春

※3 会社努力目標は2016年度

スマートICの今後の設置予定※1

| スマートIC名称  | 設置数 | 年度     |
|---|-----|--------|
| 夢前(中国道)、北熊本(九州道)、城南(九州道)                                    | 3カ所 | 2015年度 |
| 山之口SA(宮崎道)、由布岳PA(大分道)、門川南(東九州道)                             | 3カ所 | 2016年度 |
| 木場(長崎道)、小城PA(長崎道)、福山SA(山陽道)、桜島SA(九州道)、沼田(山陽道)、別府湾(上り線)(大分道) | 6カ所 | 2017年度 |
| 宝塚北※2(新名神)、和歌山南(阪和道)、人吉球磨(九州道)                              | 3カ所 | 2018年度 |
| 国富(東九州道)、湯田PA(中国道)、中山(松山道)                                  | 3カ所 | 2019年度 |
| 新名神大津(新名神)  | 1カ所 | 2023年度 |

(注) スマートIC名称および未開通区間の道路名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 事業中の本線と同時供用

POINT 高速道路は、地域の皆さまの生活や観光産業等の活性化に貢献しています。

例えば、宍道JCT～斐川IC～出雲ICが開通した山陰自動車道では…

安全で安心できる暮らしへ

山陰自動車道は斐伊川の河川氾濫区域に含まれていないため、河川氾濫時の緊急輸送道路となるほか、原子力災害に備えた島根県広域避難計画で避難ルートに指定されています。また、松江市、雲南市から出雲市内への緊急搬送件数は、開通前に比べて約3倍に増加。傷病者の負担軽減に貢献しています。

観光産業が活性化されました

2013年には約800万人という過去最高の参拝者数を記録した出雲大社。観光バスや自家用車の多くが出雲ICを利用し、移動時間が短縮するとともに、周辺の混雑緩和に貢献しました。また出雲大社周辺には多くの観光施設があり、開通後は各観光施設間へのアクセスが向上し、周辺観光の促進につながりました。



ネットワークの多重化

事業地域との共生

日本の新たな大動脈として、新名神の2023年全線開通を目指しています。

これまで、日本の産業と社会を支えてきた名神高速道路を多重化し、日本の大動脈である高速道路の信頼性を格段に高めるべく、「未来につなぐ信頼の道」新名神高速道路の整備を進めています。

◆ 高槻JCT～神戸JCT

工事の最盛期を迎えています。

兵庫県域では、世界で初めてバタフライウェブを採用したエクストラードード橋(武庫川橋)の施工が行われております。

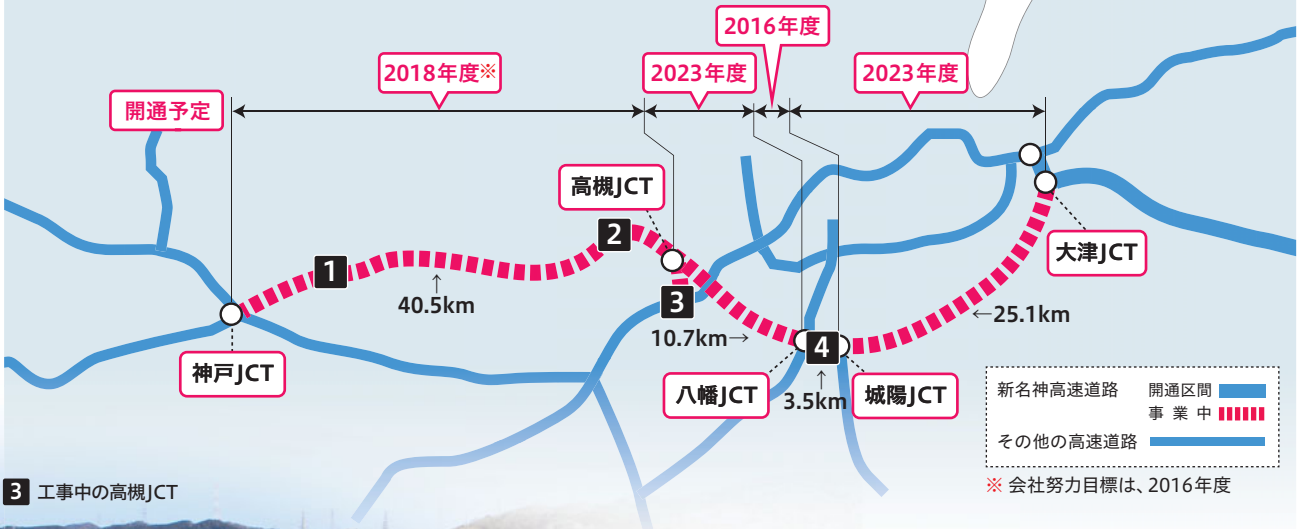
大阪府域に位置する、区間最長の箕面トンネル(上り線4,994m、下り線4,979m)においては、2015年5月末現在の掘削延長は、上り線2,539m、下り線2,756mです。



1 工事中の武庫川橋



2 工事中の箕面トンネル



3 工事中の高槻JCT



4 工事中の木津川橋

### ◆ 城陽JCT～八幡JCT

工事の最盛期を迎えています。

木津川橋の下部工につきまちは、渇水期に河川の切り替え工事を行い、工事を実施しています。

一部、上部工工事にも着手しています。

### ◆ 大津JCT～城陽JCT・八幡JCT～高槻JCT

地元設計協議を順次実施しています。一部、用地取得に着手するなど、地元の皆さまのご理解をいただきながら、着実に事業を進めています。



地元協議の様子(左:事業説明会、右:境界立会)

### 事業地域との共生

## 事業地域にある箆築用ヨシの生育環境の保全を図っています。

新名神高速道路の橋梁が横過する淀川河川敷「鶉殿ヨシ原」には、雅楽で演奏される箆築(ひちりき)の蘆舌(ろぜつ/吹き口に取り付ける薄片で西洋管楽器のリードに相当)に用いられる良質なヨシが採取されている箇所があります。

NEXCO西日本は植物学や地下水の専門家などから構成される検討会を設置し、ヨシの生育環境や生態に関する調査を実施し、知見を深めています。また、害草・害虫の駆除や保全を目的とした「ヨシ原焼き」を高速道路開通後も行えるよう、無人ヘリコプターなどを用いた調査を2014年2月に実施したほか、枯死の原因となる植物「カナムグラ」の除去を2014年3月から4月にかけて実施しました。

今後も、調査・試験を継続して実施するとともに、情報を随時発信し、十分な説明に努めていきます。



箆築(ひちりき)

## 工事が最盛期を迎えるなかで、現場見学会なども積極的に実施しています

新名神高速道路は日本の新たな大動脈として、2023年の全線開通を目指して現在全線で事業中です。このうち高槻JCT～神戸JCT間は2016年度の開通目標に向け、全区間で工事が最盛期を迎えています。昨年12月からは「なるほど! 高速道路発見」と題し、一般の方を対象とした工事現場の見学会を半年で3回開催しました。



新名神大阪西事務所 所長 兼澤 秀和


当事務所管内は高槻JCTから北摂の山間地域を主なルートとしているため、全体の建設状況が地域の皆さまの目に触れる機会が少ない現場なので、工事現場の見学者さまからは「工事規模の大きさに驚いた」「こんなに進んでいるのは知らなかった」「早く利用したい」といったお言葉をいただきます。


今後も、重大事故や巨大災害時の代替ルートとして、また通過交通の円滑化のためにも、一日でも早い開通を目指して関係者一同一丸となって取り組んでまいります。




検討会の様子

### WEB掲載情報

 事業評価委員会議事(2014年度)  
有識者の皆さまに、第三者の立場から、事業中・開通後の高速道路について、ご意見をいただいています。

 なるほど! 高速道路発見  
一般の方を対象とした、高速道路の建設現場を公開する見学会の申し込みサイトです。

 新名神高速道路 事業中区間の概要  
各工事事務所が発行している広報誌などを掲載しています。

スローガン

## みち、ひと・・・未来へ。

安全・安心・快適な高速道路が結ぶ、人と人、地域と地域。

夢ひろがるアイデアと、心のこもったサービスで新しい出会いや喜びを生み出します。

NEXCO西日本は、100年先の未来に向け技術の革新と新たな価値の創造に挑み続けます。

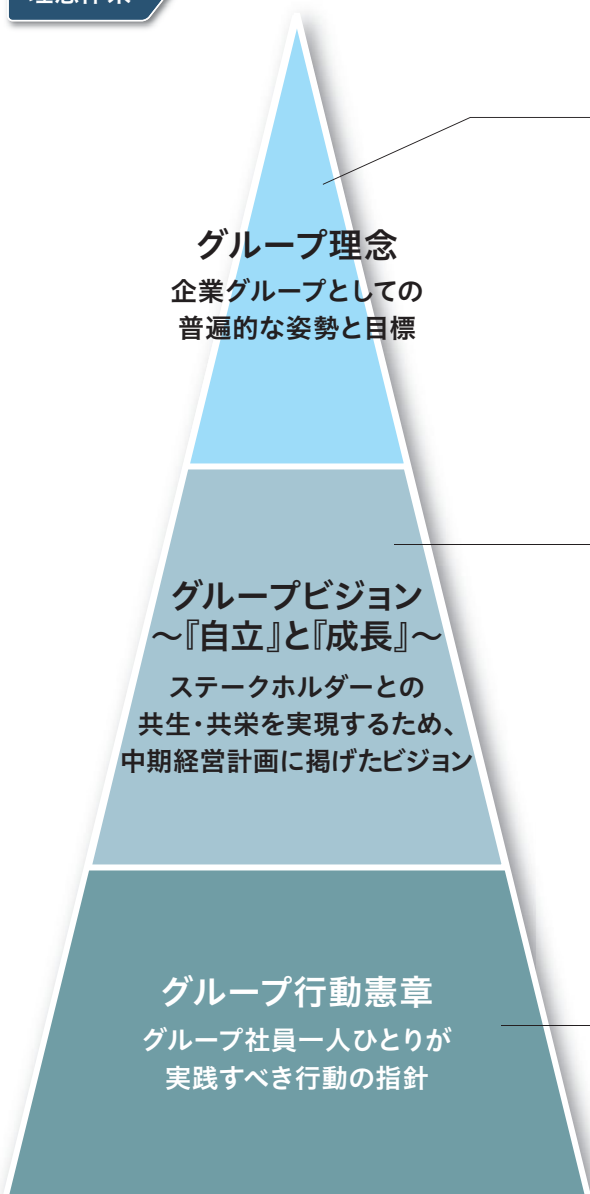
### ■3つの目指す姿

高速道路に変わらぬ安全と、  
これまでにない感動を

地域を愛し、  
地域とともに生きる

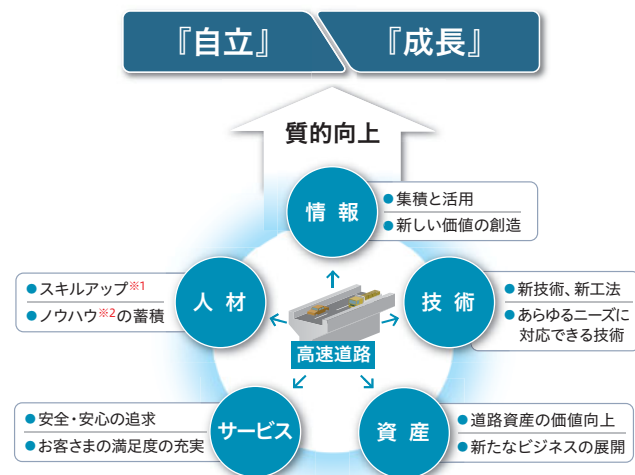
たゆまぬ技術の革新で、  
100年先の未来へ

### 理念体系



私たちはお客さまの満足度を高め、  
地域の発展に寄与し、  
社会に貢献する企業グループをめざします。

当グループは、高速道路の重要な社会インフラとしての  
使命を果たし、常に全ての活動において企業の社会的  
責任(CSR)の遂行を共通の目標とします。



※1 訓練して技能を身につけること ※2 専門的な技術や技術競争力の基となる情報・経験

### NEXCO西日本グループ行動憲章(総論) (2012年12月改訂)

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー(お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先)の信頼に応えます。

ウェブサイト「企業行動憲章」全文:

[http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/management\\_strategy/conduct.html](http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/management_strategy/conduct.html)

当社グループは、2011年度から2015年度までの5カ年を対象とした中期経営計画2015を策定しました。これは、いかなる厳しい環境・情勢下においても、社会に対してさらに大きく貢献する企業集団へと進化するため、グループ全体の取り組みの方向性を示したものです。

グループ理念を表すスローガンと経営ビジョンを具体化した中期経営計画2015の実現に向けて、社員一人ひとりが行動憲章を共有しグループ一体となってCSRを実践していきます。

ウェブサイト「中期経営計画」:  
<http://corp.w-nexco.co.jp/corporate/plan/>

ステークホルダーを起点としたCSRマネジメント



5つのステークホルダーへの約束 (2011~2015)

**お客さま**

- 時間、安全、信頼、出会い、安らぎ等の新たな価値を提案し提供します

**社会**

- 共生社会の一員として、地域と積極的に連携します
- 環境を重視して自然との共生を図ります

**投資家・国民の皆さま**

- 高速道路のネットワークバリューを創造し増大させます
- 幅広い外部との交流により高速道路の未来の可能性を追求します

**グループ社員**

- 自己と会社の持つ潜在能力やモチベーションを発揮する機会を提供します
- 高速道路の設計から保守に至る一貫した総合技術グループになります

**お取引先**

- 互いを尊重し、透明で公正な関係を構築します
- 相互に協力してお客さまの満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献します

CSR活動方針

① ステークホルダーとの対話を促進

経営の透明性を確保し説明責任を果たすとともに、ステークホルダーとの対話と交流を促進します。

② 期待を事業活動に組み込み

ステークホルダーの期待を事業活動のプロセスに組み込み、本業で企業としての責任を果たします。



③ 社会の持続的発展に貢献

これまで培ったノウハウや資源を活かして、社会が抱える課題解決に取り組み、事業の創造と、社会の持続的発展に貢献します。

マテリアリティ  
CSRの重要課題と取り組み状況

NEXCO西日本では、ステークホルダーとの対話を大切にし、そこで得られたご意見を経営に組み込みながら、事業活動に反映させていくことをCSR活動の方針としています。

また、対話で得られたご意見をもとに特定したCSRの重要課題に対して、目標を定めて取り組んでいます。

| 重要課題(マテリアリティ)   | ステークホルダーとの対話の機会(参加者) <sup>※1</sup>  | 重要である理由   | KPI・マネジメントアプローチ   |  |   |
|---|---|---|---|--|---|
|   |   |   | 管理のポイント・指標  |  |   |
| <br>お客さま         | ● お客さまセンター(高速道路利用者)<br>● SA・PAに設置した利用者向け投書コーナー「ハイウェイポスト」(高速道路利用者)<br>● CS推進オピニオンリーダー意見交換会(外部有識者)  | 高速道路での交通事故は、死傷事故など重大な事故につながります。<br><br>さらに、管理する道路の多くが建設から30年以上を経過し、補修を必要とする道路構造物が増加しています。<br><br>高速道路の円滑な交通を24時間365日確保することによって、国民生活を豊かにし、経済活動を支えることが、当社の責務です。 | 死傷事故率 <sup>※2</sup> (走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数)<br>逆走事件数 <sup>※2</sup> (交通事故または車両確保に至った逆走事案の件数)<br>人の立入事案件数 <sup>※2</sup> (高速道路上で歩行者等の保護または歩行者等がいることの通報を受けた件数)<br>快適走行路面率(快適に走行できる舗装路面の車線延長比率)<br>要補修橋梁数 <sup>※3</sup> (平成26年度に点検した橋梁の健全性区分Ⅲ・Ⅳの橋梁数)<br>総合顧客満足度(CS調査等で把握するお客さまの満足度(5段階評価))<br>年間利用台数<br>通行止め時間 <sup>※2</sup> (単位営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、事故、工事等に伴う年間のべ通行止め時間・距離)<br>本線渋滞損失時間 <sup>※2</sup> (渋滞が発生することによるお客さまの年間損失時間)<br>路上工事時間(道路1kmあたりの路上作業に伴う年間の交通規制時間) |  |   |
|   |   |   | 100%の安全・安心  | 旧日本道路公団の民営化の目的のひとつが「多様なサービスの提供」であり、高速道路機構が公団から受け継いだ債務の返済のため、高速道路の資産価値の向上とSA・PAにおける収益力の強化が求められています。 | Wi-Fiサービスの提供箇所数<br><br>ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れるゲート)新規設置数               |
|   |   |   | 快適な高速道路空間の提供  | SA・PAのお客さま満足施設への変革   | 高速道路ネットワークは、国民生活を豊かにし、経済活動を支える、基礎的な社会資本です。また、輸送コストの削減や交通事故の減少にも貢献しています。 |
| <br>社会         | ● 事業説明会(地域住民)<br>● 設計協議(地域住民)<br><br>● 包括協定・災害協力協定・連携協定(管内府県・政令指定都市、陸上自衛隊)  | 災害発生時、高速道路には、被災地域の救急・復旧・復興のインフラとしての役割が求められています。   | 災害対応力の強化  | 南海トラフ地震被害に備えての資機材の新規備蓄箇所   |   |
|   |   |   | 高速道路ネットワークの整備と機能向上  | 国民の資産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。   | 高速道路機構の債務削減   |
| <br>投資家・国民の皆さま | ● 高速道路事業アドバイザー会議(経済界・学術界の外部有識者)<br>● 事業評価監視委員会(経済界・学術界の外部有識者)<br>● 事業説明会(機関投資家)<br>● 個別投資家訪問(機関投資家)<br>● 記者会見(マスメディア)<br>● アンケート調査(コミュニケーションレポート読者) | また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。<br><br>ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。  | 透明性の高い経営と着実な債務の返済   | 不正通行発生件数(後日課金申出のあった車両を除き、通行料金を支払わず料金所を通過した車両の通行件数。ETC未課金車両を含む)                                     |   |
|   |   |   | 不正通行対策  | 社長定例会見(毎月開催)   |   |
|   |   |   | ステークホルダーとの対話・メディアを通じた情報発信   | ウェブサイトアクセス数<br>「なるほど!高速道路発見」工事現場の一般公開<br>CSR報告書での企業活動報告  |   |

※1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」(7ページ参照)を開催しています。  
 ※2 集計期間:2014年1月1日~12月31日



CSRの重要課題と取り組み状況について

サステナビリティ報告の国際的ガイドラインである「GRIガイドライン」第4版(G4)での要請に沿って、対話で得られたご意見をもとに特定したCSRの重要課題と、その取り組み状況を開示します。高速道路事業は、国民の生活に密接に係わる基本的な社会インフラであるため、関わりのあるステークホルダーも多く、CSRにおける重要課題も多岐にわたっています。

| KPI・マネジメントアプローチ                    |                                |            |                     | GRIガイドライン第4版(G4)では… |   | 関連ページ |
|------------------------------------|--------------------------------|------------|---------------------|---------------------|---|-------|
| 目標                                 | 実績                             | 次年度の目標     | 集計範囲(バウンダリー)        | 側面 (Aspect)         | 指標 (Indicator)  |       |
| 8.0件/億台km                          | 7.7件/億台km                      | 7.4件/億台km  | NEXCO西日本事業エリアの全国路線網 | 〈製品責任〉<br>顧客の安全衛生   | G4-PR1<br>安全衛生の影響評価を行い、改善を図っているものの比率                            | 29ページ |
| —                                  | 81件                            | —          |                     |                     |   | —     |
| —                                  | 1,168件                         | —          |                     |                     |   | —     |
| 95%                                | 96%                            | 97%        |                     |                     |   | 9ページ  |
| —                                  | 70橋※4<br>[0橋]<br>(1,281/6,298) | —          |                     | 〈製品責任〉<br>顧客満足度     | G4-PR5<br>顧客満足度調査の結果  | 9ページ  |
| 3.7ポイント以上                          | 3.5ポイント                        | 3.5ポイント以上  |                     |                     |   | 30ページ |
| —                                  | 957百万台                         | —          |                     |                     |   | —     |
| —                                  | 49時間・km/km                     | —          |                     |                     |   | WEB   |
| —                                  | 475万台・時                        | —          |                     | 〈経済〉<br>間接的な経済影響    | G4-EC8<br>著しい間接的な経済影響(影響の程度を含む)                                 | 30ページ |
| —                                  | 104時間/km                       | —          |                     |                     |   | 11ページ |
| —                                  | 146カ所                          | —          | WEB                 |                     |   |       |
| —                                  | 5カ所                            | —          | NEXCO西日本事業エリアのSA・PA | 〈社会〉<br>地域コミュニティ    | G4-SO1<br>事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率 | WEB   |
| 2区間<br>18km                        | 3区間<br>39km                    | —          | NEXCO西日本事業エリア       | 〈経済〉<br>間接的な経済影響    | G4-EC7<br>インフラ投資および支援サービスの展開と影響                                 | 17ページ |
| 2カ所                                | 3カ所                            | 3カ所        |                     |                     |   | 17ページ |
| 232カ所                              | 226カ所                          | 6カ所        |                     | 〈社会〉<br>地域コミュニティ    | G4-SO1<br>事業のうち、地域コミュニティとのエンゲージメント、影響評価、コミュニティ開発プログラムを実施したものの比率 | WEB   |
| 4ページ「全な経営指標」の「高速道路機構の債務残高」をご覧ください。 |                                |            | (旧道路関係 4 公団)        | 〈経済〉<br>経済的パフォーマンス  | G4-EC1<br>創出、分配した直接的経済価値  | 4ページ  |
| —                                  | 57,447件                        | —          | NEXCO西日本事業エリア       | —                   | —   | 35ページ |
| —                                  | 11回                            | —          | NEXCO西日本            | —                   | —   | 35ページ |
| 前年比<br>+5%                         | 前年比<br>+23%                    | 前年比<br>+5% |                     |                     |   | 35ページ |
| —                                  | 11回                            | 15回        | NEXCO西日本グループ        | —                   | —   | WEB   |
| 1回                                 | 1回                             | 1回         |                     |                     |   | 44ページ |

※3 平成26年7月より施行されたトンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示(平成26年国土交通省告示第426号)に基づき健全性が診断された橋梁のうち区分Ⅲ・Ⅳの割合。

※4 中段の[ ]内は健全性区分Ⅳの橋梁数。下段の( )内は平成26年度点検橋梁数/全橋梁数。

マテリアリティ  
CSRの重要課題と取り組み状況

| 重要課題(マテリアリティ)   |                          | ステークホルダーとの対話の機会(参加者) <sup>※1</sup>   | 重要である理由  | KPI・マネジメントアプローチ<br>管理のポイント・指標  |  |                 |
|---|--------------------------|--|--|--|--|-----------------|
| <br>グループ社員 | 人材の育成・ダイバーシティの推進         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員)</li> <li>● ウィメンズネットワーク (NEXCO西日本女性社員)</li> <li>● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組合員)</li> <li>● 外部講師による研修 (グループ社員)</li> </ul> | 中期経営計画に定めた「自立と成長」を実現するため、一人ひとりが仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。   | 階層・職種別研修   | 資格取得支援制度の利用者数  |                 |
|   |                          |  |  |  | 女性管理職者比率   |                 |
| <br>お取引先   | SA・PAのテナント会社との協働         | <ul style="list-style-type: none"> <li>● エリア・パートナーズ倶楽部(テナント会社)</li> </ul>  | お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのテナント会社と協働を重視しています。   | 食品衛生講習会  | 誤給油防止訓練  |                 |
|   | 公正な取引関係                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入札監視委員会 (外部有識者)</li> </ul>  | 国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。  | 防犯講習会(不当要求含む)  | 入札監視委員会の実施回数   |                 |
| <br>環境保全 | 低炭素社会の実現                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、グループ社員、専門家)</li> </ul>  | 高速道路では、自動車から大量のCO <sub>2</sub> が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められます。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境アクションプラン</li> <li>● 省エネルギーの推進</li> <li>● 創エネルギーの推進</li> </ul> | 電気使用量の抑制によるCO <sub>2</sub> 排出量の削減(道路施設の維持管理に要する電気使用量)  |                 |
|   | 循環型社会の形成                 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境アクションプラン</li> <li>● 廃棄物の発生抑制</li> <li>● 資源の循環的利用の促進</li> </ul>                                      | 高速道路の建設・管理では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。  | トンネル照明のLED化(上下線別に計上)   | 電気自動車急速充電設備の整備数 |
|   | 自然と共生する社会の推進             |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民)</li> <li>● 鶴殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民)</li> </ul> その他、必要に応じて外部委員会を設置 | 高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による影響の低減が求められています。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境アクションプラン</li> <li>● 自然環境の保全</li> <li>● 沿道環境の保全</li> </ul> | 建設発生土の有効利用率     |
|   |                          |  |  | コンクリート塊の再資源化率  | 刈草等の有効利用率  |                 |
|   |                          |  |  | グリーン調達   | 動物侵入防止対策   |                 |
|   |                          |  |  |  | 新規開通路線における高機能舗装面積  |                 |
| <br>社会貢献 | 「安全」「環境」「地球の元気」の分野での取り組み | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通安全講習会 (グループ社員)</li> <li>● 各種ボランティア活動 (グループ社員)</li> </ul>  | 社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。  | 交通安全啓発活動   | 職場周辺における清掃活動   |                 |
|   |                          |  |  |  | つなぎの森活動  |                 |

※1 上記のほか、経営改善に向けた取り組み全般にわたって、外部有識者からご意見をいただく機会として、「高速道路事業アドバイザー会議」(7ページ参照)を開催しています。  
 ※2 ハイウェイオアシスへの設置は含まない

| KPI・マネジメントアプローチ             |                           |                          |                         |                                 | GRIガイドライン第4版(G4)では…   |                                     | 関連ページ   |       |
|-----------------------------|---------------------------|--------------------------|-------------------------|---------------------------------|---|-------------------------------------|---|-------|
| 目標                          | 実績                        | 次年度の目標                   | 集計範囲(バウンダリー)            | 側面 (Aspect)                     | 指標 (Indicator)  |                                     |   |       |
| —                           | のべ<br>461回                | —                        | グループ全体                  | 〈労働慣行〉<br>研修および教育               | G4-LA9<br>従業員一人あたりの年間平均研修時間<br>(男女別、従業員区分別)   | WEB                                 |   |       |
| —                           | 169名                      | —                        | NEXCO西日本                |                                 |   | WEB                                 |   |       |
| —                           | 6.7%                      | —                        | グループ全体                  | 〈労働慣行〉<br>雇用                    | G4-LA1<br>従業員の新規雇用者と離職者の総数と<br>比率(年齢、性別、地域による内訳)<br>G4-LA2<br>派遣社員とアルバイト従業員には支給せず、<br>正社員に支給する給付(主要事業拠点ごと)<br>G4-LA3<br>出産・育児休暇後の復職率と定着率(男女別) | WEB                                 |   |       |
| 56社                         | 56社                       | 56社                      | 飲食物販テナント事業者             |                                 |   | 〈製品責任〉<br>顧客の安全衛生                   | G4-PR1<br>安全衛生の影響評価を行い、改善を図っ<br>ているものの比率<br>G4-PR2<br>規制および自主的規範の違反件数…製品<br>やサービスのライフサイクルにおいて発生<br>した、安全衛生に関する規制および自主的<br>規範の違反事例の総件数(結果の種類別) | 37ページ |
| 10社                         | 10社                       | 10社                      | 元売テナント事業者               |                                 |   |                                     |   | —     |
| 56社                         | 56社                       | 56社                      | 飲食物販テナント事業者             | 〈人権〉<br>保安慣行                    | G4-HR7<br>業務関連の人権方針や手順について研修<br>を受けた保安要員の比率   | —                                   |   |       |
| —                           | 8回                        | —                        | NEXCO西日本                | 〈社会〉<br>腐敗防止                    | G4-SO3<br>腐敗に関するリスク評価を行っている事<br>業の総数と比率、特定した著しいリスク  | 37ページ                               |   |       |
| 2011年度<br>以下に<br>抑制する       | 255.3<br>百万kWh<br>(▲3.7%) | 2011年度<br>以下に<br>抑制する    | NEXCO西日本事業エリア           | 〈環境〉<br>エネルギー                   | G4-EN7<br>製品およびサービスのエネルギー所要量<br>の削減   | 40ページ                               |   |       |
| 19本                         | 13本                       | 28本                      | NEXCO西日本事業エリア<br>のSA・PA |                                 |   | 40ページ                               |   |       |
| 80カ所※2                      | 80カ所※2                    | 16カ所                     | NEXCO西日本事業エリア<br>のSA・PA |                                 |   | 15ページ                               |   |       |
| リサイクル<br>可能なものは<br>100%を目指す | 100%                      | 80%以上                    | NEXCO西日本事業エリア           | 〈環境〉<br>原材料<br>〈環境〉<br>排水および廃棄物 | G4-EN1<br>使用原材料の重量または量<br>G4-EN2<br>使用原材料におけるリサイクル材料の割合<br>G4-EN23<br>種類別および処分方法別の廃棄物の総重量   | 40ページ                               |   |       |
|                             | 100%                      | 99%以上                    |                         |                                 |   | 40ページ                               |   |       |
|                             | 100%                      | 95%以上                    |                         |                                 |   | 40ページ                               |   |       |
|                             | 95%以上                     | 97.1%                    |                         |                                 |   | 95%以上                               | 40ページ   |       |
| 調達可能<br>なものは<br>100%を目指す    | 100%                      | 調達可能<br>なものは<br>100%を目指す | NEXCO西日本                | 〈環境〉<br>サプライヤーの環境評価             | G4-EN32<br>環境クライテリア(評価基準)により選定<br>した新規サプライヤーの比率   | WEB                                 |   |       |
| 246.1km                     | 134.1km                   | 49km                     | NEXCO西日本事業エリア           | 〈環境〉<br>製品およびサービス               | G4-EN13<br>保護または復元されている生息地  | WEB                                 |   |       |
| 679.3千m <sup>2</sup>        | 724.2千m <sup>2</sup>      | 90千m <sup>2</sup>        | —                       | —                               | —   | WEB                                 |   |       |
| —                           | のべ81回                     | —                        | NEXCO西日本グループ            | 〈地域〉<br>地域コミュニティ                | G4-SO1<br>事業のうち、地域コミュニティとのエン<br>ゲージメント、影響評価、コミュニティ開発<br>プログラムを実施したものの比率   | 41ページ                               |   |       |
| —                           | のべ1,674回                  | —                        |                         |                                 |   | WEB                                 |   |       |
| —                           | 4カ所<br>のべ8ha              | —                        |                         |                                 |   | NEXCO西日本管内<br>実施箇所<br>(全7カ所のべ100ha) | 41ページ   |       |

# コーポレート・ガバナンス（企業統治）

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

## ▶ コーポレート・ガバナンス

### ガバナンス体制

- ▶ [社外取締役・社外監査役を選任し、経営の健全性・透明性の確保に努めています](#)

### グループ行動憲章

- ▶ [「NEXCO西日本グループ行動憲章」のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています](#)

### 経営改善の推進

- ▶ [経営改善推進会議を設置し、議論しています](#) **WEB**

## ▶ コンプライアンス

### コンプライアンス委員会

- ▶ [コンプライアンス委員会を設置し公正で透明性の高い企業活動を実践しています](#)

### グループ会社・支社でのコンプライアンス推進

- ▶ [経営交流会議を中心にグループ全体でコンプライアンスの向上に取り組んでいます](#) **WEB**

### 社員への浸透推進

- ▶ [社員一人ひとりへの浸透に努めています](#) **WEB**

### 内部通報窓口の設置

- ▶ [社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています](#)

## ▶ リスクマネジメント

### リスクマネジメント

- ▶ [経営リスク管理委員会を設置しリスクマネジメントに取り組んでいます](#)

## ▶ 情報セキュリティ

### 情報セキュリティの強化

- ▶ [情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます](#)

## ▶ 人権の尊重

### 基本方針と推進体制

- ▶ [人権問題啓発推進会議を設置し毎年、活動を見直しています](#)

### 啓発活動

- ▶ [人権を尊重した明るい職場づくりに努めています](#)

**WEB**

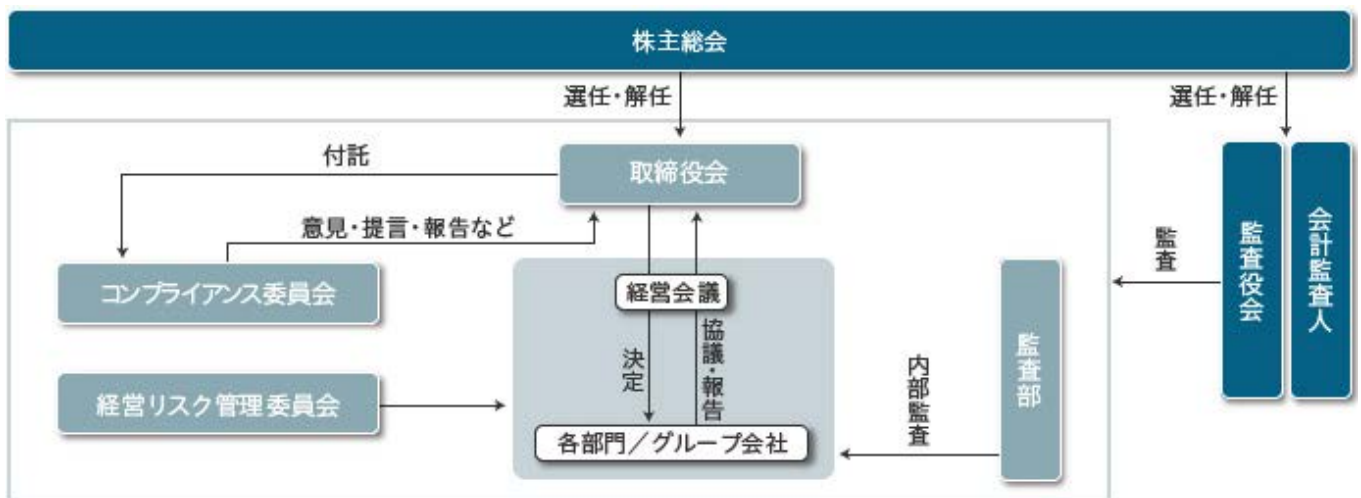
## コーポレート・ガバナンス（企業統治） コーポレート・ガバナンス

NEXCO西日本では、グループの事業執行における迅速な意思決定、効率的な経営を目指し、[ステークホルダー](#) の方々から支持と信頼をいただくために、[コーポレート・ガバナンス](#) の充実を図ることが最重要課題のひとつであると認識しています。

そのため、経営の意思決定、業務執行、さらにはグループガバナンス、情報開示などについて適切な体制を構築し、経営の健全性、効率性および透明性を確保しています。

### ガバナンス体制

#### ▼コーポレート・ガバナンス体制図



社外取締役・社外監査役を選任し、経営の健全性・透明性の確保に努めています

当社においては、重要な業務執行に関する事項を決議するため、原則月1回取締役会を開催しています。あわせて経営に関する重要な事項について協議等し、情報共有を行うため経営会議を開催しています。監査役はこれらの重要な会議に参加し、取締役の職務執行を監査し、監査役会では監査実施のための必要な決議を行っています。

また、さらなる経営の監督・監査の強化を目的として、社外取締役・社外監査役を選任し、社外における豊富な知識・経験を当社の経営・監査業務に活かすことで、経営の健全性・透明性の確保に努めています。

さらに、コーポレート・ガバナンスを充実させ、業務を適正かつ効率的に遂行するため、[コンプライアンス](#) 委員会や経営リスク管理委員会を設置しています(後述)。

- 取締役会：取締役と監査役が出席し、原則月1回開催しています。法令および定款で定められた事項、その他重要な業務執行に関する事項を決議しています。
- 経営会議：取締役と執行役員等が出席し、原則月2回開催しています。経営に関する重要な事項等について協議または報告され、社内での情報共有が行われています。
- 監査役・監査役会：監査役は取締役会や経営会議などの重要な会議に出席し、取締役の職務執行を監査しています。さらに、監査役会を原則月1回、その他必要に応じて随時開催し、監査実施のために必要な決議などを行っています。社外監査役として、4名を選任しています。
- 監査部：業務が適法かつ効率的に実施されているか、独立の社内組織として内部監査を実施しています。
- 会計監査人：期末のみならず期中においても監査を実施し、会計の適正さを確保しています。

■ 関連ページ

▶ [有価証券報告書\(「コーポレートガバナンスの状況」ページを参照\)](#) 

## グループ行動憲章

「NEXCO西日本グループ行動憲章」のもと、公正かつ透明性の高い企業活動に努めています

グループで目的と将来展望を共有し、成長することを目指し、私たち一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することが基本であるとの認識のもと、グループの役員および従業員がさまざまな局面で実践すべき指針として、「NEXCO西日本グループ行動憲章」を制定し、その実現に向けてグループが一体となって取り組んでいます。

■ 関連ページ

▶ [NEXCO西日本グループ行動憲章](#) 

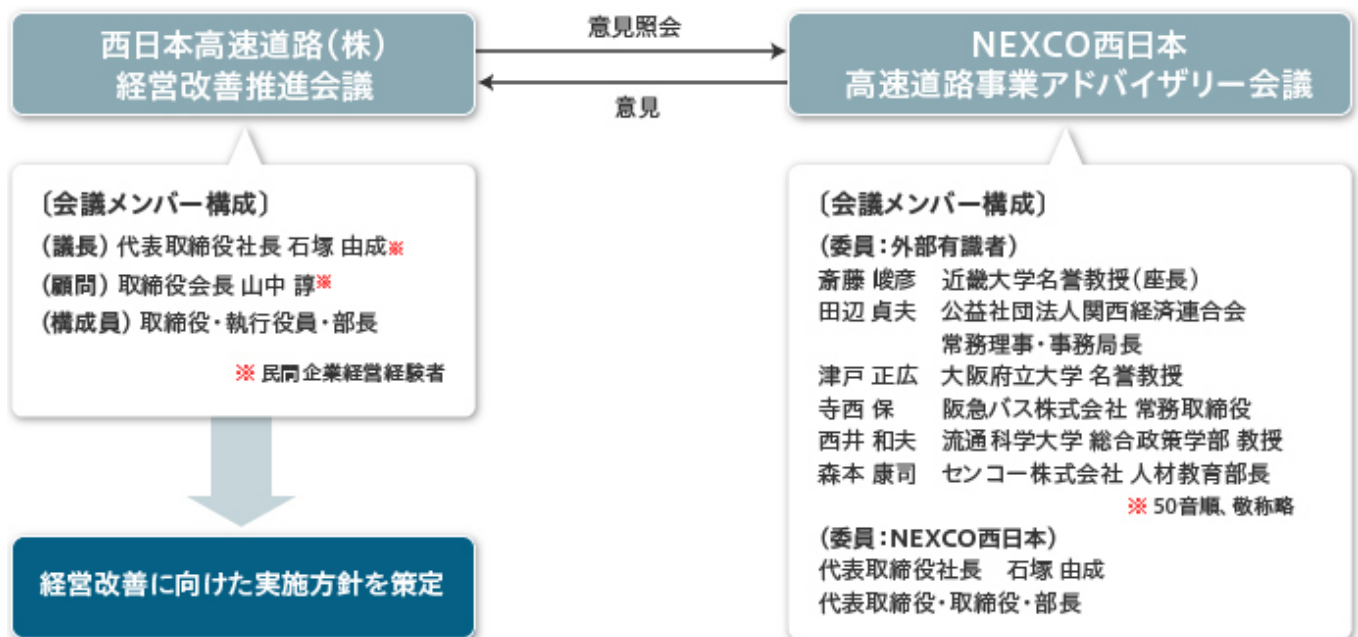
## 経営改善の推進

経営改善推進会議を設置し、議論しています

2013年1月に経営層メンバー(民間企業経営経験者を含む)を中心に「経営改善推進会議」を設置し、民営化後の経営改善の成果を確認するとともに、今後取り組むべき経営改善について議論しています。

また、「[高速道路事業アドバイザー会議](#) 


### ▼経営改善推進会議の運営体制



## コーポレート・ガバナンス（企業統治） コンプライアンス

### コンプライアンス委員会

コンプライアンス委員会を設置し公正で透明性の高い企業活動を実践しています


グループ行動憲章のもと、外部委員（3名）を含む[コンプライアンス](#)  委員会を設置し、外部の知見を活用して公正かつ透明性の高い企業活動の実践に努めています。同委員会は原則年2回開催することとしており、当社グループ全体のコンプライアンスの向上に向けた意見やアドバイス等をいただいています。

#### ■ 関連ページ

▶ [コンプライアンス委員会議事要旨](#) 

### グループ会社・支社でのコンプライアンス推進


経営交流会議を中心にグループ全体でコンプライアンスの向上に取り組んでいます

2014年度は、すべてのグループ会社の社長が出席する「経営交流会議」（年2回開催。2014年度は、7月と2015年1月）において、当社グループとして[コンプライアンス](#)  の向上を目指すための議論や情報交換が行われました。

また、当社の支社等が中心となって、地域ごと（関西・中国・四国・九州・東京の5ブロック）に当社グループのコンプライアンス担当者が集う「コンプライアンス地区ブロック会議」を開催することにより、緊密な連携を図っています。

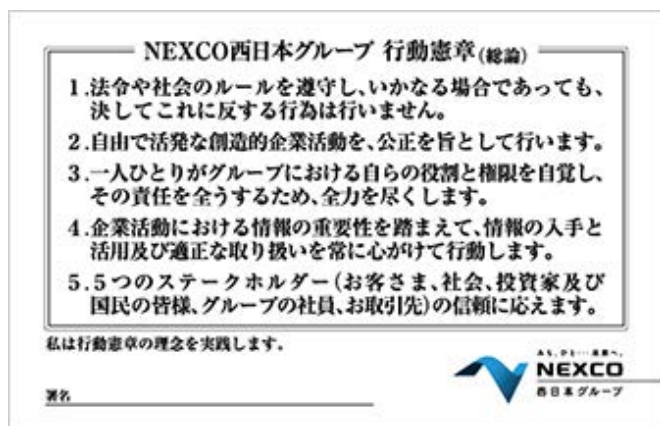
### 社員への浸透推進

社員一人ひとりへの浸透に努めています

当社においては、10月を企業倫理月間と定めています。2014年度は、各職場でミーティングを開催し、全社員の約9割にあたる約2,000人が参加して、[コンプライアンス](#)  について意見を交換しました。また、社員一人ひとりが自らの行動を振り返るためのアンケートを、グループ会社にも拡大して実施しました。

また、当社の全社員に「コンプライアンス・ハンドブック」を配布するとともに、社内LANを活用してコンプライアンスに関するメールマガジン「COMPASS」を年4回配信しています。



そのほか、新入社員を対象とした研修や、中堅社員や管理職社員を対象とした各種階層別研修においてもコンプライアンスの向上に向けた講義を実施、グループ会社への出張研修、コンプライアンスカードを配布するなど意識啓発に取り組みました。



コンプライアンスカード

## 内部通報窓口の設置

社内外にコンプライアンス通報・相談窓口を設けています

[公益通報制度](#)  として、法令、社内規定、さらには企業倫理等に照らして、グループ各社の業務運営や役員・社員の行動に疑問を感じた時などに、通報や相談を受け付ける「[コンプライアンス](#)  通報・相談窓口」を設けています。窓口は、社内窓口のほかに、外部窓口(弁護士)を4地区に設置し、広くグループ全体の案件に対応しています。

また、通報者を保護するため、関係者の守秘義務を徹底しており、通報者への連絡が可能な場合は、その結果を通報者に回答しています。



## コーポレート・ガバナンス（企業統治） リスクマネジメント

### リスクマネジメント

経営リスク管理委員会を設置しリスクマネジメントに取り組んでいます

経営リスク管理委員会を設置し、リスク対策が常に適切に実施されるよう検証・分析しています。委員会においては、新たなリスクの抽出や予防措置の評価、リスク発現時の適切な情報提供の検証等を行い、[リスクマネジメント](#)の強化を図っています。

なお、グループ会社においても同様のリスクマネジメント体制を構築し、グループ内で情報共有するとともに、指導・監督を行っています。

#### ▼リスク管理体制図

##### 〈経営リスク管理委員会〉

委員長:社長

構成員:全取締役、監査役(常勤)、全執行役員、全支社長

##### (分科会)

- 広報
- CS
- 情報セキュリティ
- 人事・労務
- 海外事業
- 総務・法務
- 財務
- 技術
- 保全サービス事業
- 建設事業
- 入札契約
- 事業開発
- グループ会社管理

# コーポレート・ガバナンス（企業統治） 情報セキュリティ

## 情報セキュリティの強化

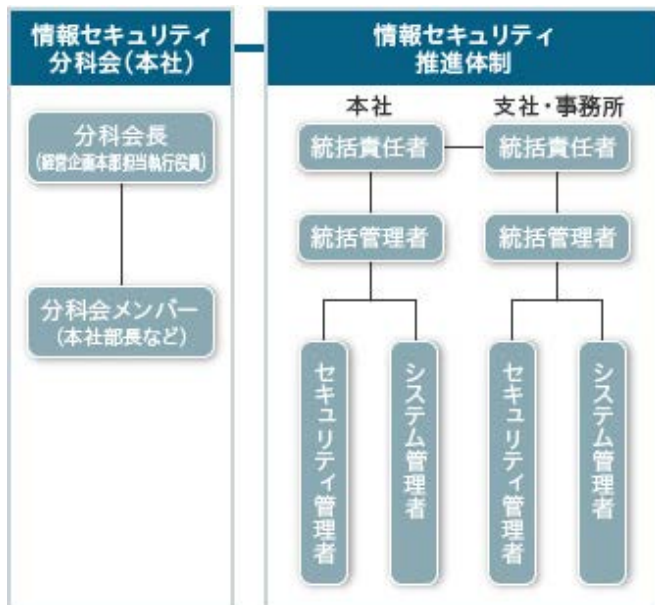
情報漏えい・システム障害対策とともに情報セキュリティ意識の向上に取り組んでいます

情報漏えいを未然に防止するため、利用者認証、アクセス制限などの不正アクセス対策、ウイルス対策、外部メール誤送信対策を強化しています。また、社内ネットワーク回線・機器のバックアップ体制を整えるなど、システム障害への対策も徹底しています。

さらに、全社員を対象とした「[情報セキュリティ](#)」自己検査」を年1回実施しています。結果は、個々の社員にフィードバックすると同時に、各職場での啓発にも活用し、全社員が日常業務で適切に情報資産を管理するよう努めています。

また、月に2～3回「情報セキュリティにご注意シリーズ」のメールマガジンを発行し、注意喚起を行っています。

### ▼情報セキュリティ推進体制



## コーポレート・ガバナンス（企業統治） 人権の尊重

### 基本方針と推進体制

人権問題啓発推進会議を設置し毎年、活動を見直しています

当社グループでは、社会・社員の信頼に応えるべく、「人権問題啓発推進の基本方針」を制定して、当社グループが一丸となって人権尊重・人権啓発に取り組むことを宣言しています。また、本社および支社に「人権問題啓発推進会議」を設置して、当年度の人権啓発活動を統括するとともに、次年度の活動計画を審議しています。

2014年度は社員研修や社内報、メールマガジンの発行を通じて、人権啓発活動に取り組みました。また、グループ会社に対しても、出張研修などを実施しました。

2015年度も引き続き、活動を継続していきます。

#### 人権問題啓発推進の基本方針（NEXCO西日本グループ）

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」（世界人権宣言）との認識のもと、私たちは、一人ひとりの人権を尊重し、あらゆる差別をなくすために人権問題の啓発に取り組み、企業としての社会的責任を果たしていきます。

- ・ 人権尊重の意識を常に持ち、誠実・公正に行動します。
- ・ 人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図るため、啓発活動を推進します。
- ・ 人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めます。

### 啓発活動

人権を尊重した明るい職場づくりに努めています

当社グループでは、人権を尊重し、差別をしない、させない、許さない、見て見ぬふりをしない明るい職場づくりに努めています。

2014年度は、近年「いじめ、嫌がらせ」に関する労働相談が増加している等の社会的状況や、社内で実施した意識調査等の傾向を踏まえて、[パワーハラスメント](#) を社内研修での重点テーマとしました。



## お客さま

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### 100%の安全・安心

#### ▶ 老朽化した高速道路の計画的な保全

道路構造物の更新・修繕

- ▶ [「保全事業システム推進5箇年計画」のもと、点検から補修に至る一連の業務サイクルを確実に実施しています](#) **WEB**

道路付属物の更新・修繕

- ▶ [照明や情報板など道路付属物の更新・修繕を計画的に実施しています](#) **WEB**

#### ▶ 交通安全の確保

交通安全対策アクションプラン

- ▶ [ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています](#)

さまざまな交通安全対策

- ▶ [水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装](#) **WEB**
- ▶ [夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク](#) **WEB**
- ▶ [カーブ区間での安全対策の強化](#) **WEB**
- ▶ [ガードレールの連続化](#) **WEB**
- ▶ [逆走防止対策](#) **WEB**

DRIVE & LOVE

- ▶ [幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています](#)

#### ▶ 高速道路交通の管理

高速道路のパトロール

- ▶ [24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています](#)

法令違反車両の取り締まり

- ▶ [道路損傷や重大事故を防ぐため、取り締まりを徹底しています](#) **WEB**

#### ▶ 災害に強い高速道路づくり

耐震補強

- ▶ [災害発生時の重要なインフラである高速道路が継続して利用できるよう、対策を進めています](#)

集中豪雨対策

- ▶ [豪雨発生時に備えた災害対策を強化しています](#) **WEB**

斜面災害防止技術の研究開発

- ▶ [無線センサを活用した斜面災害防止検知技術の実用化を進めています](#) **WEB**

#### ▶ 新技術の導入・研究開発

産学連携の推進

- ▶ [新技術の早期実用化に向け、連携を推進しています](#)

## 新技術による点検・補修

- ▶ [より客観的かつ精度の高いデジタルカメラによる点検を導入しています](#) **WEB**
- ▶ [防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています](#) **WEB**

## 研究開発中の新技術

- ▶ [「あと施工アンカーボルト」の変状を調べる非破壊検査技術の研究開発を進めています](#) **WEB**
- ▶ [維持管理費用の低減や安全性向上につながる超高耐久橋梁を開発しています](#) **WEB**

## 快適な高速道路空間の提供

### ▶ 交通渋滞の緩和

#### 交通容量の確保

- ▶ [ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています](#)

#### 一部拡幅工事・ネットワーク強化

- ▶ [阪和自動車道や京滋バイパスの一部拡幅工事などに取り組みました](#) **WEB**

#### 渋滞予測情報の提供

- ▶ [さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています](#) **WEB**

#### 集中工事の実施

- ▶ [工事の集約化により渋滞の軽減に努めています](#) **WEB**

### ▶ 道路交通情報

#### 道路管制センター

- ▶ [情報の集約・発信基地として、お客さまの安全確保に努めています](#)

#### ウェブサービス「アイハイウェイ」

- ▶ [道路状況が事前にチェックできるウェブサービス「アイハイウェイ」を提供しています](#) **WEB**

### ▶ お客さまサービスの向上

#### 料金所での接客サービスの向上

- ▶ [笑顔と挨拶による接客を基本に総合的なサービス向上に努めています](#)

#### ETCの利便性向上

- ▶ [入口ETCレーンの複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています](#)

#### CS推進本部会議

- ▶ [経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています](#)

#### お客さまセンター

- ▶ [高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています](#) **WEB**

#### お客さまの声対応プロセスの明確化

- ▶ [お客さまの声への対応・改善状況を共有・フォローできる仕組みを整備しています](#) **WEB**

#### お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

- ▶ [お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています](#) **WEB**

#### CS推進オピニオンリーダー意見交換会

- ▶ [意見交換会を開催し、各界の有識者からさまざまな立場で意見をお聞きしています](#) **WEB**

#### CS意識の向上

- ▶ [CS意識向上のため、研修やCS推進大会を実施しています](#) **WEB**

お客さまの声の状況

- ▶ [約48万件のお客さまの「声」をいただきました](#) **WEB**

## SA・PAのお客さま満足施設への変革

### ▶ 新メニューの開発

「モテナス」オリジナル商品の開発

- ▶ [NEXCO西日本グループの直営店舗\(53カ所\)で、オリジナルメニューを開発しています](#) **WEB**

### ▶ ドライブの拠点機能

インフォメーション

- ▶ [海外からのお客さまへの対応を充実させています](#)

Wi-Fi サービス

- ▶ [フリーWi-Fiサービスの提供を開始しました](#) **WEB**

シャワーステーション

- ▶ [長距離をドライブされるお客さま向けに、シャワーステーションを設置しています](#) **WEB**

### ▶ お客さま・地域との交流

イベントの実施

- ▶ [「パヴァリエ」として運営する3つのSAでイルミネーションを実施しました](#)

ウェルカムゲート

- ▶ [一般道からもSA・PAに立ち寄れる出入口を整備するとともに、地域の方向けのイベントを実施しています](#)

**WEB**



## お客さま 老朽化した高速道路の計画的な保全

### 道路構造物の更新・修繕

「保全事業システム推進5箇年計画」のもと、点検から補修に至る一連の業務サイクルを確実に実施しています

老朽化の進行に対応するため、2013年度から開始した「[保全事業システム](#)」の推進5箇年計画に基づき、橋梁等道路構造物および標識等道路付属物の点検とともに第三者被害防止対策に取り組んでいます。

具体的には、橋梁やトンネルなどの道路構造物からのコンクリート片のはく落によって、第三者への被害が想定される箇所においては、コンクリート面へ繊維シートを張り付けたり、剥落防止ネットを設置したりするなどの対策を実施しています。なお、新設の橋梁においても、建設初期段階から対策を実施することで、剥落防止を図っています。

このほか、高速道路をまたぐ[跨道橋\(OV\)](#)の点検・補修にあたっては、地方公共団体、鉄道事業者等の管理者と情報を共有し、構造物の老朽化対策を促進するための協議会を設立し、計画的に点検・補修を実施するために協議調整を重ねています。2014年度には164の跨道橋について点検・補修を実施しました。

### 道路付属物の更新・修繕

照明や情報板など道路付属物の更新・修繕を計画的に実施しています

高速道路の多種多様な設備が故障し、高速道路の運用に支障が生じる事態を未然に防止するため、点検～判定・評価～補修～経過観察までの[PDCAサイクル](#)を構築し、計画的な更新を行っています。

また、第三者被害の防止の観点から、ワイヤー等による落下防止対策の実施、第三者被害が想定される範囲外へ設備の移設を計画的に実施しています。

特に[ジェットファン](#)については、従前から設置している吊金物で強度を有していますが、さらに吊金物を増やし、第三者被害の防止に努めています。

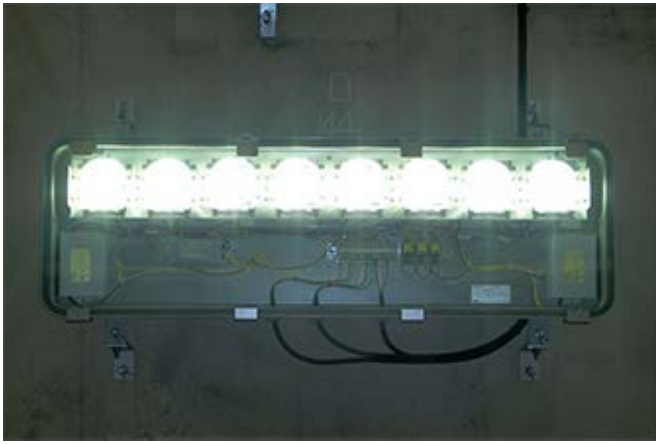
このほか、老朽化更新に併せて、LED照明や[マルチカラー情報板](#)など最新の設備を導入し、省エネや視認性の向上にも取り組みました。



ジェットファン



監視カメラ



LED照明灯具



マルチカラー情報板

---

□ [関連ページ](#)

- ▶ [特集1 高速道路の長期保全](#)





## お客さま 交通安全の確保

### 交通安全対策アクションプラン

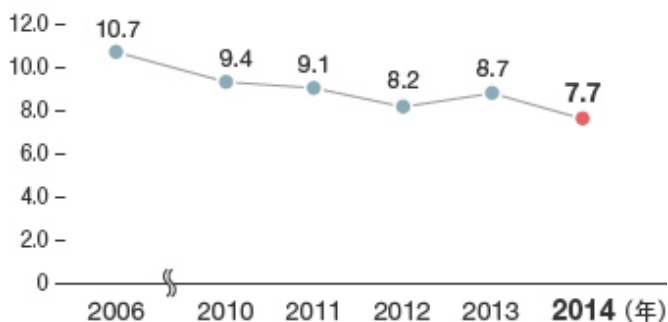
ハード・ソフト両面の交通安全対策を継続しています

2011年度に策定した「[交通安全対策アクションプラン](#)」を軸に、ハード・ソフト両面から交通安全対策を強化しています。

ハード面では、視認性向上・速度抑制などの対策を、2013年度末までに管内301カ所で完了しました。さらに2014年度に管内33カ所で追加対策を実施しました。ソフト面では、[プローブ情報](#) から車両の挙動や速度を算出し、[ヒヤリハット](#) 箇所の抽出や旅行時間の精度向上などにつなげ、より高精度な情報提供に向けての取り組みを継続しています。

これらの結果、死傷事故率は、2006年度の10.7件／億台kmから2014年度は7.7件／億台kmと全体的に減少傾向にあります。今後、「アクションプラン」の効果を検証し、さらなる安全の実現に努めていきます。

#### ▼高速道路の死傷事故率



### さまざまな交通安全対策

#### 水しぶきが減り、すべりにくい高機能舗装

高機能舗装は一般的な舗装に比べ、車が巻き上げる水しぶきが減り視認性が向上します。また、[すべり摩擦係数](#)が高くなるため、雨天時の走行安全性の向上や交通事故の防止にも有効です。



向かって右側の車線が高機能舗装

## 夜間や雨天時の視認性を向上させる高輝度レーンマーク

一般的なレーンマーク(路面標示)よりも反射輝度が高い「高輝度レーンマーク」によって、夜間や雨天時の視認性を向上させることで、車両逸脱を抑制する注意喚起を行っています。



高輝度(凹凸)レーンマーク

## 走行速度を抑制する導流レーンマーク、薄層舗装

車線の幅を狭く見せる効果のある導流レーンマークによって、速度抑制を促しています。また、舗装表面に塗装によるわずかな段差を設け、走行車両に振動を与える薄層舗装 [□](#) によって、漫然運転を抑制する注意喚起を行っています。



路面を横断している赤色の線が薄層舗装

## カーブ区間での安全対策の強化

カーブ区間などの道路線形を事前にお知らせし、速度抑制及び視認性向上の対策を実施しており、カーブ区間における事故対策を行っています。



矢羽板の施工例

## ガードレールの連続化

コンクリート壁(壁高欄)とガードレールの前面が不連続な防護柵について、管内の約1,700カ所で連続化の対策を実施し、2014年度末までに完了しました。



ガードレールの連続化の施工例

## 逆走防止対策

逆走事故を防止するために、高速道路の本線・休憩施設内、IC等のランプ合流部に進行方向を矢印で表示する矢印路面標示、また、ゼブラゾーン(導流表示)内にポストコーン(視線誘導標)を設置するなどの対策を進めています。2014年度は、16カ所で矢印路面標示の大型化や注意喚起看板の視認性の向上(高輝度化)等を実施しました。

ポスターやチラシ、交通安全キャンペーンを活用した啓発活動も実施しています。



本線合流部の例(16カ所の施工例)

## DRIVE & LOVE

幅広い企業・団体や個人と連携し、交通事故ゼロを目指す活動を推進しています

社会全体で交通事故ゼロを目指すプロジェクト「[DRIVE&LOVE](http://drive-love.jp)」を2010年に立ち上げ、230を超える賛同企業・団体、約21,600名の個人サポーターの皆さまとともに、「愛する人、思い出してから運転」の実践を呼びかけています。

2014年度においては、各種交通安全啓発イベントへの参加、公式ウェブサイトでの情報発信のほか、賛同企業・団体との交流会を開催し全国各拠点でのPR協力を求めるなど、プロジェクトのさらなる認知の拡大・理念の浸透に向けて、活動を推進しました。





交通安全イベントにPRブースを出展



プロジェクトメンバー交流会

---

□ 関連ページ

▶ [「DRIVE&LOVE」公式ウェブサイト](#) 



## お客さま 高速道路交通の管理

### 高速道路のパトロール

24時間365日の高速道路巡回を通じて、道路の安全と円滑な交通を確保しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、NEXCO西日本グループのパトロール会社が、「交通管理隊」を組織し、高速道路を24時間365日体制で巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の発生状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してドライバーに迅速に発信しています。また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの安全で快適なドライブをサポートしています。



交通管理隊



管理隊の巡回

### 社員コメント



#### NEXCO西日本パトロール関西

高速道路を見続けているからこそ「気づき」を大切に、お客さまの安全をサポートします

24時間高速道路を見続けている交通管理隊だからこそ、些細な道路の変化にも「気づく」ことを大切にしています。そのためにも、常に目的意識と問題意識を持ちながら、パトロールを行うよう努めています。

後を絶たない道路上の落下物への乗り上げ事故については、落下原因のひとつである不適切な荷物の積載方法を是正していただくよう、事故の多い時間帯や区間を選定して啓発・指導を行うなど、事故削減に向けた取り組みを強化しています。落下物等を発見された際は、緊急ダイヤルやお客さまセンターにご連絡ください。お客さまからの情報が、高速道路を利用される多くのお客さまの安全につながりますので、ご協力をお願いします。



福崎基地 隊長  
河野 博紀

## 法令違反車両の取り締まり

道路損傷や重大事故を防ぐため、取り締まりを徹底しています

通行可能な**車両諸元** の最高限度値や長大トンネル等を通行する際に積載できない危険物などは、法令等で定められています。こうしたルールを守っていただくため、専門の取締隊(車限隊)が、入口料金所、本線料金所等で、**軸重計**、車高計、車重計等の機器を使用して違反車両と違反内容を特定し、指導警告や積荷是正命令など行っています。

違反の程度が甚だしい場合は、道路管理者(**高速道路機構**)が発行する「Uターン」や「次のインターから退出」、さらには悪質な場合は積荷の軽減等を命じる措置命令書をドライバーに手交しています。今後も警察や他の道路管理者等と連携し、道路損傷や重大事故につながりかねない法令違反車両の取り締まりを徹底していきます。



法令違反車両の取り締まり



交通管理隊による車幅測定の風景

### ■ 関連ページ

- ▶ [特集1・高速道路の長期保全](#)



## お客さま 災害に強い高速道路づくり

### 耐震補強

災害発生時の重要なインフラである高速道路が継続して利用できるよう、対策を進めています

高速道路は、地震などの自然災害の発生時に、人命救助や災害応急対策に必要な物資や資機材などを広域的に緊急輸送するための、極めて重要なインフラと位置付けられています。

当社では、災害に強い道路を目指して、橋脚に繊維シートや鋼板を巻き付けるなど、靱性・強度を高める耐震補強を実施してきました。今後、さらなる耐震補強を推進してまいります。



耐震補強工事を計画的に実施しています

### 集中豪雨対策

豪雨発生時に備えた災害対策を強化しています

2014年度は、豪雨による路面冠水の被害が予測される阪和自動車道および第二神明道路北線の2カ所について、冠水注意看板や水位計一体型情報板の設置などの対策を完了しました。

また、近年増加傾向にある局地的大雨や集中豪雨など短時間のうちに急変する気象リスクへの対応を強化するため、気象会社との共同研究を継続し、気象予測精度向上にも取り組んでいます。

### 斜面災害防止技術の研究開発

無線センサを活用した斜面災害防止検知技術の実用化を進めています


高速道路上で発生している地盤災害の中でも突出して多いのが、降雨による斜面の崩壊です。

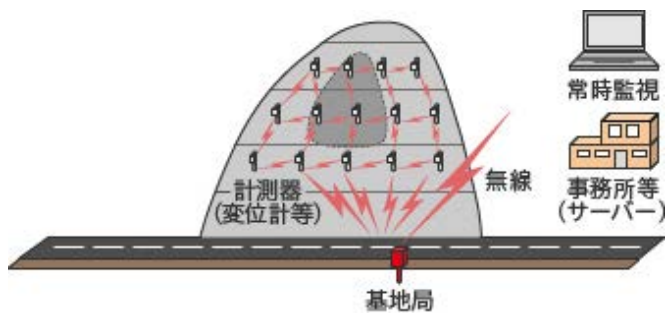
そこで当社では、設置・撤去・メンテナンスが簡単な無線センサで斜面の土の含水量や地下水位などをモニタリングするシステムの開発に取り組んでいます。このシステムで表層崩壊のメカニズムが明らかになれば、対策を実施すべきカ所の抽出や災害予測、降雨による通行止めの解除の判断の精度向上が期待されます。

2014年度は、管内9カ所で土壌水分や地表面変位を観測し、降雨や土質条件の違いが地盤の安定・不安定化に与える影響について分析を行いました。今後も引き続き観測を継続し、データの蓄積、分析を行う予定です。

さらに2015年度は、道路管理者にとって利用しやすい監視方法や、通行止めの解除の精度向上に向けて、引き続き検討を進めていきます。

現在、無線センサを試験的に設置して観測を進めており、2015年度からの本格運用を目指しています。

▼無線センサを活用したのり面  監視の仕組み



---

 関連ページ

- ▶ [社会・災害対応力の強化](#)





## お客さま 新技術の導入・研究開発

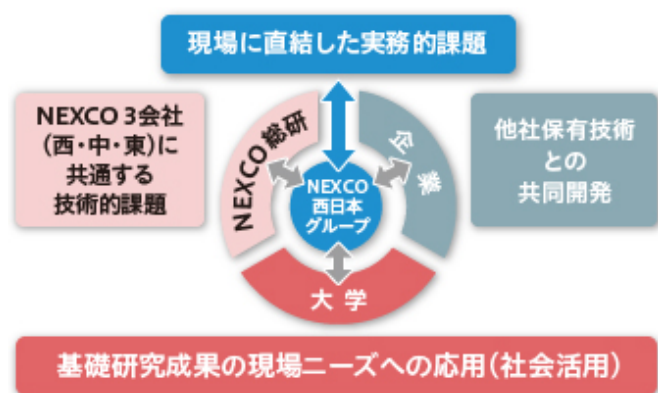
### 産学連携の推進

新技術の早期実用化に向け、連携を推進しています

当社の現場ニーズと大学の高度な基礎技術とをマッチングさせ、研究成果の早期実用化を図るため、大学との研究連携を推進しています。

また、大学に共同研究講座などを設け、実務に適用できる技術の開発の促進やスペシャリストの育成に取り組んでいます。

#### ▼産学連携による技術交流



### 新技術による点検・補修

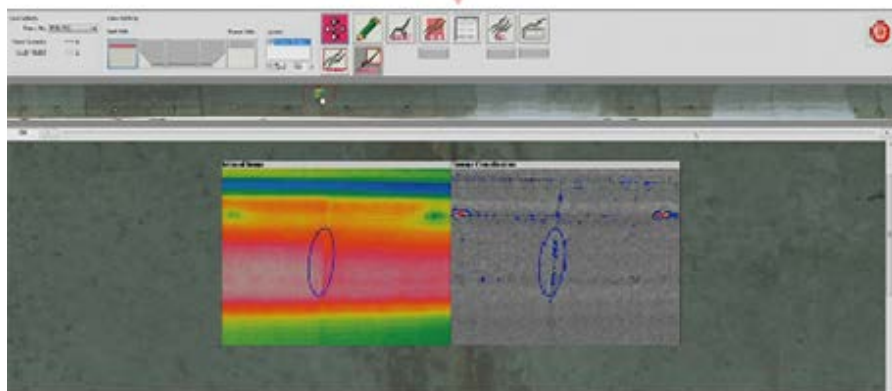
より客観的かつ精度の高いデジタルカメラによる点検を導入しています

橋梁の点検は、近接目視を主とした方法で実施されてきましたが、それだけでは損傷の進行状況の客観的な把握が困難なうえ、点検者の熟練度により結果が変わってしまう可能性もありました。

そこで当社では2012年度から、デジタルカメラを用いた超高精細画像の撮影およびデジタル画像処理技術を用いて、コンクリート構造物の損傷状況を客観的に把握する点検手法を導入し、信頼性向上に努めています。

#### ▼デジタルカメラによる点検

- ・近接目視と同程度の精度でひび割れ認識が可能
- ・0.2mm幅以上のひび割れを自動検出
- ・画像データの蓄積が可能、劣化予測の高度化に貢献



デジタルカメラの撮影データからひび割れを検出

防食・防錆に有効な金属溶射を用いた補修を進めています

路面からの漏水が原因で腐食が起こりやすい鋼橋の橋桁の末端部の劣化を防止するため、「金属溶射技術」を開発し、補修に用いています。本技術は、溶融したアルミニウム・マグネシウム合金などを圧縮空気で吹き付けて金属被膜を形成するもので、防食・防錆に有効だけでなく、橋桁の末端部のような狭い箇所でも施工が可能です。

2014年度は、約50カ所で本技術を用いた補修を実施しました。



金属溶射作業の様子



金属溶射前



金属溶射後

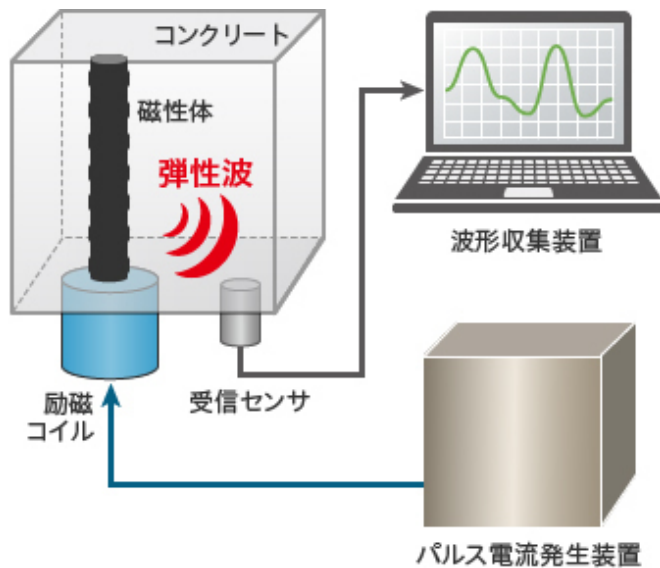
## 研究開発中の新技術

「あと施工アンカーボルト」の変状を調べる非破壊検査技術の研究開発を進めています

標識等の道路附属物を固定する「あと施工アンカーボルト」の変状を、簡易に点検しかつ精度よく診断する、新たな非破壊検査技術について研究開発しています。

本技術は、電磁パルス法を用いてアンカーボルトの固着部における劣化等の不具合や欠陥を発見するものです。点検に導入できれば、信頼性の高い維持管理の実現につながるとともに、調査から得られる情報を定量的に記録蓄積することで継続的なモニタリングが可能となります。現在、導入に向け現地で適用試験を実施中です。

#### ▼電磁パルス法の原理



維持管理費用の低減や安全性向上につながる超高耐久橋梁を開発しています

塩害による構造物の劣化やコンクリート片のはく落を防止するために、三井住友建設(株)と共同で、PC鋼材や鉄筋を一切使わないプレストレスト・コンクリート構造の橋梁「Dura-Bridge」を研究開発しています。

今後は、建設コストを最適化できる橋梁の形状を研究するとともに、工事用道路などに試験的に設置し、車両の通行による実際の挙動を検証したうえで、本格的に導入していく予定です。また、この研究成果を応用し、床版取替などの更新用部材として適用することも検討しています。

#### ▼Dura-Bridge



- ・塩害による構造物の劣化を防止→維持管理費用の低減
- ・コンクリート片のはく落を防止→安全性の向上

#### ■ 関連ページ

▶ [特集1 高速道路の長期保全](#)



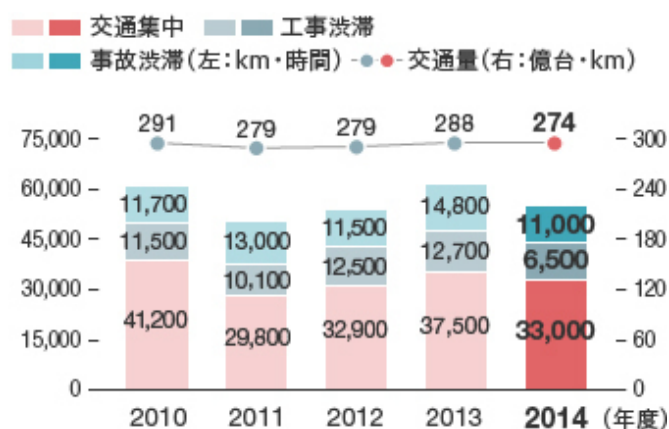
## お客さま 交通渋滞の緩和

### 交通容量の確保

ソフト・ハード両面の渋滞緩和対策を推進しています

高速道路の渋滞を緩和するため、ほかの道路とのネットワーク形成による交通の分散や車線の増設、文字情報などの提供による速度低下抑制など、ソフト・ハード両面の対策に取り組んでいます。

#### ▼高速道路における渋滞状況



### 一部拡幅工事・ネットワーク強化

阪和自動車道や京滋バイパスの一部拡幅工事などに取り組みました

2010年度から2014年度までの5カ年で、阪和自動車道・京滋バイパスの一部拡幅工事や京都縦貫自動車道と名神高速道路のネットワーク強化ならびに徳島自動車道と高松自動車道のダブルネットワークの形成に取り組みました。

現在も湯浅御坊道路の4車線化事業の推進や東九州自動車道のネットワーク強化など、継続的な渋滞緩和に取り組んでいます。

#### ▼阪和自動車道(海南IC～有田IC間)車線拡幅工事



車線拡幅前



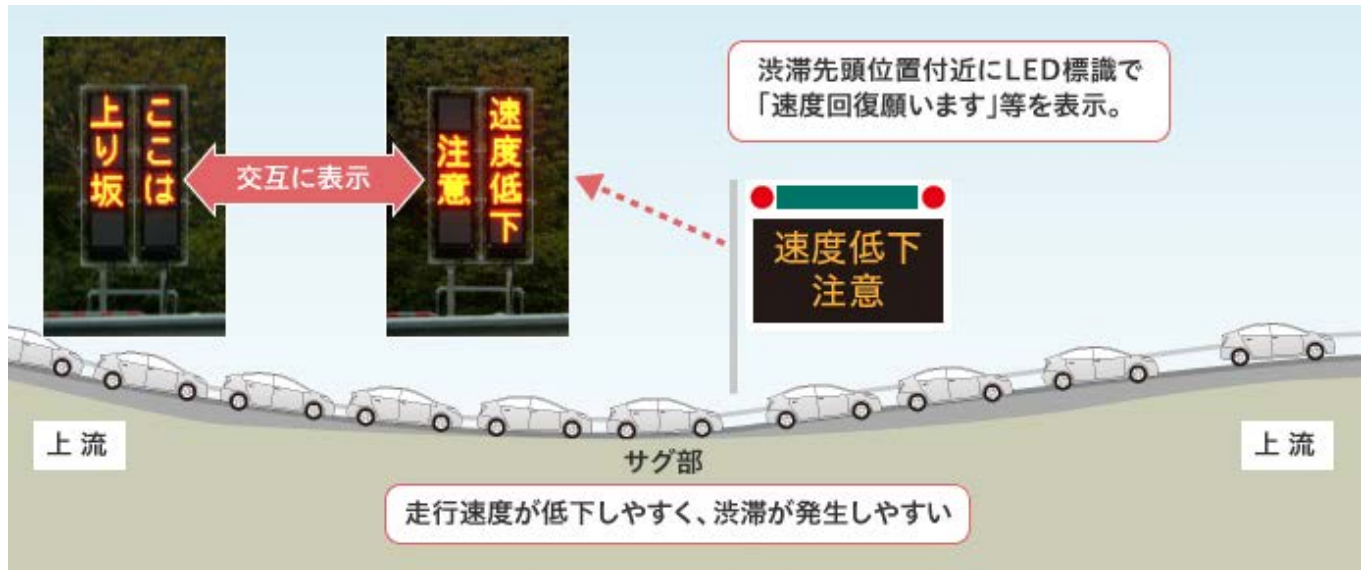
車線拡幅後

## 渋滞予測情報の提供

さまざまな媒体を通じて渋滞予測情報の提供に努めています

お客さまに渋滞を避けたご利用を喚起するため、上り坂などで速度回復を促し適正な交通容量を確保するための簡易情報板の設置や、ホームページや渋滞予測パンフレットなどを通じた渋滞予測情報の提供に努めています。

### ▼簡易情報板設置状況



### ▼渋滞予測ガイドの配布(交通混雑期限定)



### □ 関連ページ

▶ [渋滞予測カレンダー](#) □

## 集中工事の実施

工事の集約化により渋滞の軽減に努めています

工事に伴う車線規制による渋滞など、お客さまへの影響を軽減するために、工事の集約化を図っています。関西圏の道路では、道路構造物の点検・清掃、橋梁・舗装補修、防護柵改良などの年間工事は、1～2週間程度の短期間に集約する「集中工事」を実施しています。また、集中工事を実施しない路線においても、極力、同じ車線規制内で複数の工事を実施するなどの調整を図ることで、工事による車線規制回数の削減に努めています。

### ▼名神集中工事による効果





## お客さま 道路交通情報

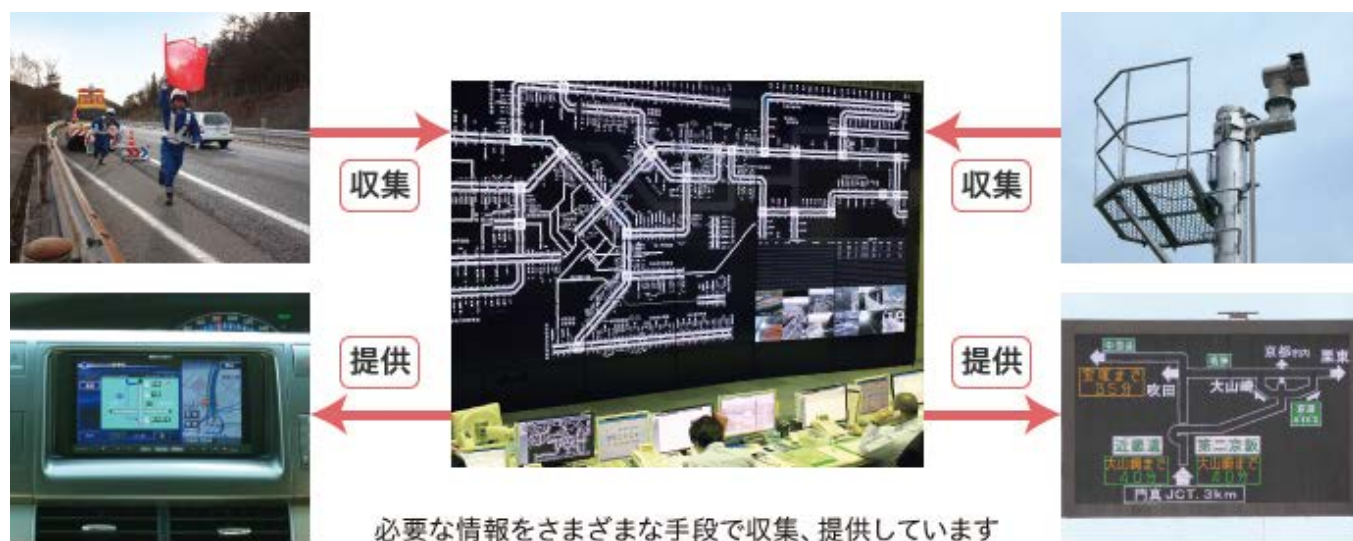
### 道路管制センター

情報の集約・発信基地として、お客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、併設されている管区警察局高速道路管理室とともに、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。また、交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、各種情報板などを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

さらに、高速道路に設置された非常電話、情報板などの各種設備により、異常事象の早期発見と迅速な復旧・対応に努めています。

#### ▼道路管制センター



### ウェブサービス「アイハイウェイ」

道路状況が事前にチェックできるウェブサービス「アイハイウェイ」を提供しています

西日本高速道路サービス・ホールディングスが運営する「[アイハイウェイ](#)」では、交通状況の表示や道路映像、SA・PA駐車場映像のリアルタイム配信など、便利な情報を提供しています。

2012年8月からはスマートフォン用のアプリケーションも提供を開始し、2015年1月までに累計150万回のダウンロードがありました。また、コンテンツの充実にも努めており、2014年度からは大雨情報やSA・PA情報の提供も開始しています。

今後もお客さまの利便性向上に向けた取り組みや、コンテンツの充実に努めていきます。

#### □ 関連ページ

▶ [アイハイウェイ](#)



## お客さま お客さまサービスの向上

### 料金所での接客サービスの向上

笑顔と挨拶による接客を基本に総合的なサービス向上に努めています

料金所でのお客さまサービスを担っている当社のグループ会社では、「笑顔」での挨拶を接客の基本としています。また、昨今は料金精算機の導入により、インターホンを通してお客さまと接する機会が増えています。「声」による対応においてもおもてなしの心をお伝えできるよう、日頃からシミュレーションを取り入れたアナウンス研修や外部講師を招いての勉強会を行っています。お客さまと接する機会の多い「NEXCO西日本の顔」として、災害発生時の措置や高速道路全般に関する問い合わせにも対応できるよう、24時間365日を通じて業務に取り組んでいます。



料金收受の風景

### 社員コメント



#### NEXCO西日本サービス四国

「一期一会」の気持ちで、  
お客さま満足度の向上に努めています

「一期一会」の気持ちを大切に、日頃から接客レベルの向上に努めています。また、正確な料金收受を行うため、業務の空き時間には、[eラーニング](#)による自主学習で、料金改定等の知識向上に努めています。2014年の料金改定後は硬貨の扱いが多くなったため、トレーを活用し、お客さまとの相互確認を確実にを行うことを心がけています。

私たちの業務の基本は、お客さまの安全・安心を最優先に、快適に高速道路をご利用していただくこと。異常気象や突発的な事故等による通行止めが発生した際も、スタッフ全員がスピーディーかつタイムリーな情報提供をできるよう努力していきます。



松山料金所  
サービス係長  
藪下 賢



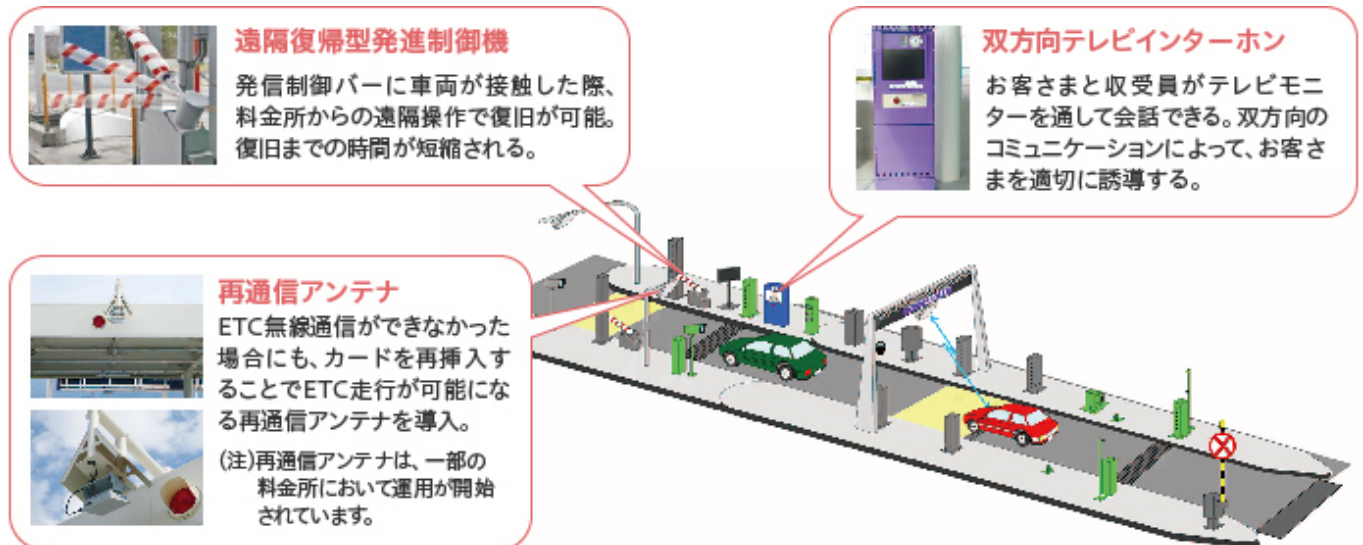
## ETCの利便性向上

入口ETCレーン の複数設置を進めるとともに第二世代ETC導入を進めています

入口ETCレーンが1つしかない料金所ではこれまで、カード未挿入などによるトラブルやメンテナンスなどでETCレーンが閉鎖されている時には一般レーンのご利用をお願いしており、ご不便をおかけしていました。

このため当社では、ETCサービス休止時間の削減を目指し、入口レーンへのETC複数設置工事や、円滑なレーン通行を可能にする第二世代ETCの導入工事を進めています。2014年度末までに、複数設置は料金所全体の55%となり、第二世代ETCの導入は約40%まで完了しています。

### ▼第二世代ETC設備概要



## CS推進本部会議

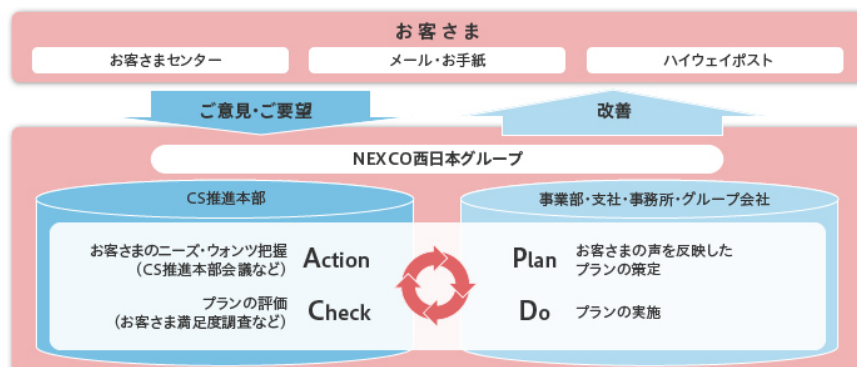
経営層が参加する会議で、お客さまのご意見から課題を抽出し、解決策を検討しています

お客さまのニーズに迅速に対応するため、経営層・各担当部による「CS推進本部会議」を毎週(年間約50回)開催し、お客さまから寄せられたご意見・ご要望について、議論しています。特にお客さまの安全・安心等の重大リスクに関わるご意見については注目してフォローしています。

2013年度からは、ご意見から重点課題を選定して、抜本的な課題解決に向けた議論も行っています。また、全社的かつ継続的なCSの改善に向けて、CS推進本部会議と支社・事務所の役割と責任の再構築・明確化を進めています。


なお、個別の改善事例については、会社ウェブサイトやSA・PAの掲示板に掲載しています。  
こうした取り組みを通じて、今後もお客さまとのいっそうの信頼関係強化を目指していきます。

### ▼CS向上のマネジメントシステム



## お客さまセンター

高速道路に関する総合的な相談窓口として、正確、親切、さわやかな対応を基本に、24時間365日体制で対応しています

対応する[テレコミュニケーター](#)  は、積極的に研修に取り組むとともに継続的に対応品質の向上に努めています。また調査会社による対応品質サービスレベルの調査での弱点を更なる対応品質の改善に役立て、お客さま満足度の向上に比重を置いた案内サービスに繋げていきます。

今後も、こうした取り組みを継続し、いっそうお客さまにとって利用しやすい相談窓口を目指していきます。




お客さまセンター

### ▼「お客さまセンター」の受付体制

|         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 受付時間    | 年中無休(24時間)                    |
| お問い合わせ数 | 年間約48万件(受電件数)                 |
| 受付体制    | 昼12~15人、夜5~6人                 |
| 外国語対応   | 5か国語(英語、中国語、韓国語、スペイン語、ポルトガル語) |

### 【お問い合わせ急増時の対応】

通行止めの発生時や荒天時など、お問い合わせの急増時への対応として、以下の情報提供を実施。

- ・お電話の接続待ち中に、自動音声での[アイハイウェイ](#)  のご案内
- ・フリーダイヤルからハイウェイテレホン(交通情報の自動音声案内)への転送(2012年7月から)

## お客さまの声の状況

約48万件のお客さまの「声」をいただきました

2014年度、NEXCO西日本にいただいたお客さまの「声」は、全体で約48万件でした。そのほとんどが料金や交通情報に関するお問い合わせです。

また、約6,100件のご意見・ご要望のうち「ご不満の声」が約1,500件、「お褒めの声」は約2,400件でした。

今後も情報提供の充実に努めることでお問い合わせ件数を減少させるとともに、ご意見・ご要望をしっかりと伺い、貴重な経営資源として活かしていきます。

▼いただいたお客さまの声とご意見・ご要望(単位:件)



ハイウェイポスト

## お客さまの声対応プロセスの明確化

お客さまの声への対応・改善状況を共有・フォローできる仕組みを整備しています

社員がお客さまの声を共有し、その後の対応・改善状況についてもデータベース化してフォローできる仕組みとして「お客さま支援対応システム」を整備しています。2014年度は、お客さまの声に効率よく適宜適切に対応し、お客さまの声を業務の改善に反映させるため、社員向けに「お客さまの声対応ガイドライン」を策定しました。

2015年度は、同ガイドラインの実運用と検証を実施する計画です。

## お客さまの声による改善状況の紹介と信頼関係の強化

お客さまのご意見・ご要望を事業の改善に活かしています

ご意見・ご要望に対する対応・改善状況はウェブサイトで紹介しています。また、2012年6月からはSA・PAにも掲示し、より多くのお客さまにお知らせしています。

### ■ 関連ページ

▶ [CSの取り組み](#)

## CS推進オピニオンリーダー意見交換会

意見交換会を開催し、各界の有識者からさまざまな立場で意見をお聞きしています

お客さまに提供すべきサービスなどについて、さまざまな立場の有識者からご意見をいただく「NEXCO西日本CS推進オピニオンリーダー」意見交換会を開催しています。

2014年度も、10人の有識者にご参加いただき2回実施しました。各業界からの高速道路へのニーズを伺うとともに、有識者の方々の間で、活発な意見交換が行われました。

今後も意見交換会を継続し、CS向上に活かしていきます。

## CS意識の向上

CS意識向上のため、研修やCS推進大会を実施しています

当社グループでは、CS意識向上研修やCS推進大会などを実施し、社員のCS意識向上に取り組んでいます。2014年度は、新入社員と初級管理職を対象にしたCS意識向上研修や支社単位でのCS表彰等を実施しました。

今後も、グループ全体のCS活動をさらに推進するとともに、各現場がCS課題を共有しその解決に向けて行動できるよう、支社・本社関連部署が連携して現場支援を強化していきます。



CS研修の様子



CS研修の様子



## お客さま 新メニューの開発

### 「モテナス」オリジナル商品の開発

NEXCO西日本グループの直営店舗(53カ所)で、オリジナルメニューを開発しています

お得感のあるワンコイン(500円)で楽しめる「モテナスランチA」やボリューム感のあるお得な「モテナスランチB満腹セット」(880円)等オリジナルメニューを開発しています。

また、コクと深みのある味わいが特徴の「モテナスコーヒー」やバニラ風味豊かな「モテナスソフト」を継続して提供しています。より多くのお客さまに「モテナスコーヒー」を楽しんでいただくために、「モテナスコーヒー」と「スイーツ」をセットで購入すると「モテナスコーヒー」が50円引きになる「モテナスセット」を提供しています。

2015年度は、NEXCO西日本グループの直営店舗で、お客さまにさらに喜んでいただくため、「モテナスランチ」をリニューアルしました。また、季節限定のメニューの開発・販売や「モテナスセット」のスイーツ商品の発掘など、お客さまに喜ばれる新たな取り組みを積極的に考案・展開していきます。

※モテナス:NEXCO西日本グループが運営するSA・PAの店舗ブランドで、ビジネスなどで日常的にエリアをご利用いただくお客さまに、お得感のある食事や真心のこもった「おもてなし」を提供しています。



モテナスランチA 塩豚カルビ丼



モテナスランチB 満腹セット

#### ■ 関連ページ

▶ [「モテナス」エリア](#)



## お客さま ドライブの拠点機能

### インフォメーション

海外からのお客さまへの対応を充実させています

SA・PAでは、海外のお客さまにも安心して高速道路をご利用いただける環境整備に努めています。[インフォメーション](#)を設置している67カ所のエリアで、外国語対応の地図(英語・韓国語・中国語)の配布や電話通訳(英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語)サービスを活用したご案内を行っております。

2015年度は、一部のエリアにおいて試行的に翻訳ソフトを活用したご案内を行う予定です。



名神高速道路 大津SA(下り線)「パヴァリエびわ湖大津」



中国自動車道 美東SA(下り線)

### Wi-Fi サービス

フリーWi-Fiサービスの提供を開始しました

2014年5月から、無料をご利用いただける[Wi-Fi](#) サービス「W-NEXCO Free Wi-Fi」を開始しました。さらに、同年8月からは海外からのお客さまにもご利用いただけるよう、英語によるサービスも開始しています。

2015年3月末までに146カ所(別所PA上下線除く)のSA・PAにおいて本サービスを展開しています。



W-NEXCO Free Wi-Fi」の  
サービスマーク

## シャワーステーション

長距離をドライブされるお客さま向けに、シャワーステーションを設置しています

長距離をドライブされるお客さまへの「疲労回復サービス」の充実として、コイン式のシャワーやランドリー、無料のマッサージチェアを備えたシャワーステーションを、NEXCO西日本管内計8カ所のSA・PAに設置しています。



山陽道 淡河PA(上り線)シャワーステーション



シャワーステーション内のマッサージチェア



## お客さま お客さま・地域との交流

### イベントの実施

「パヴァリエ」として運営する3つのSAでイルミネーションを実施しました

旅の目的地となるような特徴を持った新タイプのSA「PAVARIE(パヴァリエ)」として運営している、大津SA(下り線)、福山SA(上り線)、山田SA(下り線)の3エリアで、2014年11月22日から2015年3月1日まで地域を象徴する風景・文化と独自コンセプトを融合させたイルミネーション装飾を展開しました。開催日にはお客さま参加の点灯式イベント等を実施し、SAを訪れるお客さまにお楽しみいただきました。

今後も、お客さまに喜ばれるサービスを積極的に考案・展開していきます。



名神高速道路 大津SA(下り線)  
「パヴァリエびわ湖大津」



山陽自動車道 福山SA(上り線)  
「ローズマインド福山」



大分自動車道 山田SA(下り線)  
「エコエリア山田」

#### ■ 関連ページ

▶ [「パヴァリエ」エリア](#) 



## ウェルカムゲート

一般道からもSA・PAに立ち寄れる出入口を整備するとともに、地域の方向けのイベントを実施しています

一般道からSA・PAに自由にお立ち寄りいただける「ウェルカムゲート」を、2014年度までに65カ所整備しました。近隣の方々を対象に、バラの剪定講習会やお子さま向けのパン教室などのイベントを開催している店舗もあり、ご好評いただいています。2015年度は新たに1カ所整備しました。

また、車いすをご利用のお客さまも快適に通行できるユニバーサルゲートを、2014年度までに30カ所整備しております。



中国自動車道 美東SA(上り線)



第二神明道路 明石SA(下り線)

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### ▶ 高速道路ネットワークの整備と機能向上

新たな高速道路ネットワークの整備

- ▶ [各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています](#) **WEB**

スマートICの整備

- ▶ [松茂、今川、上毛の3カ所で新たにスマートICを整備しました](#) **WEB**

### ▶ 災害対応力の強化

防災体制

- ▶ [道路機能を迅速に回復できる体制の構築を進めています](#)
- ▶ [南海トラフ巨大地震の被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました](#) **WEB**

地域・他機関との連携

- ▶ [包括協定・災害協力協定・連携協定に基づく連携強化を図っています](#)

防災訓練

- ▶ [関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています](#)

### ▶ 海外での新たな価値の創造

技術・ノウハウの活用による事業の展開

- ▶ [インドネシアでの道路PPP事業に参画しました](#)
- ▶ [米国に設立した子会社において、橋梁の健全度調査などさまざまな事業を推進しています](#) **WEB**
- ▶ [海外事業拡大に向けた各種調査を実施しています](#) **WEB**

人材育成・技術移転を通じた国際貢献

- ▶ [毎年100名以上の海外研修生を受け入れています](#) **WEB**

国内道路事業とのシナジーの追求

- ▶ [国内道路事業とのシナジーの追求](#) **WEB**

### ▶ ノウハウを活かした新たな事業

高速道路管理のノウハウを活かした業務受託

- ▶ [地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています](#) **WEB**

グループの資産・人材を活用した地域貢献

- ▶ [高知県大豊町の観光施設で指定管理者事業、農業事業を行っています](#) **WEB**

一般有料道路の運営事業への参画

- ▶ [NEXCOが保有している維持管理ノウハウで作業を効率化しています\(芦有ドライブウェイ\(株\)\)](#) **WEB**



社会

## 高速道路ネットワークの整備と機能向上

高速道路は、国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本です。真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくことで、輸送コストの削減や、交通事故の減少、バランスのとれた地域社会の発展に貢献していきます。

### 新たな高速道路ネットワークの整備

各地域を結び、自動車交通の混雑緩和や地域間の連携強化に寄与しています

高速道路ネットワークの整備は、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。NEXCO西日本は、[高速道路機構](#)と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2014年度は、2014年12月13日に東九州自動車道の行橋IC～みやこ豊津IC間7km、2015年3月1日に豊前IC～宇佐IC間21kmと、2015年3月14日に、徳島自動車道の鳴門JCT～徳島IC間11kmが、それぞれ開通しました。広域的なネットワークの形成によってアクセスの向上が図られ、一般国道を利用した場合と比較した所要時間の短縮、[第三次医療機関](#)への搬送時間の短縮による救急医療活動への貢献、地域産業の活性化への貢献などが期待されています。

#### ▼2010～2014年度 開通区間

| 年度     | 開通区間              | 延長   |
|--------|-------------------|------|
| 2010年度 | 東九州道 門川～日向        | 14km |
|        | 東九州道 高鍋～西都        | 12km |
|        | 岡山道 総社PA～賀陽(四車線化) | 5km  |
| 2011年度 | 舞鶴若狭道 小浜西～小浜      | 11km |
|        | 阪和道 海南～有田(四車線化)   | 10km |
|        | 米子道 久世～上野PA(四車線化) | 4km  |
| 2012年度 | 東九州道 都農～高鍋        | 13km |
| 2013年度 | 京都縦貫道 沓掛～大山崎JCT   | 10km |
|        | 東九州道 苅田北九州空港～行橋   | 9km  |
|        | 東九州道 日向～都農        | 20km |
| 2014年度 | 徳島道 鳴門JCT～徳島      | 11km |
|        | 東九州道 行橋～みやこ豊津     | 7km  |
|        | 東九州道 豊前～宇佐        | 21km |

#### ▼2015年度以降の開通予定 ※1

| 年度     | 開通区間              | 延長   |
|--------|-------------------|------|
| 2016年度 | 新名神 城陽JCT～八幡JCT   | 4km  |
|        | 東九州道 椎田南～豊前※2     | 7km  |
| 2018年度 | 新名神 高槻JCT～神戸JCT※3 | 40km |
|        | 高松道 鳴門～高松市境(四車線化) | 52km |

|        |                      |      |
|--------|----------------------|------|
|        | 長崎道 長崎芒塚～長崎多良見(四車線化) | 8km  |
| 2019年度 | 徳島道 徳島東～徳島JCT        | 4km  |
| 2020年度 | 播磨道 播磨新宮～山崎JCT       | 12km |
|        | 舞鶴若狭道 福知山～綾部(四車線化)   | 10km |
|        | 舞鶴若狭道 綾部PA～舞鶴西(四車線化) | 5km  |
| 2021年度 | 湯浅御坊道路 御坊～有田(四車線化)   | 19km |
| 2023年度 | 新名神 大津JCT～城陽JCT      | 25km |
|        | 新名神 八幡JCT～高槻JCT      | 10km |

(注)事業中区間のIC-JCT名称は仮称

※1 高速道路機構との協定に基づく

※2 会社努力目標は2016年春

※3 会社努力目標は2016年度

## 関連ページ

### ▶ [特集3「高速道路ネットワークの整備」](#)

## スマートICの整備

松茂、今川、上毛の3カ所で新たにスマートICを整備しました

高速道路の利便性を向上させるため、[スマートIC](#) の整備を進めています。スマートICとは、[ETC](#) 専用の簡易なインターチェンジのことで、ETC搭載車以外は出入りできないものの、一般道路からのアクセス経路が増え、高速道路がさらに利用しやすくなります。

2014年度には、松茂(徳島道)、今川(東九州道)、上毛(東九州道)の3カ所で新たにスマートICが開通し、計12カ所となりました。現在、さらに19カ所の整備に着手しています。

### ▼今川スマートIC(東九州道)

2014年12月13日開通



### ▼夢前スマートIC(中国道)

2015年度開通



### ▼開通したスマートIC

| 年度     | スマートIC                                     | 設置数 |
|--------|--|-----|
| 2009年度 | 土佐PA(高知道)、宮島(山陽道)<br>府中湖(高松道)、別府湾(下り)(大分道) | 4カ所 |

|        |                                     |     |
|--------|-------------------------------------|-----|
| 2010年度 | 宮田(九州道)                             | 1カ所 |
| 2011年度 | 大山高原(米子道)                           | 1カ所 |
| 2012年度 | 大和まほろば【名古屋方面】(西名阪道)                 | 1カ所 |
| 2013年度 | 蒲生(名神)、大和まほろば【大阪方面】(西名阪道)、宇城氷川(九州道) | 3カ所 |
| 2014年度 | 松茂(徳島道)、今川(東九州道)、上毛(東九州道)           | 3カ所 |

▼スマートICの設置予定 ※1

| 完成予定年度 | スマートIC  | 設置数 |
|--------|---|-----|
| 2015年度 | 夢前(中国道)、北熊本(九州道)、城南(九州道)                                    | 3カ所 |
| 2016年度 | 山之口SA(宮崎道)、由布岳PA(大分道)、門川南(東九州道)                             | 3カ所 |
| 2017年度 | 木場(長崎道)、小城PA(長崎道)、福山SA(山陽道)、桜島SA(九州道)、沼田(山陽道)、別府湾(上り線)(大分道) | 6カ所 |
| 2018年度 | 宝塚北※2(新名神)、和歌山南(阪和道)、人吉球磨(九州道)                              | 3カ所 |
| 2019年度 | 国富(東九州道)、湯田PA(中国道)、中山(松山道)                                  | 3カ所 |
| 2023年度 | 新名神大津(新名神)  | 1カ所 |

(注)スマートIC名称および未開通区間の道路名は仮称

※1 [高速道路機構](#) との協定に基づく

※2 事業中の本線と同時供用



## 社会 災害対応力の強化

高速道路への国民の信頼に応えるため、「想定を超えた広範囲の激甚災害」にも対応できる仕組みを構築します。発災時には速やかに高速道路機能を回復し、被災地域の救急・復旧・復興に貢献します。防災対策をより実効性の高いものへ逐次見直し、不断の努力を続けていきます。

### 防災体制

道路機能を迅速に回復できる体制の構築を進めています

高速道路の早期復旧にあたっては、情報の収集・発信拠点となる「災害対策本部」を災害規模に応じて設置し、本部を中心に指揮統制の取れた体制を構築することが重要です。そこで、訓練等によって得られた課題についての対策を講じるなど、災害対応計画を継続的に見直しています。

また、災害発生時の復旧作業で必要となる、交通規制材や土のうなどの資機材の備蓄強化にも努めています。さらに、地域の建設会社などと、応急復旧についての協力協定を締結するなどの取り組みも進めています。

2014年度は、災害時に一般電話等が途絶した場合に備え、震度6強および津波浸水が想定される地域の本社・支社・事務所・休憩施設・料金所等の拠点に衛星携帯電話を約300台配備しました。また、被害状況の早期把握を目指して、民間ヘリ会社と契約を締結しました。

南海トラフ巨大地震の被害想定に基づき、被害想定箇所への資機材等の備蓄を強化しました

東日本大震災の教訓を踏まえ、津波被害が想定される地区では非常用自家発電設備の燃料備蓄を7日間分に増やす計画を策定し、2014年度までに112カ所全ての対応を完了しました。また、一時退避されたお客さまに対する食糧、水、衛生用品などの防災備蓄について、震度5強が想定される232カ所のうち226カ所の休憩施設に配備を完了しました。2015年度、休憩所への防災備蓄の残り6カ所への整備を行います。

2015年度も引き続き、災害対応計画に基づき、道路被害箇所の段差修正等、応急復旧に必要な資機材の把握に努めます。

#### ▼備蓄する資機材の一覧

| 種別            | 備蓄する資機材  | 備蓄する施設数(箇所数) | 箇所あたりの備蓄量  |
|---------------|----------|--------------|------------|
| 最低限の衛生用品・食糧・水 | 携帯トイレ    | 234          | 240～3200枚※ |
|               | トイレ利用キット | 234          | 2～3セット     |
|               | 毛布       | 234          | 40～500人分※  |
|               | おむつ      | 234          | 70～540枚※   |
|               | 生理用品     | 234          | 48～384枚※   |
|               | ゴミ袋      | 234          | 40～540枚※   |
|               | 非常食      | 151          | 120～1080食※ |
|               | 飲料水      | 151          | 240～2136食※ |

|                 |         |     |                  |
|-----------------|---------|-----|------------------|
| ライフライン ☐ の寸断を想定 | 備蓄倉庫    | 234 | 1台               |
|                 | 発電機     | 234 | 1台               |
|                 | 投光機     | 234 | 1台               |
|                 | コードリール  | 234 | 1台               |
|                 | 石油ストーブ  | 234 | 1台               |
|                 | 燃料缶詰    | 234 | ガソリン:4缶<br>軽油:4缶 |
| 建物被害            | 大型テント   | 11  | 1張               |
|                 | 救出工具キット | 87  | 1セット             |

※休憩施設の駐車スペース数により備蓄量を決定しているため、エリアにより備蓄量は異なります

#### ▼備蓄する資機材の例



- ① 大型テント 外観
- ② 大型テント 内部
- ③ 発電機
- ④ 救急工具キット 外観
- ⑤ 救急工具キット 内部
- ⑥ トイレ利用キット
- ⑦ 投光器

## 地域・他機関との連携

包括協定 ☐ ・災害協力協定・連携協定に基づく連携強化を図っています

地域住民の安全・安心の向上を図るため、地震など大規模災害時の相互協力を定めた災害協力協定 ☐ を、2012年5月末までに西日本の全24府県と締結しています。

また、大規模災害時の迅速な緊急交通路確保と連携した被災地支援を目的に、陸上自衛隊と連携協定 ☐ を締結するとともに、具体的な連携内容の調整、合同訓練等に取り組んでいます。加えて、自衛隊が保有するヘリコプターからの映像を活用する協定を締結するなど、災害時に備えた連携強化も進めています。2014年度は、地震によって段差が発生したと想定した段差補修訓練を関係機関と共同で実施しました。

#### ▼自治体と協定を結んだ一時避難場所

| 年月      | 自治体     | 一時避難場所 |            |
|---------|---------|--------|------------|
| 2011年8月 | 徳島県・徳島市 | 徳島道    | 徳島IC～鳴門JCT |
| 2012年4月 | 西都市・新富町 | 東九州道   | 西都IC付近     |

|          |                         |      |            |
|----------|-------------------------|------|------------|
| 2012年7月  | 高鍋町                     | 東九州道 | 高鍋IC～都農IC  |
| 2012年7月  | 須崎市                     | 高知道  | 須崎東料金所     |
| 2012年9月  | 観音寺市                    | 高松道  | 豊浜SA       |
| 2012年9月  | 日向市                     | 東九州道 | 日向IC～都農IC  |
| 2012年11月 | 門川町                     | 東九州道 | 門川IC       |
| 2013年11月 | 金武町                     | 沖縄道  | 伊芸SA       |
| 2014年2月  | 徳島市                     | 徳島道  | 徳島IC       |
| 2014年2月  | 徳島県・徳島市・鳴門市・<br>松茂町・北島町 | 徳島道  | 徳島IC～鳴門JCT |
| 2014年9月  | みなべ町                    | 阪和道  | みなべIC      |

## 社外コメント



和歌山県みなべ町  
総務課  
尾崎 聡 様

### みなべICを津波避難場所とする協定で 住民の安全が確保できました

みなべ町とNEXCO西日本は、2014年9月に、「緊急津波避難における高速道路区域の一部使用に関する協定」を結びました。

阪和自動車道みなべIC付近は南海トラフ地震の津波で5m未満の浸水が想定されていますが、周囲に高台がありません。協定によって、みなべICの駐車場を避難場所として使用できるようになったことで、住民の安心・安全が大いに高まりました。2015年1月には、NEXCO西日本の皆さまにご協力をいただき、みなべICへの津波避難訓練を実施することができました。

みなべIC近くに一部残る津波避難困難区域の解消に向けた検討についても、ご協力をいただければと期待しています。

## 防災訓練

関係機関と連携し、実践的な訓練を実施しています

地震など自然災害の発生時に迅速かつ的確な対応ができるよう、グループ全体や関係機関と計画的に防災訓練を実施しています。

2014年度は関係機関と連携した実動訓練を実施し、社内訓練では、本社・支社間の連携の確認および課題抽出を行うため、吹田社屋において総合防災訓練を実施しました。

また、一時避難場所の協定を締結している阪和自動車道みなべICや徳島自動車道沿線地域等において、周辺住民が参加した一時避難訓練を自治体等と共同で実施しました。

2015年度も引き続き、関係機関と連携した訓練を実施しながら、課題抽出および改善等に取り組み実効性のある体制の構築に取り組んでいきます。

2014年度総合防災訓練 参加組織(2014年9月1日実施)

- 災害対策本部訓練  
陸上自衛隊、近畿地方整備局、阪神高速道路(株)
- 段差修正実動訓練  
陸上自衛隊、警察、消防、NEXCO西日本メンテナンス関西



●休憩施設防災備蓄品組立訓練

NEXCO西日本サービスホールディングス、テナント1社

●岸和田SA内負傷者救護訓練(ドクターヘリ離着陸)

大阪・和歌山災害派遣医療チーム(DMAT [DMAT](#))

2014年度津波一時避難訓練 実績

- ・東九州自動車道 日向市(2014年10月19日)
- ・高知自動車道 須崎市(2014年12月21日)
- ・阪和自動車道 みなべ町(2014年1月25日)
- ・徳島自動車道 鳴門市(2015年3月7日)

総合防災訓練 段差修正訓練



土のうによる段差修正



修正した段差を走行する車両

総合防災訓練 負傷者救護訓練(岸和田SA)



ドクターヘリによる負傷者搬送訓練



訓練に参加したDMATチーム

津波一時避難訓練(和歌山県みなべ町)



みなべICに移動する訓練参加者



みなべICに集合した訓練参加者

津波一時避難訓練(徳島県鳴門市)



開通前の徳島道での避難訓練の様子





## 社会 海外での新たな価値の創造

NEXCO西日本グループビジョンである「自立」と「成長」を実現するため、海外道路事業へ参画し、企業競争力の向上、新たな価値の創造に挑戦しています。また、高速道路の建設、維持管理に関する当社グループのノウハウや技術力、人材などを海外で活用することにより、現地のインフラ整備と海外技術の国内事業へのフィードバックを図っています。



ジャカルタの渋滞

海外道路PPP事業の  
案件形成



インドネシア



メリーランド州 道路橋の点検

非破壊検査技術を  
活用した点検等業務



アメリカ

インドネシア駐在員事務所

NEXCO-West USA, Inc.

開発途上国の高速道路開発を  
支援するコンサルティング事業を展開



フィリピン



インドネシア



ザンビア



フィリピン 品質向上のための  
技術アドバイス

### 技術・ノウハウの活用による事業の展開

#### インドネシアでの道路PPP事業に参画しました

2011年に設置した駐在員事務所を拠点に営業活動を進めてきた結果、2014年11月、日本の高速道路会社として初めてジャカルタ近郊のビンタロースルポン道路(7.25km)の有料道路を運営する現地企業の株式を一部取得する契約を締結し、海外道路PPP事業※に参画しました。

今後、現地企業とのパートナーシップを通じ、当社グループの高速道路の運用経験、ノウハウを活用し、現地のニーズに即した技術アドバイスなどを行うことで、インドネシアにおける本格的な有料道路事業参画の足掛かりとしていきます。

※PPP事業(Public Private Partnership 官民連携): 民間の資金や経営・技術力などのノウハウを活用し、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図る事業手法。

#### ▼インドネシア・ジャカルタ近郊の地図



ビンタロー スルボン道路全景



ポンドックアレン料金所

社外コメント



ヌサンタラ インフラ  
ストラクチャー社  
アドリアント  
ジャニユリ様

インドネシアのインフラ企業  
リーディングカンパニーを目指して

NEXCO西日本と弊社は、相互技術力の向上を目指した取引を通じて、関係を構築することができました。NEXCO西日本は、日本の高速道路ネットワークの発展に50年以上の間、貢献されております。

インフラにとって最も大切なことは、いつでも利用できる状態にしておくことです。NEXCO西日本の先進的なテクノロジーと適切な技術的な助言により、弊社グループの高速道路の水準が向上することで、ご利用されるお客さまに対して安全でかつ信頼できる高速道路の走行環境をご提供できるようになり、これを通じて、インドネシア共和国の発展に貢献してまいります。

米国に設立した子会社において、橋梁の健全度調査などさまざまな事業を推進しています

2011年1月に米国ワシントンD.Cに設立したNEXCO-West USA, Inc. は、ハイビジョンカメラや赤外線カメラを用いた [非破壊検査](#) 点検事業に取り組んでいます。あわせて実施している情報収集コンサルティングは国内外で高く評価されています。

現在、2012年度に受注したインディアナ州の橋脚点検業務をはじめ、フロリダ州のモノレール橋の点検、オハイオ州道路橋オーバーレイ層付着健全度調査など、着実に実績を積み重ねています。今後も、情報コンサルティングに取り組むとともに、地元企業との連携を推進していきます。同時に、橋梁モニタリングおよび健全度評価方法等の研究を行っているセントラル・フロリダ大学チャットバス教授との共同研究を通じ、先進技術のノウハウの蓄積と事業基盤の確立を目指します。



インディアナ州 橋梁点検



オハイオ州道路橋 車両による夜間点検



セントラル・フロリダ大学との共同研究に基づくフロリダ州道路橋の点検

海外事業拡大に向けた各種調査を実施しています

インドネシアでは、経済産業省が募集したインドネシアにおける[PPPインフラ事業](#)への参画に向けた事業の妥当性、効率性に関する事前調査である「マカッサル環状道路事業化調査」および「マカッサル高度交通システム導入調査」を実施しました。

また、JICA(国際協力機構)が募集したフィリピンにおける「道路・橋梁の建設・維持に係る品質管理向上プロジェクト」に参加し、現在は、ザンビアにおける「橋梁維持管理能力向上プロジェクト」を実施しています。

これらの調査を実施することによって、コンサルタント業務の受注や他のビジネスフィールドに事業を拡大する契機となるよう取り組んでいます。



インドネシア公共事業省道路総局とのミーティング

## 人材育成・技術移転を通じた国際貢献

毎年100名以上の海外研修生を受け入れています

国際貢献の一環として、海外研修生の受け入れを行っています。国土交通省やJICA(国際協力機構)等と連携し、アジア、アフリカなどの開発途上国を中心に毎年100名以上の研修生を受け入れています。研修生の受け入れは、海外諸国との友好関係の構築にも役立っています。



JICAインフラ災害対策コース研修

## 国内道路事業とのシナジーの追求

橋梁非破壊点検技術等の活用や海外道路PPP事業 [□](#) によって得られる性能規定等の様々なノウハウについては、国内道路事業にフィードバックすることによって、[シナジー効果](#) [□](#) や当社グループ全体の技術力向上を図っています。たとえば、NEXCO-West USA Inc.の技術支援によって、NEXCOエンジニアリング中国が地中レーダー（GPR）の導入をこれまでに実現しています。

中長期的には、海外事業の拡大にもつながるよう、取り組みを推進しています。




社会

## ノウハウを活かした新たな事業

### 高速道路管理のノウハウを活かした業務受託

地方自治体等が管理する道路で、交通管理や構造物・設備の管理・保守・点検を受託しています

2014年度は、公社が管理する橋梁点検及び補修検討について受注しました。また、高速道路を橋でまたぐ[跨道橋\(OV\)](#) についても、管理する地方自治体から点検・修繕工事を受注しています。

2015年度も、これらの業務の継続受注とともに、新規路線の受注を目指し、高速道路管理で培ったノウハウや技術を活かした業務を提案・実施していきます。



橋梁点検業務



ETC  保守業務

#### ▼道路管理に関する主な業務受託

| 有料道路                     | 業務内容   |
|--------------------------|--|
| 南阪奈有料道路<br>※大阪府道路公社管理区間  | 土木維持管理(土木清掃・雪氷対策・維持修繕)、施設保守業務、ETC保守業務、ETC設備更新設計、料金收受業務 |
| 堺泉北有料道路                  | ETC保守業務、ETC設備更新設計                                      |
| 京都縦貫自動車道<br>※京都府道路公社管理区間 | ETC保守業務、ETC予告アンテナ新設                                    |
| ながさき出島道路                 | トンネル側壁清掃、トンネル排水施設清掃                                    |
| 福岡前原有料道路                 | ETC保守業務  |
| 広島高速道路                   | 橋梁点検   |


| 一般道路                | 区間          | 業務内容      |
|---------------------|-------------|-----------|
| 小郡菟道路<br>(一般国道490号) | 美祢東JCT～絵堂IC | 道路の包括維持管理 |
| 山口宇部道路              |             |           |

|  |            |            |
|--|------------|------------|
| (県道6号山口宇部線)                                | 朝田IC～宇部東IC | 道路の包括維持管理  |
| 広島中央フライトロード<br>(県道73号広島空港線、<br>県道49号本郷大和線) | 河内IC～大和南IC | 交通管理に関する業務 |
| 松江だんだん道路<br>(一般国道485号松江第五大橋道路)             | 松江JCT～川津IC | 交通管理に関する業務 |
| 県道大見吉津仁尾線                                  | 三豊鳥坂IC     | ICの維持管理    |

## グループの資産・人材を活用した地域貢献

高知県大豊町の観光施設で指定管理者事業、農業事業を行っています

NEXCO西日本グループの資産や人材を活用した取り組みの一環として、NEXCO西日本エンジニアリング四国では、2011年度より高知県大豊町の拠点観光施設「ゆとりすとパークおおとよ」および「道の駅大杉」の指定管理者として、施設管理と農業事業を展開しています。

2014年度は、地域の食害問題に着目したイベント「第3回四国ジビエ  グルメフェスタ2014」の開催や「土佐風土まつり」などの地元イベントへも積極的に出店しました。



ゆとりすとパークおおとよ 全景



「土佐風土まつり」に参加



ジビエグルメフェスタ



出張販売の様子

[関連ページ](#)

▶ [ゆとりすとパークおおとよ](#)



## 一般有料道路の運営事業への参画

NEXCOが保有している維持管理ノウハウで作業を効率化しています(芦有ドライブウェイ(株))

NEXCO西日本グループの芦有ドライブウェイ(株)では、道路の維持管理に豊富なノウハウを持つNEXCO西日本と維持管理協定を締結し、路面やトンネル側壁の清掃にNEXCO西日本の保有車両を使うなど、業務の効率化を図っています。トンネル側壁の清掃では、延長約1kmを人力の場合2週間近くかかっていたものが、1日足らずで効率的に実施することができ、捻出された時間を他の作業時間に有効に活用しています。



芦有ドライブウェイの四季(春)



路面清掃車



東六甲展望台からの眺望



奥池あそびの広場

### ■ 関連ページ

▶ [芦有ドライブウェイ\(株\)](#)



### 地域と共存し、地域の発展に貢献する有料道路を目指しています

NEXCO西日本とDBJ(日本政策投資銀行)が参画した一般自動車道「芦有ドライブウェイ」は兵庫県芦屋市と有馬温泉(神戸市北区)を結ぶ10.7kmの路線です。1社で料金収受・交通管理・点検・維持作業を実施しており、まさしくNEXCOのコンパクト版といったところです。

開通後50年以上経過した道路であり、今後の維持補修では、NEXCOのノウハウがさらに有効になってくると考えています。また、有料道路の経路内に住宅地が存在し、住民の皆さんが普段から生活道路として利用されていることから、地域と共存し、地域の発展に貢献す

る有料道路を目指しています。

当社道路内には、バーベキューやグラウンド・ゴルフが楽しめる奥池あそびの広場と、大阪平野を一望できる東六甲展望台があります。ぜひ一度お越し下さい。



(株) 事業部長  
和田浩明



## 投資家・国民の皆さま

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### ▶ 透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

低利率かつ安定的な資金調達

- ▶ [道路建設資金の安定的な調達に努めています](#)

外部評価による透明性確保

- ▶ [事業評価監視委員会による外部評価を受け、事業の効率性・透明性を向上させています](#)

### ▶ ステークホルダーとの対話

社長による定例記者会見

- ▶ [毎月の開催を通じて、事業への理解の浸透に努めています](#)

投資家・金融機関の皆さまとの対話

- ▶ [事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています \*\*WEB\*\*](#)
- ▶ [投資家・金融機関の皆さまへの個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています \*\*WEB\*\*](#)

地域住民の皆さまとの対話

- ▶ [高速道路の新設・改築の際は、地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています \*\*WEB\*\*](#)
- ▶ [「なるほど！高速道路発見」現場見学会を開催しました \*\*WEB\*\*](#)

### ▶ 不正通行対策

基本的な取り組み

- ▶ [防止対策や啓発の強化によって、不正通行件数は年々減少しています](#)
- ▶ [不正通行調査隊を組織しています \*\*WEB\*\*](#)

### ▶ メディアを通じた情報発信

ウェブサイトでの情報発信

- ▶ [より使いやすく、きめ細かな情報提供を目指して改良を重ねています](#)
- ▶ [お客様の要望も踏まえ、料金・経路検索サイトを使いやすくリニューアルしました \*\*WEB\*\*](#)

集中工事情報の広報

- ▶ [快適にご利用いただけるよう、広報と説明を徹底しています \*\*WEB\*\*](#)
- ▶ [多様なメディアを活用した広報を実施しています \*\*WEB\*\*](#)



投資家・国民の皆さま

透明性の高い経営の推進と着実な債務の返済

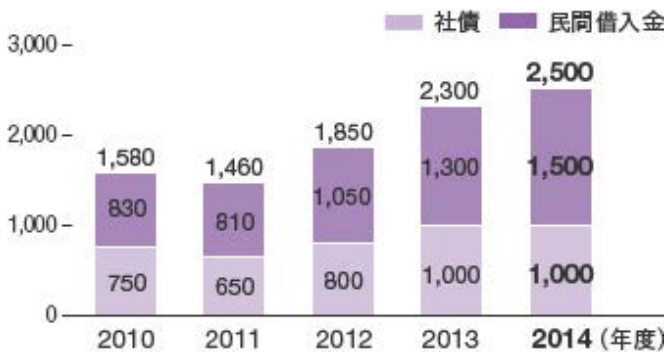
## 低利率かつ安定的な資金調達

道路建設資金の安定的な調達に努めています

高速道路事業の遂行に必要な資金については、社債の発行や民間金融機関からの借入等によって調達しています。

高速道路事業は建設から管理まで長期にわたる事業となるため、低利率かつ安定的に調達できるよう努めています。

▼資金調達の推移(単位:億円)



## 外部評価による透明性確保

事業評価監視委員会による外部評価を受け、事業の効率性・透明性を向上させています

NEXCO西日本では事業の効率性・透明性の向上を図るため、社外の有識者からなる事業評価監視委員会を設置しています。毎年1回開催し、当社の高速道路事業について第三者の立場から評価をいただき、今後の事業計画に役立てています。委員会の開催状況はウェブサイトでも公開しています。

2014年度 事業評価監視委員会 委員

○ 常任委員

帯野 久美子 [(株)インターアクト・ジャパン 代表取締役]

斎藤 峻彦 [近畿大学名誉教授] = 委員長

田辺 貞夫 [(社)関西経済連合会 常務理事・事務局長]

戸田 常一 [広島大学大学院教授]

中瀬 勲 [兵庫県立人と自然の博物館 館長]

○ 特別委員

植松 岳 [一般社団法人九州経済連合会 常務理事]

中野 晋 [徳島大学大学院教授]

2014年度 事業評価監視委員会 事業評価対象事業

○ 再評価

四国横断道(徳島東～徳島JCT)4.7km  
東九州道(椎田南～宇佐)28.3km  
新名神(大津JCT～城陽JCT)25.1km  
新名神(城陽JCT～高槻第一JCT)14.2km  
新名神(高槻第一JCT～神戸JCT)40.5km  
計5事業112.8km

○ 事後評価

西九州道(佐世保中央～佐世保大塔)7.8km  
山陰道(宍道JCT～出雲)18.2km  
計2事業26km

※1 再評価:採択後3年を経過して未着工の事業および5年を経過して継続中の事業、再評価実施後3年経過した時点で継続中もしくは未着工の事業について実施し、事業の継続もしくは中止の方針を決定します。

※2 事後評価:事業完了後5年以内に事業の効果などを確認し、事業の成果に対する説明責任を果たすとともに、必要に応じて適切な改善措置を講じ、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しにも反映します。

---

■ 関連ページ

▶ [平成26年度 西日本高速道路株式会社 事業評価監視委員会](#)




## 投資家・国民の皆さま 不正通行対策

### 基本的な取り組み

防止対策や啓発の強化によって、不正通行件数は年々減少しています

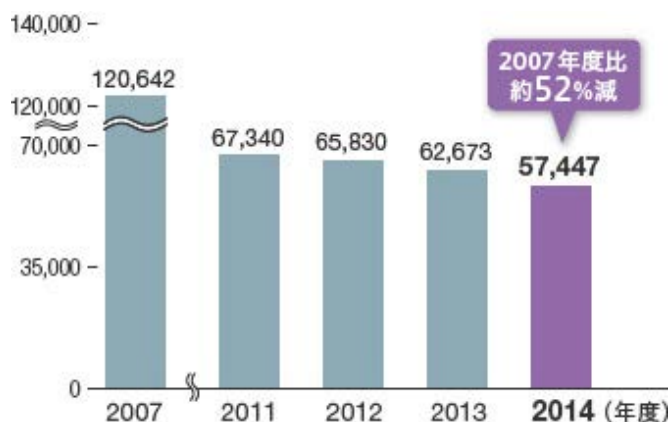
有料道路事業は、道路をご利用されるすべてのお客さまから公平に通行料金をご負担いただくことで成り立っています。

レーンを強行突破するなど不正に通行料金の支払いを免れる行為(不正通行)は、公平性の原則を揺るがす犯罪行為です。

そこで、当社では、毎年「不正通行対策強化月間」を設けて、警察との合同取り締まりをはじめとした各種取り組みを実施しています。また、ETC  の利用方法を含めた不正通行事前防止の啓発活動も行っています。こうした取り組みによって、不正通行件数は年々減少しています。

今後も「不正通行は断固許さない」という毅然とした態度で、悪質な不正通行の分析調査に注力するとともに、警察の捜査にも積極的に協力し、その撲滅を目指していきます。

#### ▼不正通行件数<sup>※</sup>の推移(単位:件)



※不正通行発生件数:後日課金申し出のあった車両を除き、通行料金を支払わず料金所を突破した車両の通行件数。ETC通信ができなかったことに気づかず、未課金のまま通過してしまった車両(ETC未課金車両)も含む。

#### さまざまな不正通行対策



「お知らせアンテナ」を設置し、ETCカード未挿入等による未精算通過を防止

不正通行を防止する開閉バーを一般レーンにも設置



料金所での立哨監視を強化するとともに、警察と連携した取り締まりも推進

不正通行調査隊を組織しています

上記のような不正通行対策のほか、当社では、不正通行者を特定するためのカメラを設置するとともに専門チーム「不正通行調査隊」を組織し、走行のデータ分析や実態調査、警察への通報に必要な証拠収集などを行っています。2014年度には、5件の逮捕・検挙があった他、不正通行者25件を認定し、不法に免れた料金の3倍に相当する額を請求しました。

---

#### ■ 関連ページ

▶ [NEXCO西日本の事業エリアにおける不正通行の事例](#) 



## 投資家・国民の皆さま ステークホルダーとの対話

### 社長による定例記者会見

毎月の開催を通じて、事業への理解の浸透に努めています

当社グループの経営状況、建設・管理、関連事業等への取り組みに対する理解を深めていただくため、社長による記者会見を毎月開催し、情報発信に努めています。



記者会見

### 投資家・金融機関の皆さまとの対話

事業説明会を毎年開催し、わかりやすく丁寧な情報提供を心がけています

当社では、毎年7月頃に東京で、投資家や金融機関の皆さまを対象に事業説明会を開催し、わかりやすく当社の事業に対する理解を深めていただくよう努めています。質疑応答などを通じて、経営層と直接対話いただく機会とすることで、双方向コミュニケーションの場としても活用いただいています。

2014年度は、43機関85名の社債投資家や金融機関にご参加いただき、企業情報や決算情報に加え、皆さまの関心が高かった新名神高速道路の建設状況及び高速道路の老朽化について、その状況と対応方針を丁寧にご説明しました。

今後も皆さまの関心が高い事項をご説明するなど、より充実した説明会となるように努めてまいります。

投資家・金融機関の皆さまへの個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供を心がけています

年度計画公表時や決算発表時など、時機をとらえて、投資家や金融機関の皆さまが多い東京を中心に個別訪問を実施し、タイムリーな情報提供に努めています。

今後も、当社の事業に対するいっそうの理解促進を図るべく、積極的な情報提供に努めてまいります。





2014年7月25日の事業説明会

## 地域住民の皆さまとの対話

高速道路の新設・改築の際は、地元・関係者の皆さまとの協議・事前説明を徹底しています

高速道路を新設・改築する際には、地元自治体や警察、公共施設の管理者などの各関係機関や、計画道路の沿道地域の皆さまと入念な協議を重ねたうえで事業を進めています。

また、説明会や[設計協議](#) の場でいただくご意見については、設計や計画に可能な限り反映させるよう努めています。

事業の全体概要はもちろん、環境対策や事業用地の取得など特に関心の高い事項については、必要に応じて現地での立ち会いや説明会を実施し、関係者の十分な納得が得られるまで説明を行っています。



事業説明会（新名神大津事務所）



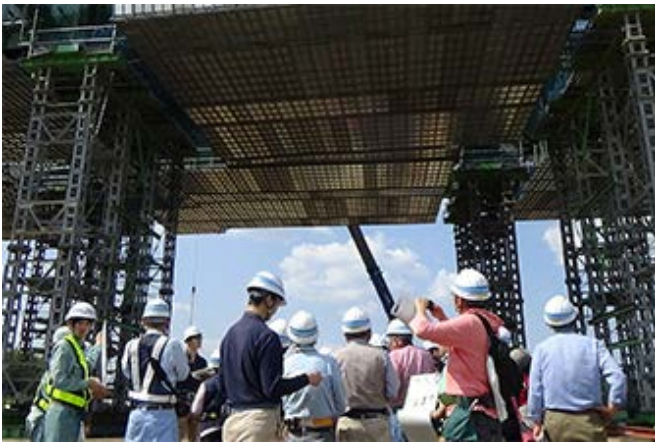
境界立会（新名神京都事務所）

「なるほど！高速道路発見」現場見学会を開催しました

道路保全事業や建設事業につきましては、これまで、管轄する事務所が個別に学校関係者の方や沿線にお住いの方からの要望に応じて、見学会を開催して参りました。

しかしながら近年、非常に多くのお客さまから見学会開催に関するお問い合わせとご要望をいただいていることに加え、新名神高速道路をはじめとした各地での建設工事が今最盛期を迎えていることから、普段は目にするのできない高速道路の現場を多くの皆さんに見学していただき、弊社の安全安心の取り組みなどを“なるほど！”と発見していただく、現場見学会を開催しました。

見学会の開催にあたっては、専用受付サイト「なるほど！高速道路発見」を2014年11月に開設したほか定例記者会見での紹介や報道機関等への個別説明を実施し、広報にも努めました。見学会は、お申込み多数による抽選の結果、当選倍率が17倍に達するなど非常に多くのお客さまからお申込みをいただきました。



現場見学会



建設見学会の専用受付サイト  
「なるほど! 高速道路発見」



## 投資家・国民の皆さま メディアを通じた情報発信

### ウェブサイトでの情報発信

より使いやすく、きめ細かな情報提供を目指して改良を重ねています

当社では、ウェブサイトにおいて、[料金・経路検索サービス](#)、交通情報や渋滞予測情報、工事規制情報などについて、きめ細かな情報提供を心がけています。情報は日々更新するとともに、使いやすいサイトを目指し、改良を重ねています。また、事業内容や記者発表、[IR](#) 情報、調達・お取引情報などについても積極的に公開しています。

お客さまの要望も踏まえ、料金・経路検索サイトを使いやすくリニューアルしました

2014年度は、料金・経路検索サイトを、4月1日からの料金改定に伴ってリニューアルしました。新旧料金を検索できるように変更したほか（現在は対応終了）、お客さまのご要望にお応えして、割引制度の変更に関する情報をサイトのトップ画面に掲載し、「高速道路ガイドマップ」へのリンク掲載も行いました。また、地域の皆さまを対象に積極的に開催しているイベントの実施状況についても、ウェブサイトの専用ページにて掲載しました。その結果、1日あたり約62万件のアクセスをしていただきました。

2015年度も、お客さまからのご意見・ご要望やアンケート結果やウェブサイト分析結果を踏まえて、お客さまのニーズが高い情報を中心にウェブサイトの改良に努めます。



### [Facebook](#)

高速道路開通や工事進捗の情報、SA・PA情報を週3回投稿。「いいね！」数は 5012件(2015年3月末現在)

### 集中工事情報の広報

快適にご利用いただけるよう、広報と説明を徹底しています

当社では、営業中路線の集中工事を実施する際には、お客さまに高速道路を快適にご利用いただけるよう広報を行っており、高速道路をご利用いただくお客さまだけでなく、沿線地域の皆さまや、自治体、交通管理者などの関係機関に対しても、広報と事前説明を徹底しています。

ウェブサイトやリーフレットについては、お客さまが工事情報を詳細に知ることができる広報手段であるため、よりわかりやすく見やすいように心がけるとともに、集中工事の必要性や実施することでの利点なども含めてご理解いただけ

るよう内容の充実を図っています。



リフレッシュ工事特設サイト

多様なメディアを活用した広報を実施しています

集中工事などの広報においては、テレビ・ラジオCMをはじめ、高速道路本線の電光掲示板やSA・PAのハイウェイ情報ターミナル、リーフレット、ポスター、フリーペーパー、ウェブサイト、お客さまセンターなど、あらゆるコミュニケーション手段を活用してお客さまにお伝えしています。



西名阪集中工事をお知らせする、テレビCM



## グループ社員

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### ▶ 人材の育成

キャリアマネジメントの取り組み

- ▶ [「キャリア自律」の志向を促し、人材育成を柱とした人事制度の構築に取り組んでいます](#) **WEB**
- ▶ [めざす人材像](#) **WEB**

人材育成の考え方

- ▶ [NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します](#)

資格取得の支援

- ▶ [企業価値向上のため、各種制度を導入し公的資格の取得を奨励・支援しています](#) **WEB**

採用選考

- ▶ [人物像に重きを置いた採用選考を実施しています](#) **WEB**

研修制度

- ▶ [技術力・専門力を高め、社会に貢献する取り組みを行っています](#) **WEB**
- ▶ [TOPICS: 高速道路の劣化事象等に対処できる専門技術者を育成するため、茨木技術研修センターを開設しました](#) **WEB**

### ▶ 働きやすい職場づくり

メンタルヘルスケア

- ▶ [社員が安心して働けるよう、メンタルヘルスケアに取り組んでいます](#) **WEB**

### ▶ ダイバーシティの推進

ダイバーシティ推進の考え方

- ▶ [一人ひとりの社員がより活躍できる組織づくりを推進しています](#)

ワークライフ・インテグレーション の推進

- ▶ [ワークライフ・インテグレーションの実現に向けた制度改革を実施しています](#) **WEB**

女性の活躍促進

- ▶ [女性の就業継続とキャリアアップを支援する取り組みを進めています](#) **WEB**

障がい者の雇用促進

- ▶ [障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます](#) **WEB**

定年後再雇用制度

- ▶ [定年退職者に活躍の機会を提供しています](#) **WEB**

### ▶ グループ会社の取り組み事例

NEXCO西日本メンテナンス中国

- ▶ [道路工事の際、交通規制にあたる社員に対し資格取得を支援しています](#)

NEXCO西日本サービス関西

- ▶ [女性スタッフの雇用促進とあわせ、管理職育成研修に取り組んでいます](#) **WEB**



## グループ社員 人材の育成

### キャリアマネジメントの取り組み

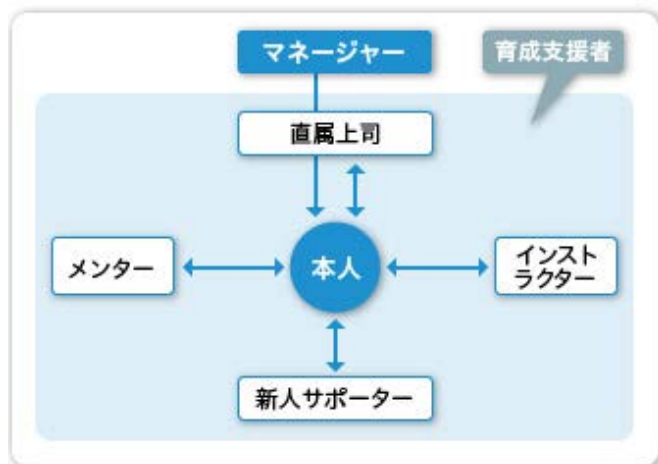
「キャリア自律」の志向を促し、人材育成を柱とした人事制度の構築に取り組んでいます

NEXCO西日本グループが将来にわたって使命を果たし、国民の皆さまから信頼し続けられる企業であるために、現場主義に徹した自律型人材を育成する必要があります。そこで、現場力・組織力を強化、自己変革し続ける組織を目指して、「めざす人材像」を明らかにし、「キャリアロードマップ」を策定しています。

#### めざす人材像

私たちは、「100%の安全・安心」を追求し、円滑で快適な高速道路サービスを提供するために、『現場主義に徹して、自ら考え行動し、自己変革し続けるプロフェッショナルな人材』を目指します。

#### ▼「教育研修体系図」のイメージ



### 人材育成の考え方

NEXCO西日本グループの使命を担っているグループ社員一人ひとりの成長を支援します

当社グループでは、自律型人材の育成や自己変革組織を実現するため、「社員の成長、人材育成」「リーダーシップ・マネジメント力強化」「組織力・現場力強化」の3つを柱とした人事制度の構築に取り組んでいます。

若年層のうちは、幅広く全般を学び、OJT※を通じて自ら目的意識を持って考え行動する「自律型人材」への成長を促し、今後の実践につなげるための支援をしています。また、一人ひとりが使命感を持ち、安全・安心な高速道路を最前線で支える現場を知ることが重要であり、強い「現場力」を発揮する組織をつくるため、グループ会社間における人事交流を実施しています。

※OJT(On-the-Job Training): 職場内において、管理監督者の責任のもとで行われる教育訓練全般。

### 資格取得の支援

企業価値向上のため、各種制度を導入し公的資格の取得を奨励・支援しています

当社では、社員の資格取得を奨励・支援するため「資格取得支援制度」を導入しています。

#### ▼資格取得支援制度による資格取得例

- ・安全運転管理者
- ・技術士
- ・陸上特殊無線技士(1級)
- ・防災士
- ・危険物取扱者
- ・技術士補
- ・整備管理者
- ・1級土木施工管理技士
- ・宅地建物取引責任者
- ・その他

## 採用選考

人物像に重きを置いた採用選考を実施しています

「自立」と「成長」を積極的に担う多才な人材を確保するため、当社グループが求める才能、人材像をより明確に定義した採用選考活動を実施しています。

また、2014年度入社採用活動からは、「NEXCO西日本グループ合同企業説明会」を開催し、グループ全体で幅広く人材を募集・採用しています。2015年度の新入社員は99人(男性78人、女性21人)<sup>※</sup>です。

※集計範囲：NEXCO西日本

NEXCO西日本が採用に当たって求める人材

1. 目的意識や信念を持って活動する人材
2. チームワーク志向と使命感、熱い思いを持った人材
3. 旺盛な好奇心・探究心、向上心、チャレンジ精神を持った人材
4. 地域社会への貢献に意欲ある人材


## 研修制度

技術力・専門力を高め、社会に貢献する取り組みを行っています

信頼性の高い道路管理を支える技術者を育成するため、茨木技術研修センター(I-TR=アイトレ)を活用し、構造物等の損傷要因の体系的理解の修得や点検から診断までを実体験する「体験型研修」を毎年実施しています。今後も、研修内容をリニューアルしながら、グループ社員も含めた専門技術者の育成を継続していきます。

また、当社グループの技術力・専門力をういて各種問題の解決に寄与し、社会に貢献するため、外部機関が主催する学会・委員会等へ社員の積極的な参加を促しています。

#### ▼実施を予定している研修

| 分野 | 目的                 | 研修内容  |
|----|--------------------|---|
| 橋梁 | 基礎知識の習得や点検・調査技術の取得 | 実構造物の活用により、過去の技術の特長や現在の鉄筋背筋の現状を解説<br>実構造物の活用により、損傷メカニズム、点検・調査のポイントを解説<br>実構造物の活用により、打音点検や <a href="#">非破壊検査</a>  などを体験実習 |
| 舗装 | 基礎知識の習得や点検・調査技     | 実構造物の活用により、目視点検や非破壊の調査などを体験   |







## グループ社員 ダイバーシティの推進

### ダイバーシティ推進の考え方

一人ひとりの社員がより活躍できる組織づくりを推進しています

2014年に「違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ」というビジョンを策定し、「[ダイバーシティ](#)」推進プロジェクト」を立ち上げました。

社員一人ひとりが自律・成長することにより、会社を取り巻くさまざまな環境の変化にしなやかに対応できる組織を目指して、[ワークライフ・インテグレーション](#)の推進や女性、定年退職者、障がい者をはじめとする多様な人材の活躍促進など、各種施策に取り組んでいます。



ダイバーシティに関するディスカッション風景



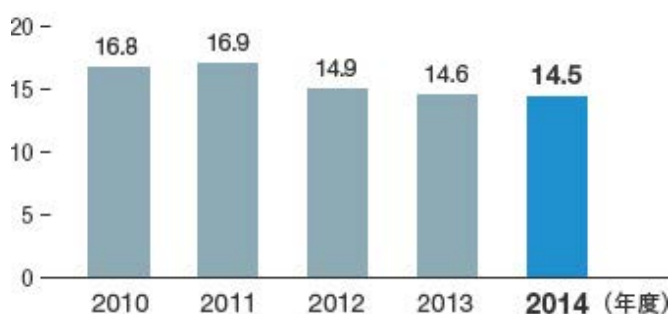
ダイバーシティ説明会

### ワークライフ・インテグレーションの推進

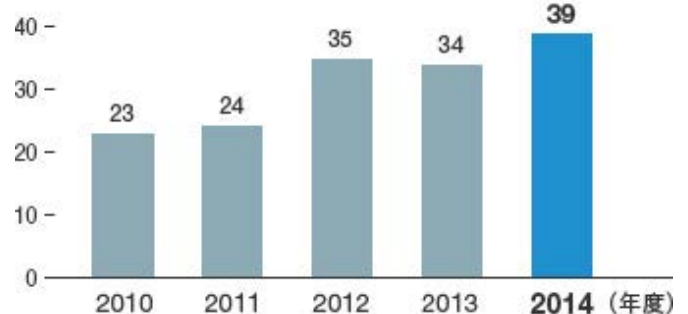
ワークライフ・インテグレーションの実現に向けた制度改革を実施しています

社員一人ひとりがそれぞれの人生観・価値観を持つことによって個人生活(ライフ)を充実させれば、仕事(ワーク)においても相乗効果が生まれ自己の能力を最大限に発揮することが可能となります。この「[ワークライフ・インテグレーション](#)」の実現のため、各種制度及び制度利用環境の整備を進めています。

▼有給休暇取得実績(単位:日)



▼育児休業取得実績(単位:人)



(注)対象・集計範囲はいずれも、NEXCO西日本

※2010年度～2011年度は年次有給休暇および夏季特別休暇の日数を、2012年度以降は年次有給休暇およびポジティブ休暇の日数を

## 女性の活躍促進

女性の就業継続とキャリアアップを支援する取り組みを進めています

女性社員の活躍促進のために女性総合職社員の採用・登用を進め、多様な視点を会社に取り入れることで組織の活性化を図っています。

女性の活躍促進のための社内ネットワークとして2013年に立ち上げた「ウィメンズネットワーク」を、「[ダイバーシティ](#)推進プロジェクト」の一分科会として改めて位置づけ、継続的に活動しています。

女性社員同士の意見交換の場として、女性の活躍を阻む課題の抽出や解決策の検討を進めるとともに、このネットワークを通じて、女性社員自身のキャリア意識向上につなげることができるよう、引き続き活動を展開していきます。

当グループの2015年3月末現在の女性管理職の比率は6.7%(184人)です。



ウィメンズネットワーク会議の様子

### ▼女性社員の比率(NEXCO西日本)



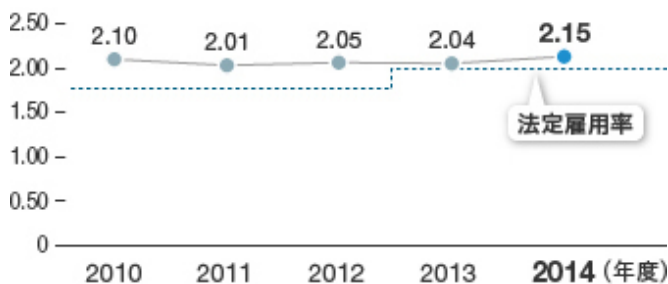
## 障がい者の雇用促進

障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます

当社グループでは、障がい者が自立し、社会参加できるように、障がい者の採用を継続的に行っています。また、職場環境に関して、[バリアフリー](#)化などのハード面と健康相談などのソフト面の両面で、障がい者が働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

当社の2015年2月現在の障がい者雇用率は2.15%(53人)です。

### ▼障がい者雇用率の推移(NEXCO西日本)(単位:%)



## 定年後再雇用制度

定年退職者に活躍の機会を提供しています

定年退職者のキャリアを活かし、働きがいを持って活躍できる機会と場を拡大するため、再雇用制度を導入しています。2014年度は、当社の定年退職者のうち、継続雇用希望者13人全員を再雇用しました。

※集計範囲：NEXCO西日本



## グループ社員 働きやすい職場づくり

### メンタルヘルスケア

社員が安心して働けるよう、メンタルヘルスケアに取り組んでいます

当社では、グループに先がけて、社員のメンタル疾患の未然防止・心の健康増進と早期発見・早期治療のため、2013年度より全社員を対象とした「メンタルヘルスチェック」を実施しています。

また、相談体制として、心理相談員を医務室に配置し、気軽に相談できる体制を整えるとともに、社員のプライバシー保護の観点から、外部機関による面接や電話でのカウンセリングも受けられるようにしています。

このほか、本社・各支社への医務室の設置、産業医・看護師による健康相談、人間ドックの利用補助や健康保険組合の各種保険事業など、社員の身体面の健康管理にも配慮しています。



## グループ社員 グループ会社の取り組み事例

### NEXCO西日本メンテナンス中国

道路工事の際、交通規制にあたる社員に対し資格取得を支援しています

交通規制の実施にあたっては、安全かつ迅速な対応が求められます。そのためNEXCO西日本メンテナンス中国では、交通誘導警備業務2級検定を受検する社員を対象に、社内で学科・実技を含めた「事前教育」を実施するなど、資格取得を支援しています。

2014年度は同検定に16名が合格、現場社員の取得者は累計で111名（約60%）になりました。2015年度は、28名の社員が「事前教育」の受講と検定受検を予定しています。

### 社員コメント



#### NEXCO西日本メンテナンス中国

資格取得を目指す社員の「やる気力」  
「意志力」アップをサポートしていきます

「企業価値を向上させる資格」「業務遂行に必要な資格」「個人のスキルアップを目指す資格」の取得に向け、社員のモチベーションの向上に努めています。


資格取得支援の担当部署として、気軽に相談に乗ってくれる先輩社員、チョットしたプレッシャーを与える上司など、一人にしない職場環境を整えながら、受検する本人が競争心を沸かして「やる気力」「意志力」をアップさせる取り組みを促進していきます。



工務調達部 部長  
古輪 一明

### NEXCO西日本サービス関西

女性スタッフの雇用促進とあわせ、管理職育成研修に取り組んでいます

第二世代ETC  の拡充により、お客さま対応がこれまでのブースでの直接対応からインターホンやモニター越しでの対応へと変化しているなか、お客さまに安心感を与える為にも声の印象は重要だと考えています。

CS向上を図るためにも、向こう5年間の女性スタッフの採用計画を策定するとともに、管理職として必要不可欠なマネジメントスキル等を向上させるための研修を実施し、優秀な女性スタッフを積極的に管理職に登用する機会を設けるなどの活躍の促進に取り組んでいます。

## NEXCO西日本サービス関西

## 女性管理職がさらに活躍できる職場づくりを目指します

料金收受業務は男性の職場というイメージが強く、また、24時間勤務であることなどから、NEXCO西日本サービス関西として事業を開始した2006年当時は、料金所の女性スタッフは20名程度とごくわずかでしたが、女性の採用に積極的に取り組んだ結果、今では300名以上の女性スタッフが活躍するまでになりました。

女性管理職も徐々に増え、今後のさらなる活躍にも期待するところですが、料金所スタッフはそのほとんどが中途採用で、マネジメントに関しては前職での経験に頼るところが多くあります。ところが、女性スタッフで管理職経験のある方はごくわずかです。今後は、女性管理職を対象に、管理職の基本的な役割、部下との関わり方などに重点をおいた研修の実施を検討していきます。



人事課長  
堀谷 晃石

人の「善いところをみる」ことをモットーに  
管理職の仕事に向き合っています

男性ばかりの職場とは気に留めず飛び込んで9年がたちました。前職は女性ばかりの職場でしたので少々心細く思いましたが、人と人の間で仕事をするのは同じです。

「管理職」として異動する時は、管理職とは何をすべきか、辞書まで引いて考えましたが、その頃は女性管理職も少なく一生懸命やるしかないとお受けしました。

常に心がけていることは、人の「善いところをみる」と言うことです。業務の中で人間関係を円滑にすることで、事故・トラブル等も皆の協力でなくすことができると思います。

前職は営業というお客さまに対して攻めの仕事でしたので、当初は料金所の仕事内容に戸惑いました。しかし、長岡京北料金所長として1年が過ぎ、お客さまを接遇(おもてなし)することの難しさと喜びを実感しています。そしてスタッフのスキルアップのためには「何を、どこを、どうして、どうすればいいのか」と日々考えています。

後に続く方のために女性管理職として頑張らなくては、と思っています。



長岡京北料金所長  
田中 眞佐世



## お取引先

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### ▶ SA・PAのテナント会社との協働

お客さま満足度の向上

- ▶ [接客力の向上に取り組んでいます](#)

「地域物産展」の開催

- ▶ [「地域物産展」を開催しています](#) **WEB**

テナント会社向け研修

- ▶ [食品衛生講習会を実施しています](#)
- ▶ [TOPICS:「スマイルコンテスト」を実施しています](#) **WEB**

### ▶ 公正な取引関係

基本的な考え方

- ▶ [契約の基本方針](#)

適正な契約相手方の選定と手続き

- ▶ [契約の過程ならびに結果を外部有識者が審議しウェブサイト上で公表しています](#)

暴力団関係企業等の排除を徹底

- ▶ [警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底します](#) **WEB**

契約情報の公表

- ▶ [入札・契約情報の正確でわかりやすい情報開示に努めています](#) **WEB**



## お取引先 公正な取引関係

### 基本的な考え方

「公共調達に係る契約に関する事務を適正かつ円滑に処理し、競争性・公正性・透明性を確保しつつ会社の経営の効率化を図る」という目的達成のため、基本方針をもとに取引を行っています。

#### 契約の基本方針

1. 競争原理と経済性の追求
2. 品質の確保とさらなる向上
3. 契約機会の提供と拡大
4. 適正な契約相手方の選定
5. 法令等の遵守

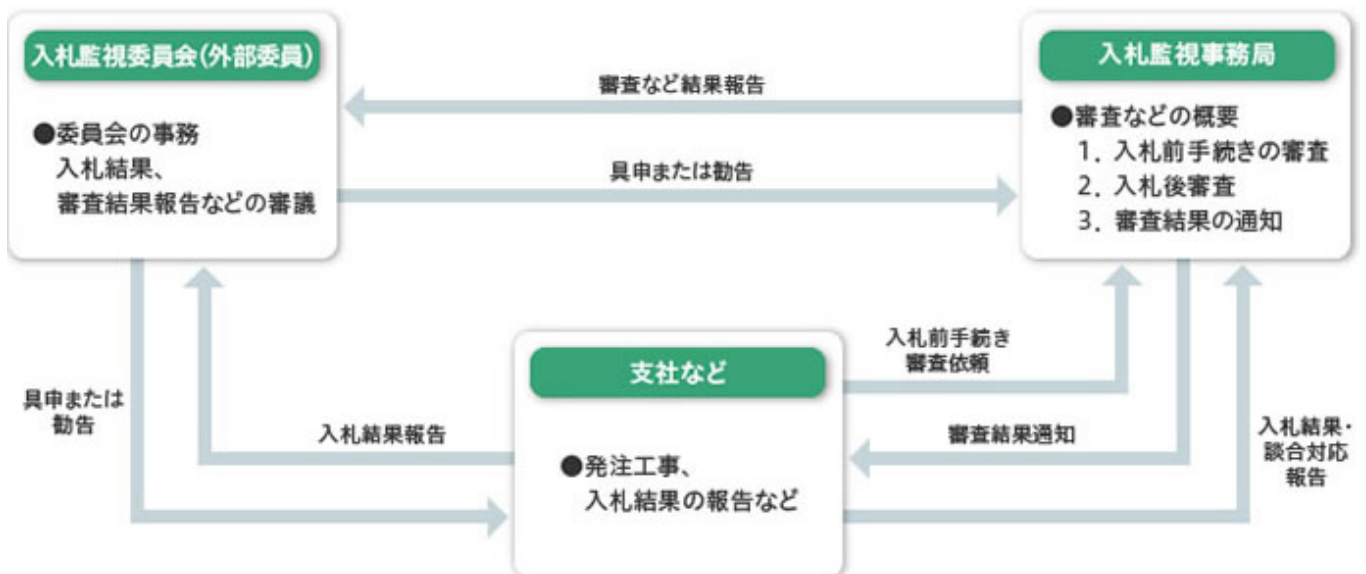
### 適正な契約相手方の選定と手続き

契約の過程ならびに結果を外部有識者が審議しウェブサイト上で公表しています

入札および契約の過程ならびに契約内容の透明性を確保するため、各支社に弁護士、大学教授など外部有識者からなる「入札監視委員会」を設置しています。審議内容については、当社ウェブサイトの「調達・お取引」で公表し、透明性の向上に努めています。

また、事業部門から独立した「入札監視事務局」を設置し、工事の発注単位などの事前審査、入札・契約結果に関する事後審査、契約に関するデータ収集・分析を実施しています。

#### ▼入札手続きなどの監視体制





---

## ■ [関連ページ](#)

---

### ▶ [入札監視委員会の審議概要](#)

## 暴力団関係企業等の排除を徹底

警察当局と連携し、公共工事から暴力団関係企業等の排除を徹底します

警察との連絡協議体制をいっそう強化し、公共工事からの暴力団関係企業等の排除を徹底するため、「東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社及び西日本高速道路株式会社が行う公共工事からの暴力団関係企業等の排除に関する合意書」(平成25年3月29日)を警察庁との間で締結しました。

警察との緊密な連携のもとに十分な情報交換等を行い、この合意書に基づく警察からの排除要請があれば速やかに必要な排除措置を講じるなど、適切に取り組んでいきます。

## 契約情報の公表

入札・契約情報の正確でわかりやすい情報開示に努めています

「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」を踏まえ、公共調達に係る契約の透明性を確保するため、工事・調査等の入札・契約情報について、ウェブサイト内の「調達・お取引」で公表しています。

---

## ■ [関連ページ](#)

---

### ▶ [調達・お取引](#)



## お取引先 SA・PAのテナント会社との協働

### お客さま満足度の向上

接客力の向上に取り組んでいます

NEXCO西日本グループでは、SA・PAのテナント従業員の方を対象とした接客コンテストを実施しています。コンテストを通じてより高い接客技術を身に付けることを目的としています。

また、グループ内のコンテストで優秀な成績を収められた従業員の方は、社外のコンテストに参加いただき、さらなる接客力とモチベーションの向上につなげています。2014年度は、2013年度のグループ内のコンテストでグランプリ・準グランプリを受賞した3名が日本ショッピングセンター協会主催の[ロールプレイング](#)コンテストに参加しました。

今後も、SA・PAのテナント会社と協働で、接客力の向上に取り組んでいきます。

### 社外コメント



#### SC接客ロールプレイングコンテスト ※1出場者より



(株)三好野本店  
永吉 かおり 様※2

コンテストで学んだことを店舗で共有し、さらに親しみのある接客につなげたい

社外コンテストには、笑顔とアイコンタクト等、常にお客さまの立場に立って行動・接客するという日頃から大事にしていることに自信を持ち、楽しむ気持ちで臨みました。学んだことを店舗のスタッフにも共有し、さらに親しみのある接客につなげていきたいと思っています。



九州産交リテール  
(株)  
溝口 美穂 様

緊張しましたが、普段どおり心のこもった接客を披露できました

初めての社外コンテストは緊張しましたが、普段どおりの笑顔と気配りの接客を披露できました。接客の動きや丁寧さは短期間で身につけられるものではないので、今後も全スタッフでトレーニングし、日頃の接客において、自然な振る舞いができるよう努めていきたいです。



店舗スタッフも刺激を受け、店全体の意識が向上しました

社外コンテストは、より多くのお客さまに舞鶴若狭自動車道 西紀SAを知っていただくために、自分自身ができることを考える良い機会になりました。また、店舗スタッフが刺激を受け、接客意識の向上にもつながりました。練習に付き合ってくれた同僚にも、感謝しています。

光明興業(株)

鶴 直樹 様

※1 一般社団法人日本ショッピングセンター協会主催。テナント従業員の資質向上を目的に、全国8地区に分かれて開催されている。

※2 中国・四国大会「審査員特別賞」受賞

## 「地域物産展」の開催

「地域物産展」を開催しています

地域色豊かな特産品をSAにおいて販売する地域物産展を、2014年5月から毎月第2土曜・日曜に開催しています。地域商材を多くのお客さまに知っていただくことで地域の魅力をアピールし、地域に喜んでいただくことを目的としています。

2014年度は延べ25日、60カ所で開催しました。開催にあたっては地元の商工会へ働きかけ、商工会や出店事業者の協力のもとで地域商材を販売し、地域との有効な関係構築に努めました。

2015年度も継続して地域物産展を開催し、各テナント会社や地元の商工会と協働で、地域の魅力をアピールするために取り組んでいきます。



地域物産展の様子  
(九州自動車道 宮原SA(上り線))



販売商品例  
(阪和自動車道 岸和田SA(上り線))

## テナント会社向け研修

### 食品衛生講習会を実施しています

SA・PAの飲食店などの店舗を利用されるお客さまに、安全・安心な食事を提供することはサービスの基本です。そこで、SA・PA各テナント従業員の食品衛生に関する知識と意識の向上を目的とした食品衛生講習会を、年1回実施しています。

2014年度は、テナント会社(全56社)に参加いただきました。今後も講習会を継続実施していきます。



食品衛生講習会の様子

## TOPICS

### 「スマイルコンテスト」を実施しています

SA・PAのテナント従業員の方に感謝の気持ちを伝えるとともに、従業員の方のモチベーション向上を図り、SA・PAの価値をさらに高めることを目的に、2013年度から「スマイルコンテスト」を実施しています。

このコンテストは、当社グループの社員がSA・PAに立ち寄った際、優れた接客をしている従業員の方に対して「スマイルカード」をお渡しし、期間中、多くのカードを獲得された従業員の方に表彰状を贈るものです。

2014年度は、関西地区、中四国地区、九州地区の3つの地区において、各2回実施しました。

2015年度も従業員の方のモチベーション向上のためのコンテスト等を継続して実施する予定です。



**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

## ▶ 環境経営の推進

### 環境マネジメントの推進

- ▶ [中期計画「環境基本計画2015」に基づき活動を推進しています](#)

### 事業活動と環境負荷

- ▶ [事業活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています](#) **WEB**

## ▶ 低炭素社会の実現

### 基本的な考え方

- ▶ [省エネや創エネによって、CO2排出量の削減に努めています](#) **WEB**

### 交通渋滞の解消

- ▶ [高速道路整備やETC利用の普及促進で自動車交通によるCO2削減を目指しています](#) **WEB**

### 省エネルギーの推進

- ▶ [電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています](#)
- ▶ [オフィスでの省エネ活動を継続しています](#) **WEB**
- ▶ [SA・PA\(店舗など\)での省エネ活動を推進しています](#) **WEB**

### 充電システムの整備

- ▶ [電気自動車\(EV\)用急速充電システムの整備に取り組んでいます](#) **WEB**

### 創エネルギーの推進

- ▶ [SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています](#) **WEB**

### のり面の樹林化

- ▶ [高速道路の盛土のり面を原則樹林化し、間伐や剪定などの維持管理も実施しています](#) **WEB**
- ▶ [TOPICS: 高速・一定速度の走行による環境効果](#) **WEB**

## ▶ 循環型社会の形成

### 建設副産物の3R

- ▶ [建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています](#)

### 緑地管理の3R

- ▶ [刈草や剪定枝を緑化資材に転用する「緑のリサイクル」を行っています](#) **WEB**
- ▶ [緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に](#)

## ▶ 自然と共生する社会の推進

### エコロード

- ▶ [2つの軸を定め、エコロードを推進しています](#) **WEB**

### 生物多様性の保全

- ▶ [道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています](#)
- ▶ [地域固有の「地域性苗木」を育成・植栽し、生態系の保全に最大限配慮しています](#) **WEB**

[努めています](#) **WEB**

事業活動により発生する廃棄物の3R

- ▶ [SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています](#) **WEB**
- ▶ [道路設備のリサイクルを進めています](#) **WEB**
- ▶ [大型・特殊車両の再利用を促進しています](#) **WEB**

水のリユース

- ▶ [水をリサイクル・リユースしています](#) **WEB**

環境に配慮した調達

- ▶ [公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます](#) **WEB**

野生動物の事故防止

- ▶ [けもの道や防止柵の設置に取り組んでいます](#) **WEB**

沿道環境の保全

- ▶ [道路交通による騒音の低減に努めています](#) **WEB**
- ▶ [TOPICS: 吉野川の環境保全](#) **WEB**



環境保全  
環境経営の推進

環境マネジメントの推進

中期計画「環境基本計画2015」に基づき活動を推進しています

NEXCO西日本グループでは2011年7月、「環境方針」に基づく中期計画として「環境基本計画2015」を策定しました。この環境基本計画は、「[低炭素社会](#)」の実現、「[循環型社会](#)」の形成、「自然と共生する社会の推進」という環境方針に基づく3つの重点テーマと、環境コミュニケーションというテーマに関わる活動から成り立っています。

また、2008年12月に本社においてISO14001の認証を取得し、[PDCAサイクル](#)を回すことによって、環境負荷低減の取り組みを継続的に改善しています。

2015年度も引き続き活動を推進していきます。

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、[持続可能な社会](#)の形成を目指します。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関係する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。

(2008年策定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組みます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組みます。

循環型社会の形成に取り組みます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制(リデュース)、循環資源の再使用(リユース)及び再生利用(リサイクル)に取り組みます

自然と共生する社会の推進に取り組みます

人と生きものが豊かに暮らせる社会を目指し、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組みます。

▼「環境基本計画2015」および [環境アクションプラン](#) 2014

▶ [PDF版\(328KB\)](#)

| 実行目標計画の取り組み項目 | 活動内容          | 指標                     | アクションプラン     |                |
|---------------|---------------|------------------------|--------------|----------------|
|               |               |                        | 2014年度<br>目標 | 2014年度<br>実績   |
| 円滑な交通の確保      | 高速道路ネットワークの整備 | 開通延長                   | 39km※1       | 39km※1         |
|               |               | CO <sub>2</sub> 削減量    | 16,000トン     | 16,000トン       |
|               | 本線渋滞の         | 工事を効率的に実施することで本線渋滞の削減工 | 本線渋滞<br>損失時間 | 105万台・<br>時間以下 |

低炭素社会の実現

|                     |                             |  |                        |                    |                              |        |
|---------------------|-----------------------------|--|------------------------|--------------------|------------------------------|--------|
|                     | 削減                          | 事に伴う本線渋滞損失時間を削減する                                | CO <sub>2</sub> 排出量    | 3,044トン            | 984トン                        |        |
|                     | ETCレーンの複数設置                 | 入口にETCレーンの複数設置を進める                               | 設置箇所                   | 179カ所              | 130カ所                        |        |
| 省エネルギーの推進           | 電気使用量の削減                    | 道路施設の維持管理に要する電気使用量を削減する                          | 電気使用量                  | 2011年度実績より削減する     | 255.3百万kWh<br>(2011年度比▲3.7%) |        |
|                     |                             |  | CO <sub>2</sub> 排出量    | 161,795トン          | 159,202トン                    |        |
|                     | 車両の燃費向上                     | 連絡車両についてエコドライブの実施や低公害車(低燃費・低排出ガス車)の導入により燃費を向上させる | 燃費                     | 2009年度実績より向上させる    | 5.2%向上<br>(2009年度比)          |        |
|                     |                             |  | CO <sub>2</sub> 排出量    | 1,491トン以下          | 1,278トン                      |        |
|                     | ガス使用量の削減                    | オフィス活動に要するガス使用量を削減する                             | ガス使用量(都市ガス+LPガス)       | 2009年度実績より5%以上削減する | 17.3%削減                      |        |
|                     |                             |  | CO <sub>2</sub> 排出量    | 996トン以下            | 732トン                        |        |
|                     | 水使用量の削減                     | 休憩施設(トイレ)の維持管理に要する水使用量を削減する                      | 水使用量                   | 2009年度実績より削減する     | 2.2%削減<br>(2009年度比)          |        |
|                     |                             |  | CO <sub>2</sub> 排出量    | 587トン              | 562トン                        |        |
|                     | 創エネルギーの推進                   | 太陽光発電の導入の推進                                      | 新設料金所等に太陽光発電を設置する      | 導入量                | 120kW                        | 120kW  |
|                     |                             | EVスタンドの整備  | サービスエリア等に急速充電システムを整備する | 設置箇所               | 80カ所※2                       | 80カ所※2 |
| 二酸化炭素吸収源対策          | 道路緑化等によるCO <sub>2</sub> の固定 | 盛土のり面の樹林化を推進する                                   | 設置面積                   | 51.9ha             | 48.8ha                       |        |
|                     |                             |  | CO <sub>2</sub> 削減量    | 498トン              | 468トン                        |        |
| 技術開発                | 新技術・新材料の開発                  | 省エネ型照明光源を導入する                                    | 設置数                    | 388灯               | 506灯                         |        |
| 環境に配慮した製品・資材等の調達の推進 | グリーン調達 <sup>□</sup> の推進     | 事務用品における特定調達物品などの調達率100%を目指す                     | 調達率                    | 100%を目指す           | 100%                         |        |
|                     | 維持管理車両の再利用                  | 維持管理車両の再利用を推進する                                  | 車両台数                   | 再利用の継続             | 64台                          |        |
|                     |                             |  | 有効利用率                  | 95%以上              | 97.1%                        |        |
|                     |                             | 建設発生土のリサイクル                                      | 有効利用                   |                    |                              |        |



|                     |                      |   |                           |                      |                        |             |
|---------------------|----------------------|---|---------------------------|----------------------|------------------------|-------------|
| 循環型社会の形成            | 廃棄物の発生抑制・資源の循環的利用の促進 | 廃棄物の3R <sup>□</sup> (リデュース、リユース、リサイクルの推進)   | を推進する                     | 率                    | リサイクル可能なものについて100%を目指す | 100%        |
|                     |                      |   | アスファルト・コンクリート塊のリサイクルを推進する | 再資源化率                |                        | 100%        |
|                     |                      |   | コンクリート塊のリサイクルを推進する        | 再資源化率                |                        | 100%        |
|                     |                      |   | 休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する      | 再資源化率                |                        | 100%        |
|                     |                      |   | 建設発生木材のリサイクルを推進する         | 再資源化・縮減率             |                        | 100%        |
|                     |                      |   | 建設汚泥のリサイクルを推進する           | 再資源化・縮減率             |                        | 99.4%       |
|                     |                      |   | バイオディーゼル燃料使用を拡大する         | 維持作業機械の使用量           |                        | 9,600ℓを維持する |
| CO <sub>2</sub> 削減量 | 24トン                 | 19トン  |                           |                      |                        |             |
| 自然と共生する社会の推進        | 自然環境の保全              | エコロードの推進                                    | 動物侵入防止対策を推進する             | 設置延長                 | 246.1km                | 134.1km     |
|                     |                      |   | 森林再生事業「つなぎの森」を展開する        | 整備面積                 | 3ha                    | 8ha         |
|                     |                      | CO <sub>2</sub> 削減量                         |                           | 20.4トン               | 39.9トン                 |             |
| 生活環境の保全             | 道路交通騒音対策             | 高機能舗装の新規敷設を推進する                             | 敷設延長                      | 679.3km <sup>2</sup> | 724.2km <sup>2</sup>   |             |
|                     |                      | <a href="#">遮音壁</a> <sup>□</sup> の新規設置を推進する | 設置延長                      | 14.2km               | 15.5km                 |             |

※1 徳島自動車道 鳴門JCT～徳島IC(11km)、東九州自動車道 行橋IC～みやこ豊津IC(7km)、東九州自動車道 豊前IC～宇佐IC(21km)

※2 [ハイウェイオアシス](#)<sup>□</sup>への設置は含まない

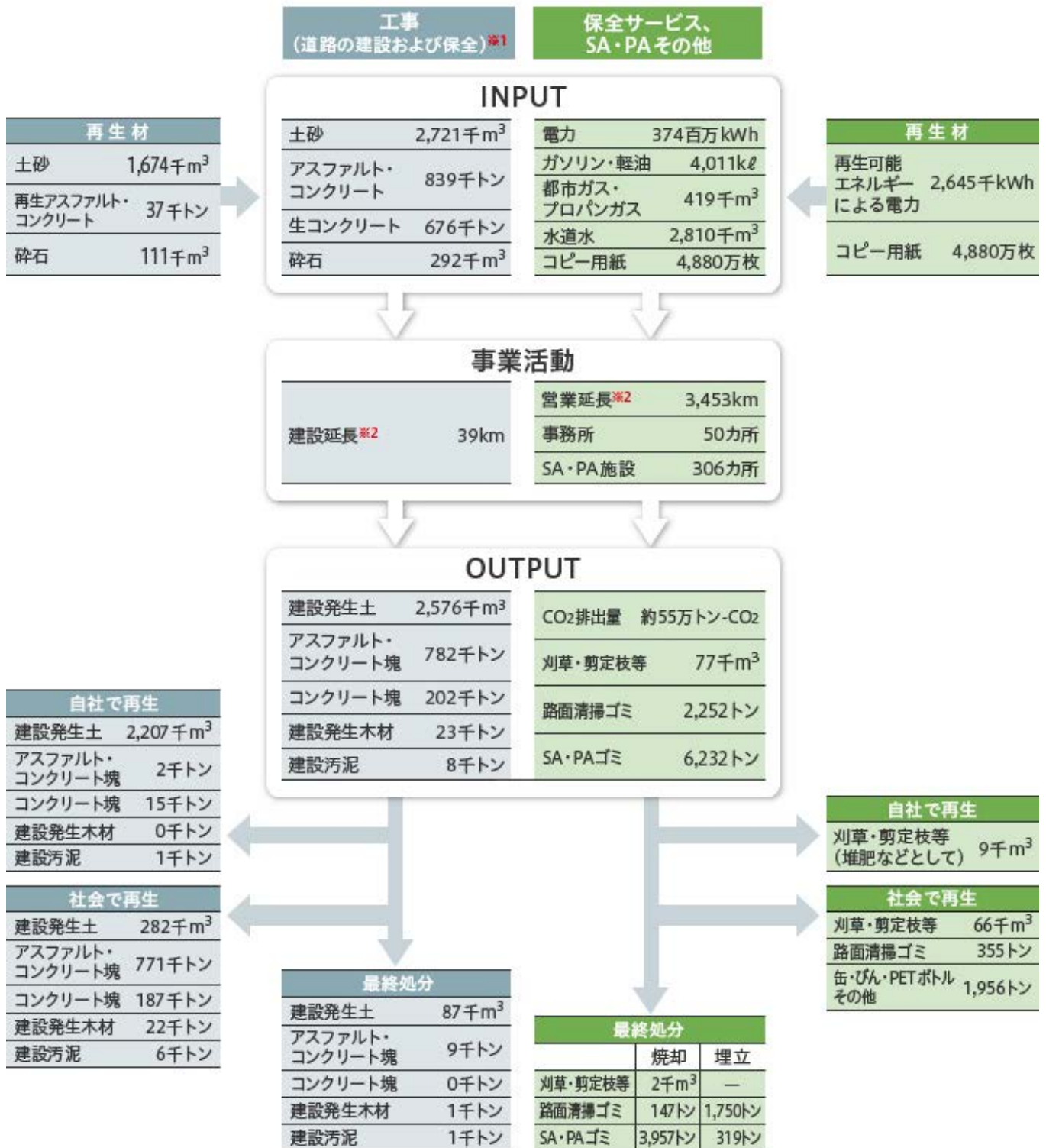
## 事業活動と環境負荷

事業活動全体での環境負荷について定量的な把握に努めています

当社グループでは、高速道路の建設、維持管理、SA・PAなど休憩施設の運営などすべての事業活動が環境にどの程度負荷を与えているのか、できる限り定量的に把握するよう努めながら、環境に配慮したさまざまな取り組みを推進しています。

これらの事業活動による2014度の環境負荷の[マテリアルフロー](#)<sup>□</sup>(原材料から廃棄物までのモノの流れ)は以下のとおりです。主なものとして、2,721千m<sup>3</sup>の土砂、839千トンのアスファルト・コンクリート、676千トンの生コンクリート、4,880万枚のコピー用紙、374百万キロワットアワーの電気使用量、4011キロリットルの自動車燃料、2810千m<sup>3</sup>の水道水などがあります。

### ▼事業活動に伴うマテリアルフロー



※1 2014年度にしゅん功(完了)した工事のマテリアルフロー

※2 2015年3月末現在



## NEXCO西日本

## 環境方針の3つの重点テーマの実現を目指し、 着実に環境経営を進めていきます

当社は毎年度環境アクションプランを定め、環境の保全・改善に努めています。2014年度は、CO<sub>2</sub>の排出量削減に向け、本線やIC、料金所等を含む高速道路の電気使用量削減に注力し、2013年度比約1.6%減を達成しました。また、[生物多様性](#) □ 保全の一環として地域性苗木(地域に自生している樹木の苗木)の植樹を進めており、2014年度は東九州道で約



技術環境部 専門役

5,000本の植栽を完了しました。今後、工事中の新名神に、約60,000本を植栽する予定です。

首藤 繁雄

今後も、環境方針の3つの重点テーマの実現に取り組むとともに、環境負荷の削減に資する新技術・新材料の開発・採用によって、着実に環境経営を進めていきます。



## 環境保全 低炭素社会の実現

NEXCO西日本グループでは、[低炭素社会](#) の実現に寄与するため、事業活動やNEXCO西日本管内の高速道路における自動車交通などに伴って発生するCO<sub>2</sub>排出量の把握に努め、その削減を推進するさまざまな活動をしています。

### 基本的な考え方

省エネや創エネによって、CO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています

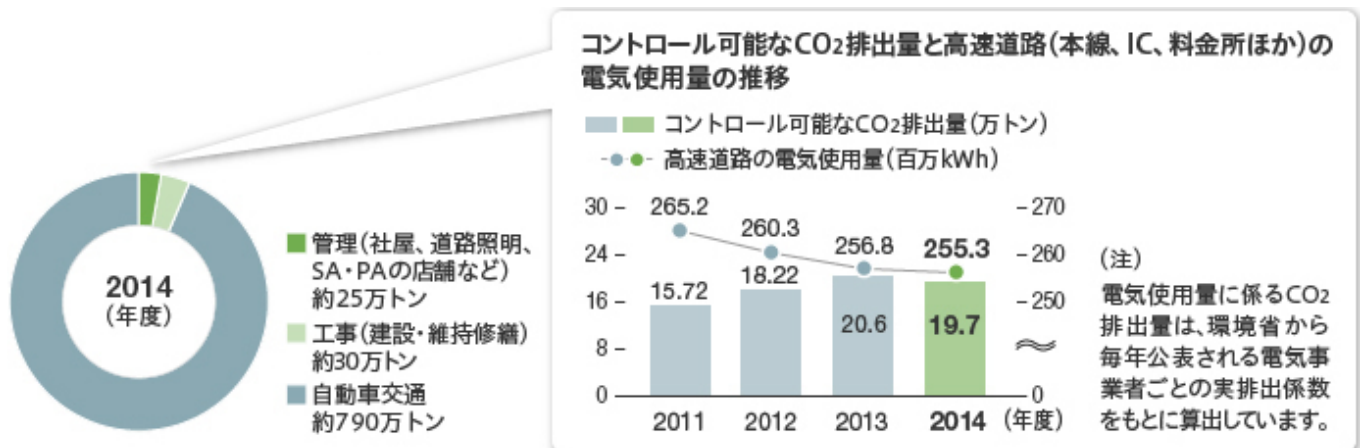
当社グループが管理する高速道路におけるCO<sub>2</sub>排出量の多くは自動車交通に起因しています。そのため、当社では、CO<sub>2</sub>排出量削減のため、交通渋滞の解消に向けて取り組んでいます。

また当社では、事業活動で使用する電気使用量に伴うCO<sub>2</sub>排出量が大いいため、道路施設、オフィスや店舗等の電気使用総量削減と、[盛土](#) の[り面](#) の樹林化等によるCO<sub>2</sub>の吸収・固定に取り組むなど、省エネルギーを推進しています。

さらに、太陽光発電の導入など、創エネルギーの推進にも取り組んでいます。

2014年度の高速道路(本線、IC、料金所ほか)における電気使用量は255.3百万kWhで、2011年度比で約3.7%の減少となりました。今後もCO<sub>2</sub>排出量の削減に向け継続して取り組んでいきます。

#### ▼NEXCO西日本管内の高速道路におけるCO<sub>2</sub>排出量の内訳



### 交通渋滞の解消

高速道路整備やETC 利用の普及促進で自動車交通によるCO<sub>2</sub>削減を目指しています

自動車は加速時に多量の燃料を消費するため、高速道路の整備やETC 利用の普及による走行速度の一定化は、自動車交通によるCO<sub>2</sub>排出量削減に大きな効果をもたらします。

2014度は、新たに3区間、39kmが開通しました(参照:「[道路ネットワークの整備と機能向上](#)」)。これによるCO<sub>2</sub>排出量削減効果は、年間約1.6万吨と算定されています。

また、2014度のETC利用率は86.9%となり、ETC運用開始前と比較して、CO<sub>2</sub>排出量が約1.7万吨削減されたものと推定されます。

今後も高速道路整備やETCレーンの複数化により交通混雑を解消することで、自動車交通によるCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献していきます。

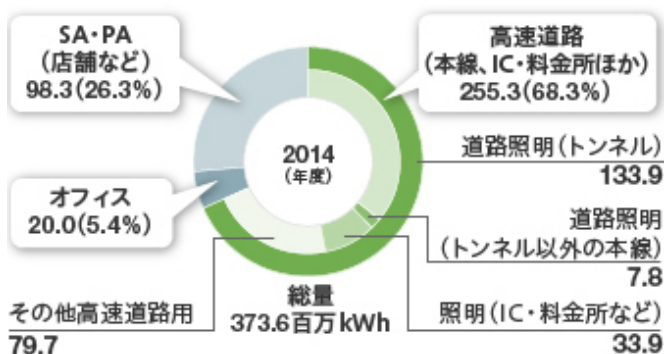
## 省エネルギーの推進

電気使用量の3割以上を占めるトンネル照明のLED化を推進しています

当社グループが使用する電気の3割以上は、高速道路のトンネルに設置された照明です。これらをすべてLED化すると、トンネルでの電気使用量の約4割の削減が見込まれます。このため、当社ではトンネル照明のLED化を推進しています。

現段階では2015年度までに全体の6.9%にまで拡大する計画を立てています。2014年度末時点で44本のトンネルでLED化を完了し、2015年度は新たに28本のトンネルのLED化を予定しています。

▼電気使用量の内訳(単位:百万kWh)



オフィスでの省エネ活動を継続しています

2014年度も、前年度に引き続きオフィスにおける省エネ活動の取り組みとして、執務室内の照明の調整や昼休みの一斉消灯、エレベーターの稼働台数制限などを実施しました。これによって、執務室床面積あたりの電気使用量を、2013年度比で約5.8%程度削減することができました。

SA・PA(店舗など)での省エネ活動を推進しています

SA・PA等営業施設への使用電力最適化システムの導入を推進しています。本システムの導入により、約5%(1箇所あたり)の電気量を削減することが見込まれます。2014年度までに12カ所に導入しており、今後も店舗改良等に合わせた導入を検討していきます。

## 充電システムの整備

電気自動車(EV)用急速充電システムの整備に取り組んでいます

当社では、次世代自動車充電インフラビジョンを作成し、このビジョンに基づいて、SA・PAにおける急速充電システムの整備を進めています。

### ■ 関連ページ

▶ [特集2 お客さまと地域に愛されるSA・PAづくり](#)

## 創エネルギーの推進

SA・PAや料金所などへ太陽光発電設備の設置を進めています

太陽光発電設備をSA・PAや料金所、高速道路の遮音壁  などに設置し、その電力を休憩施設や道路設備に活用しています。




2014年度は、新規にSA・PAや料金所など12カ所(合計120キロワット)に設置しました。2015年3月現在の発電設備容量の合計は2,573キロワット(計70カ所)でした。

今後も太陽光発電整備による創エネルギーの拡大を進めていきます。

2015年度は、栗東東JCT(仮称)に10キロワットの太陽光発電設備を整備する予定です。

## のり面の樹林化

高速道路の盛土 のり面を原則樹林化し、間伐や剪定などの維持管理も実施しています

高速道路を建設する際には、樹木の伐採が避けられません。そこで、当社グループでは、盛土  のり面  やICの敷地内などを原則樹林化しています。樹林化は、周辺の生活・農耕・自然などの環境保全に加え、CO<sub>2</sub>を吸収・固定し地球温暖化  の抑制にも寄与するものと考えています。

また、樹木の剪定や間伐などの維持管理を継続的に行い、健全な樹林形成にも取り組んでいます。



のり面の樹林化

## TOPICS

### 高速・一定速度の走行による環境効果 高速道路は、CO<sub>2</sub>排出の抑制に有効です

当社管内の高速道路を走行する自動車のCO<sub>2</sub>排出量は、年間約790万トン(2014年度)と推計されます。これらの自動車が一般道路と同じ速度で走行した時のCO<sub>2</sub>排出量は、年間約830万トンで、高速道路は年間で約40万トンのCO<sub>2</sub>排出を抑制していることとなります。

また、自動車の走行ではCO<sub>2</sub>のほか、粒子状物質(PM)、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)などが排出されます。高速道路では走行速度が一般道路に比べて一定で速いため、これらの排出が減り、大気汚染も抑制されています。

#### ▼高速・一定速度の走行による温室効果ガス排出の削減量 ※

自動車交通による  
温室効果ガス排出量  
約830万トン

— ▲約40万トン

※「自動車排出係数の算定根拠」

(2003年12月国土交通省国土技術政策総合研究所)より作成。



## 環境保全 循環型社会の形成

天然資源の消費を抑制し、事業活動に伴って発生する廃棄物の3R（Reduce[削減]・Reuse[再利用]・Recycle[再資源化]）を推進するとともに、環境負荷の少ない製品・資材を調達するグリーン調達に取り組んでいます。

### 建設副産物の3R

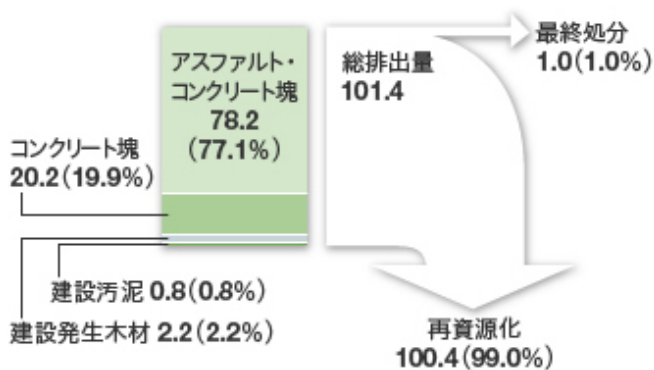
建設廃棄物や建設発生土の再利用・再資源化に努めています

事業活動に伴って排出される建設廃棄物・建設発生土などの現場内での再利用を推進し、現場で再利用しきれないものについても、他の工事現場や再資源化工場への持ち込みを進めるなど、最終処分（埋め立て）をできるだけ少なくしています。

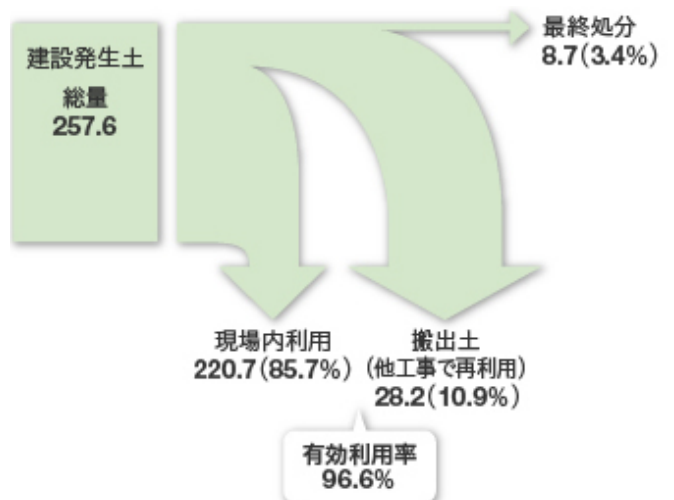
また、アスファルト・コンクリート塊やコンクリート塊といった建設廃棄物についてはコンクリートや舗装の骨材や基礎砕石として、建設発生土は道路の盛土材などとして、再利用しています。

今後も建設副産物の3Rの推進に取り組んでいきます。

#### ▼建設廃棄物の再資源化の状況(単位:万トン)



#### ▼建設発生土のリサイクルの状況(単位:万トン)



自工区および他の建設工事で発生した土砂を受け入れ、利用

## 緑地管理の3R

刈草や剪定枝を緑化資材に転用する「緑のリサイクル」を行っています

高速道路の緑地帯からは、維持管理の際に刈草や剪定枝が大量に発生します。これらから、主に建設事業で使用する堆肥やチップを自社プラントで製造する「緑のリサイクル」を行っています。2014年度は約2,400m<sup>3</sup>の堆肥を生産しました。

緑地の雑草を抑制する植物を植栽し、刈草の減量に努めています

高速道路周辺の緑地帯の草刈りの手間軽減と刈草の減量化を図るために、当社では選抜育種した地面を覆うようにして伸びる性質のテイカカズラ(商品名:eQカズラ)を植栽しています。eQカズラは、生育に伴い地表面を覆い隠すことで雑草の侵入を抑制するため、維持管理コストを従来の約10分の1にでき、生態系への悪影響もありません。エコエリア山田の太陽光発電設備周辺にも防草対策として植栽しています。

2014年度は高速道路周辺の緑地帯に約50万本を植栽し、2015年度は20万本を植栽する計画です。


なお、この技術は、当社とグループ会社のNEXCO西日本エンジニアリング九州が共同で開発(特許:第4642049号)しています。



eQカズラによる雑草抑制(エコエリア山田)

## 事業活動により発生する廃棄物の3R

SA・PAで発生するゴミの3Rを進めています

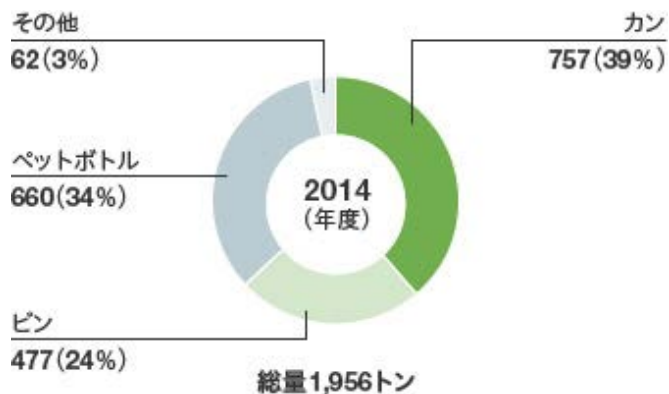
当社グループでは、お客さまにゴミの分別のご協力をいただくとともに、よりきめ細かな分別を実施し、SA・PAにおけるゴミの3R  を推進しています。

再資源化可能なゴミはリサイクル工場に運搬し、資源の有効利用に貢献しています。2014年度は、SA・PAで発生したゴミ6,232トンのうち約31%にあたる1,956トンを再資源化しました。

今後もお客さまに引き続きゴミの分別にご協力いただきながら、ゴミの削減・再資源化に取り組んでいきます。

▼SA・PAのゴミ再資源化を図った廃棄物の内訳(単位:トン)





道路設備のリサイクルを進めています

不要となったトンネル設備(ジェットファン<sup>☞</sup>・送風機・集塵機装置)を回収し、分解・整備(オーバーホール<sup>☞</sup>)して、新設が必要な箇所にて再使用しています。2014年度はジェットファン5基を再使用しました。

#### ▼オーバーホール前後のジェットファン



オーバーホール後



オーバーホール前

大型・特殊車両の再利用を促進しています

当社グループでは、高速道路での使用には耐えられず更新時期を迎えた除雪車などの大型・特殊車両について、解体処分をせず一般競争入札で売却することで、資源の有効利用を図っています。売却された車両は再整備のうえ、国内の一般道や海外で再利用されます。

2014年度は標識車や散水車、除雪車など、64台を売却しました。今後も車両の再利用を推進し、資源の有効利用を図っていきます。



除雪車

## 水のリユース

水をリサイクル・リユースしています

管内27カ所のSA・PAのトイレにおいて、洗面・手洗いなどの雑排水を再生処理し、便器洗浄水に再利用しています。今後も水のリサイクル・リユースに取り組んでいきます。

## 環境に配慮した調達

公共工事についても方針を定めてグリーン調達に取り組んでいます

当社では、環境省の「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に準じて、[グリーン調達](#) の基本方針を定めています。

事務用品は、2006年度にグリーン調達率100%を達成し、2014年度も継続達成しています。公共工事に関しては、2014年度は対象とした66品目のうち、45品目についてグリーン調達しました。

引き続き、事務用品については環境省の方針に準拠するとともに、公共工事については、当社設計要領との整合性を確認したうえで、グリーン調達の方針に基づく調達を実施していきます。



## 環境保全

# 自然と共生する社会の推進

将来にわたり自然と共存共生していく高速道路を目指して、野生動植物や自然環境保全策を反映させた道路整備「エコロード(=自然にやさしい道づくり)」を進めています。

また、沿道地域の静穏な生活環境を守るため、土地利用状況などを踏まえながら、[遮音壁](#) の増設・改良などを推進しています。

## エコロード

2つの軸を定め、エコロードを推進しています

エコロードの推進にあたっては、道路による自然環境への影響を緩和する「マイナスの低減」、道路空間を利用して自然環境を創出する「プラスの付加」という2つの軸を定め、さまざまな対策に取り組んでいます。

### マイナスの低減

1. 回避: 保全対象部分を避けて路線を選定
2. 低減(最小化・均衡): 自然に及ぼす影響を最小化
3. 低減(修復・再生): [のり面](#) や表土の緑化等
4. 代償: 近隣に同様の生息・生育環境を整備

### プラスの付加

道路のり面や環境施設帯、SAを活用し、緑化や水辺整備によって動植物の生育環境を創出

## 生物多様性の保全

道路建設による自然の消失を最小限に抑えるため、建設前後にさまざまな対策を実施しています

当社グループでは、建設事業ごとに工事着手前に自然環境の調査を実施し、学識経験者を交えた委員会等で最適な自然環境の保全対策を検討しています。必要に応じて構造変更による隣接湿地の保存や希少植物の移植などを実施し、自然環境に及ぼす影響の最小化や[生物多様性](#) の保全に努めています。

また、建設後においても、環境の経年変化や保全措置の効果を把握するためモニタリングし、適切な管理を行うことで、自然環境保全の質的向上にも努めています。

地域固有の「地域性苗木」を育成・植栽し、生態系の保全に最大限配慮しています

自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域固有の樹木類の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路の[のり面](#) に植樹しています。地域性苗木の植栽は、のり面に外来種の種子が飛来して繁殖・拡大することで、もとの生態系に与える影響を抑える効果があります。

2014年度に開通した東九州自動車道では、種子を採取していただいた地元の小学生と地域性苗木の記念植樹を行うなど、地域性苗木を活用した地域連携・環境教育にも取り組んでいます。2014年度末までに約8.3万本の地域性苗木を植栽しており、今後も、建設工事が進む新名神高速道路などで積極的に取り組んでいきます。



地域性苗木の植樹

## 野生動物の事故防止

けもの道や防止柵の設置に取り組んでいます

高速道路に野生動物が侵入すると、動物が車にひかれる危険があるばかりでなく、動物を避けようとしたドライバーが交通事故に巻き込まれる恐れがあります。

そこで、当社では、動物の移動ルートを確認するけもの道や道路への侵入防止柵を設置しています。また、ドライバーへの注意喚起を促すための標識設置などの対策も講じています。

## 沿道環境の保全

道路交通による騒音の低減に努めています

当社グループでは、騒音の緩和を道路事業者の重要な責任のひとつと捉え、沿道地域の土地の利用状況などを踏まえながら、[遮音壁](#) の増設やかさ上げによる遮音壁の改良などに努めています。

2014年度は、新たに開通した区間を中心に、15.5kmで遮音壁の設置工事を実施し、当社グループ管内の設置延長は、延べ1,042kmとなりました。また、遮音壁のかさ上げや取り換えなどの改良工事も実施しています。今後も、必要に応じて遮音壁の設置に努めていきます。

# T TOPICS

## 吉野川の環境保全

専門家や地域の方々の意見を取り入れ、吉野川の環境保全に取り組んでいます

四国横断自動車道の整備区間である徳島県の一級河川・吉野川の河口周辺は、干潟が広がる[汽水域](#) となっています。このエリアには、絶滅危惧種を含む多種多様な希少生物が生息・生育しており、「東アジア・オーストラリア地域シギ・チドリ類重要生息地ネットワーク」でも渡り鳥の中継地として国際的に重要な湿地に挙げられるなど、[生物多様性](#) が高度に確保された地域として知られています。

そこで、当社では2013年8月、動植物・生態系・橋梁の専門家で構成する「吉野川渡河部の環境保全に関する検討会」を設置しました。2014年度末までに4回開催し、地域住民の皆さまからのご意見もいただきながら議論を進め、環境保全に配慮した橋梁形式の採用、工事中の対策および環境モニタリング調査の実施が決定されました。その決定に基づき、2014年9月から環境モニタリング調査を開始するとともに、地域住民の皆さまが観察した生物生息情報もいただきながら、吉野川渡河部の環境についての議論を進めています。

今後も、工事着手に向けた環境モニタリング調査計画のブラッシュアップなど、専門家の意見を聞きながら、地域の方々とともに吉野川渡河部の環境保全と高速道路事業の両立に向け、全力で取り組んでまいります。



## 社会貢献

**WEB** はウェブサイトのみに掲載している記事を示しています。

### ▶ 基本姿勢

社会貢献活動の方針

- ▶ [社会貢献活動の方針](#)

### ▶ 「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動

- ▶ [高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、講習会を開催しています](#)

### ▶ 「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動

- ▶ [西日本各地で森林再生に取り組んでいます](#)

### ▶ 「地域の元気」への取り組み

地域の子どもたちの教育支援

- ▶ [職場体験や現地見学会を実施しています](#)
- ▶ [大学で道路工学に関する講義を実施しています \(NEXCO西日本エンジニアリング中国での取り組み\)](#)

**WEB**

### ▶ グループおよびテナント会社との取り組み

グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

- ▶ [多種多様なボランティア活動への参加を支援しています](#) **WEB**

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部による社会貢献活動

- ▶ [SA・PAの売上金の一部を活用し地域社会への貢献に取り組んでいます](#) **WEB**
- ▶ [安心して子どもを産み育てられる社会の実現に貢献しています](#) **WEB**



## 社会貢献 基本姿勢

### 社会貢献活動の方針

NEXCO西日本グループでは、高速道路の重要な社会インフラとしての役割を果たすとともに、以下の方針のもとで、会社と社員が協力して積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。

#### 1. 社会貢献の目的

NEXCO西日本グループは、安全な暮らし、豊かな地球環境、安心と活力ある地域社会の実現に向けた取り組みを通じて、社会の持続的な発展に貢献します。

#### 2. 活動方針

活動にあたっては、地域社会との対話と交流に努め、これまで培ったノウハウや資源を活かしてグループ一丸となった社会貢献活動に取り組めます。

#### 3. 重点分野

「安全」「環境」「地域の元気」の活動に重点的に取り組めます。



## 社会貢献 「安全」への取り組み

### 交通安全の啓発活動

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、講習会を開催しています

高齢者や子どもが地域で安心して暮らせるよう、シートベルト着用の重要性や横断歩道での安全確認の仕方、飛び出し事故の怖さなどについてお伝えする交通安全講習会を、警察や交通安全協議会、市町村と連携して実施しています。こうした取り組みとあわせて、2014年度は運転免許センターや大学での出張講習会など、ドライバー向けの講習会も含め、グループ全体で81回実施しました。

今後も地域の皆さまが安全に暮らせるよう各地域で開催していきます。



シルバー講習会の様子



親子見学会



安全管理者講習



## 社会貢献 「環境」への取り組み

### 「つなぎの森」活動

西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。グループ社員やその家族が参加し、自治体や森林組合とともに、2014年度までに7カ所、約65ヘクタールで植林や間伐を行いました。今後も引き続き、西日本各地で自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



「つなぎの森活動」参加者



つなぎの森  
四国大豊町での活動





## 社会貢献 「地域の元気」への取り組み

### 地域の子どもたちの教育支援

職場体験や現地見学会を実施しています

地元中学生による料金所での職場体験学習や、地域の子どもたちとの自然体験活動(芋ほり等)などを積極的に実施しています。また、沿線周辺の小学校に対しては、グループ社員が講師となって出張学習会を実施しています。2014年度は、高速道路に関する素朴な疑問にお答えする「はたらく車・親子見学会」を、計4回開催しました。

今後も地域の将来を担う子どもたちの育成に貢献する活動に取り組んでいきます。



はたらく車・親子見学会  
(NEXCO西日本メンテナンス関西)



地元中学生による職場体験学習  
(NEXCO西日本サービス四国)



ふれあい農園(NEXCO西日本パトロール九州)

大学で道路工学に関する講義を実施しています(NEXCO西日本エンジニアリング中国での取り組み)

NEXCO西日本エンジニアリング中国では、2001年度より広島工業大学で道路工学に関する講義を実施しています。当グループの技術的な認知度を高めるとともに、次世代を担う学生の育成に積極的に取り組んでいます。



道路工学に関する講義(現場見学の風景)  
(NEXCO西日本エンジニアリング中国)



社会貢献

## グループおよびテナント会社との取り組み

### グループ社員の社会貢献活動参加の奨励・支援

多種多様なボランティア活動への参加を支援しています

西日本各地のボランティアに関する情報を提供するなど、グループ社員の自主的な社会貢献活動を奨励・支援しています。今後もより多くのグループ社員のボランティア活動を支援していきます。



大阪マラソンの警備



社屋前清掃

### 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部による社会貢献活動

SA・PAの売上金の一部を活用し地域社会への貢献に取り組んでいます

西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部は、西日本高速道路サービス・ホールディングス(株)とSA・PAの店舗を運営しているテナント会社で構成されており、SA・PAの売上金の一部を活用し地域社会への貢献に努めています。

安心して子どもを生き育てられる社会の実現に貢献しています

子どもの出生数は、年々、減少しています。その原因のひとつとして、地域の産婦人科医・助産師の不足による不安や、保育施設の不足などが挙げられます。

このような現状を踏まえ、当倶楽部では、産科医師育成および助産師育成のための奨学金をそれぞれ2007年度および2008年度より支給しています。2014年度までに、産科医学生281名、助産師を目指す学生182名を対象に、奨学金を支給しました。

また、“働くお母さん”に高いニーズがある夜間・休日保育や一時預かりなどのサービスを提供している西日本の認可外保育施設への支援を行っています。2014年度は新たに19施設の支援を行い、これまでに支援を実施した施設は計107となりました。

# 財務報告

## 連結損益計算書

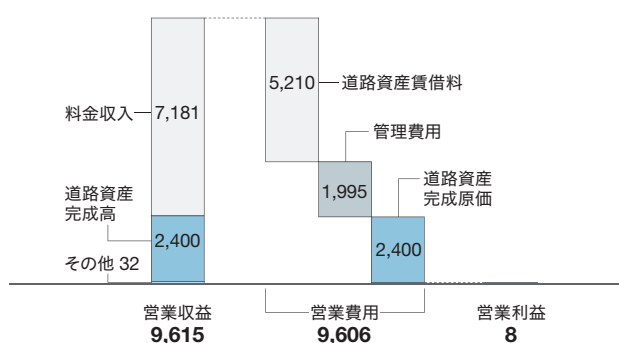
(単位:億円)

| 区分                     | 2014年度        | 2013年度       | 増減           |
|------------------------|---------------|--------------|--------------|
| <b>営業収益</b>            |               |              |              |
| <b>高速道路事業</b>          | <b>9,615</b>  | <b>8,287</b> | <b>1,327</b> |
| 料金収入                   | 7,181         | 6,053        | 1,127        |
| 道路資産完成高                | 2,400         | 2,204        | 196          |
| その他                    | 32            | 28           | 3            |
| <b>関連事業</b>            | <b>504</b>    | <b>578</b>   | <b>△73</b>   |
| SA・PA事業                | 327           | 347          | △20          |
| その他の事業                 | 177           | 230          | △53          |
|                        | <b>10,120</b> | <b>8,866</b> | <b>1,254</b> |
| <b>営業費用</b>            |               |              |              |
| <b>高速道路事業</b>          | <b>9,606</b>  | <b>8,298</b> | <b>1,307</b> |
| 道路資産賃借料                | 5,210         | 4,263        | 946          |
| 管理費用                   | 1,995         | 1,800        | 195          |
| 道路資産完成原価               | 2,400         | 2,235        | 165          |
| <b>関連事業</b>            | <b>458</b>    | <b>522</b>   | <b>△64</b>   |
| SA・PA事業                | 277           | 285          | △7           |
| その他の事業                 | 180           | 237          | △56          |
|                        | <b>10,064</b> | <b>8,821</b> | <b>1,243</b> |
| <b>営業利益(損失△)</b>       |               |              |              |
| <b>高速道路事業</b>          | <b>8</b>      | <b>△11</b>   | <b>19</b>    |
| <b>関連事業(うちSA・PA事業)</b> | <b>(49)</b>   | <b>(62)</b>  | <b>(△12)</b> |
|                        | <b>55</b>     | <b>44</b>    | <b>10</b>    |
| <b>経常利益</b>            | <b>79</b>     | <b>61</b>    | <b>17</b>    |
| <b>当期純利益</b>           | <b>30</b>     | <b>34</b>    | <b>△4</b>    |

注1) NEXCO西日本グループは、当社および連結子会社26社、持分法適用の関連会社等7社で構成されており、高速道路事業、SA・PA事業、その他の事業を行っています。  
 注2) 「SA・PA事業」とは、高速道路のSA・PAにおける飲食・物販ならびにその不動産を賃貸する等の事業をいいます。  
 注3) 「その他の事業」とは、受託事業、コンサルティング事業、収益還元事業等の事業をいいます。  
 注4) 億円未満は切り捨てて表示しています。

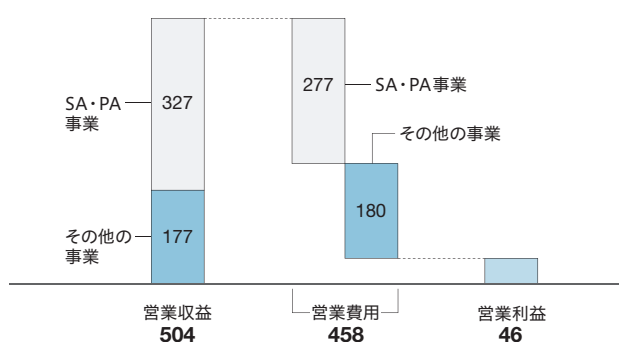
## 高速道路事業の損益

(単位:億円)



## 関連事業の損益

(単位:億円)



## 連結貸借対照表

(単位:億円)

| 区分             | 2014年度      | 2013年度      | 増減       |
|----------------|-------------|-------------|----------|
| 連結資産           | 9,517       | 9,295       | 221      |
| 連結負債           | 7,902       | 7,702       | 200      |
| 連結純資産(自己資本比率%) | 1,614(17.0) | 1,593(17.1) | 21(△0.1) |

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

| 区分                       | 2014年度        | 2013年度        | 増減             |
|--------------------------|---------------|---------------|----------------|
| 営業キャッシュ・フロー(道路建設投資)(その他) | 436(△69)(505) | 575(152)(423) | △139(△222)(82) |
| 投資キャッシュ・フロー              | △285          | △270          | △14            |
| 財務キャッシュ・フロー              | △154          | 20            | △174           |
| 現金及び現金同等物の期首残高           | 1,439         | 1,102         | 336            |
| 現金及び現金同等物の増減額            | △1            | 336           | △337           |
| 現金及び現金同等物の期末残高           | 1,438         | 1,439         | △1             |

### 【道路会社のキャッシュ・フロー計算書】

・高速道路への建設投資は、道路会社にとって高速道路機構に対する「商品」のため、投資額は「営業活動キャッシュ・フロー」のマイナスに整理し、これに見合う資金は社債・借入金により調達するため「財務活動キャッシュ・フロー」のプラスとしています。  
 ・高速道路が開通し、道路資産および社債・借入金を高速道路機構に引き渡す際に、道路資産完成高を「営業活動キャッシュ・フロー」のプラス、社債・借入金の引渡額を「財務活動キャッシュ・フロー」のマイナスとしています。  
 ・したがって、高速道路への投資額が道路資産完成高を上回る決算期において、「営業活動キャッシュ・フロー」がマイナスとなる場合があります。

## 高速道路事業の概況

- 当決算期の当社管内の高速道路の通行台数は、前期比3.8%減少し、271万台/日となりました。営業収益のうち高速道路料金収入は、前期比1,127億円増の7,181億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の増加に伴い、前期比946億円増の5,210億円となりました。管理費用は、前期比195億円増の1,995億円となりました。
- 道路資産完成高は徳島自動車道(鳴門)CT~徳島IC)や東九州自動車道(行橋IC~みやこ豊津IC、豊前IC~宇佐IC)などの完成があり、前期比196億円増の2,400億円となりました。なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。
- 高速道路事業全体の営業収益は前期比1,327億円増の9,615億円、営業利益は、前期比19億円増の8億円となりました。

## 関連事業の概況

- SA・PA事業については、交通量の減少等による店舗売上高の減少等により、営業収益は前期比20億円減の327億円となり、その結果、営業利益は前期比12億円減の49億円となりました。
- SA・PA事業とその他の事業を合わせた関連事業全体の営業収益は、SA・PA事業の減収に加え、国などからの受託事業の収益が減少したことなどにより、前期比73億円減の504億円となりました。また、営業利益は、SA・PA事業営業利益の減少が影響し、前期比9億円減の46億円となりました。

## 第三者意見



神戸大学大学院  
経営学研究科 教授

**南 知恵子 様**

「コミュニケーションレポート2015」では、まずNEXCO西日本グループの事業内容について、どのような目標を設定し、どのような実施枠組みと計画で行っているのかを図示しており、その後続くトップマネジメントの企業方針、特集記事による高速道路の長期保全のクローズアップにより、企業の考え方と業務がよく伝わる内容となっていると評価できます。また特集記事も、保全に関し、POINTの囲み記事で現状の問題の指摘も行っており、読み手にとってわかりやすい内容になるよう留意されています。全体的に、詳細な説明とビジュアルを効果的に使用することにより、事業に関する丁寧なコミュニケーション方針が伝わってくる内容となっています。

一方、少し改善を検討されても良いのではと思った点は、コミュニケーションレポートはCSRの観点からは、ステークホルダーへのコミュニケーションを目的としているはずですが、NEXCO西日本グループとしてのCSRが21ページ目にやっと言及されているのが気になります。「みち、ひと・・・未来へ。」というスローガンのもと実施していることや、社会的課題に responding しようとする企業姿勢や責任、行動が、冒頭の3つの特集記事のテーマにつながっているわけですので、コミュニケーションレポートのもう少し最初の方でCSRに対する考え方を打ち出した方が良いかと思います。

CSRの重要課題と取り組み状況の一覧表は、課題に対する取り組みと実績、評価等が適度な詳細さでわかりやすいと思います。一方で、評価指標の「GRIガイドライン」など、誰でも知っているガイドラインではないので、その内容やなぜ指標として重要なのかについて多少説明があった方が良いかと思います。また目標の到達度も重要ですが、むしろ目標設定の根拠等が示されていることが大事だと思います。

最後に細かい点ですが、SA・PA、JCTなどの略称ですが、目次の前ページに小さく略称に関する説明が記述されていて見落としそうになるので、もう少し目立たせた方が良いかと思います。

### 第三者意見をうけて



取締役  
常務執行役員

**芝村 善治**

今回のレポートにつきましては、第三者意見は、神戸大学大学院経営学研究科教授の南知恵子様からいただきました。

南様からは、コミュニケーションレポートがその企業の考え方と事業がわかりやすく丁寧に説明されているか、CSRの観点や内容について読者やウェブサイト閲覧者の理解が深まるような改善はないか、と

いったことに関するご意見をいただきました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

高速道路という重要な社会インフラを預かる企業グループとして、社会や国民の皆さまをステークホルダーと位置付けている弊社では、事業と経営方針をわかりやすく伝えることが特に重要であると考えており、その点に関して評価をいただきました。

また、改善点につきましては、より良い内容とするためのご提言をいただきました。ご提言内容を踏まえ、ウェブサイトへ反映させるなどレポートのさらなる充実に努めてまいります。

来年度からスタートする次期中期経営計画2020に向けて、引き続き、ステークホルダーの皆さま方とのコミュニケーションを促進するとともに、事業活動を通じて企業の社会的責任を果たすべく、グループ一丸となって取り組んでまいります。

# 編集方針

NEXCO西日本グループでは、ステークホルダーの皆さまに当社グループのCSRに対する考え方や取り組みをわかりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「コミュニケーションレポート」を編集・発行しています。

2015年度は、これまで冊子のみで発行していたレポートを、「全体版」と「要約版」の2つのメディアで発行することとしました。詳細な取り組みを網羅的に報告する「全体版」は、ウェブサイトにすることで、ステークホルダーの皆さまが情報にアクセスしやすいように工夫しました。また、重要な取り組みを冊子にコンパクトにまとめた「要約版」では、ビジュアルを多用することで、親しみやすく手に取りやすいレポートを目指しました。

## 報告対象期間：

2014年4月1日～2015年3月31日（一部2015年4月1日以降の内容も含みます）

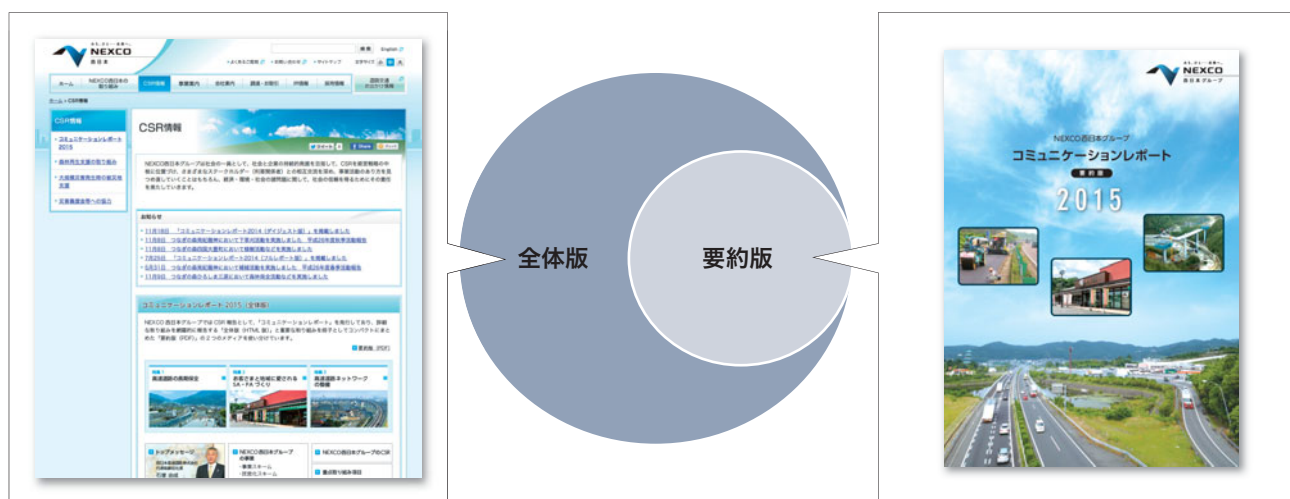
## 発行時期：

2015年7月（前回：2014年7月、次回予定：2016年7月）

## 参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」
- GRI (Global Reporting Initiative) 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン第4版」（持続可能な社会の実現に向けて、組織の目標と実績について報告するための国際的ガイドライン）
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」（企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス）

## 「コミュニケーションレポート2015」各メディアの情報内容



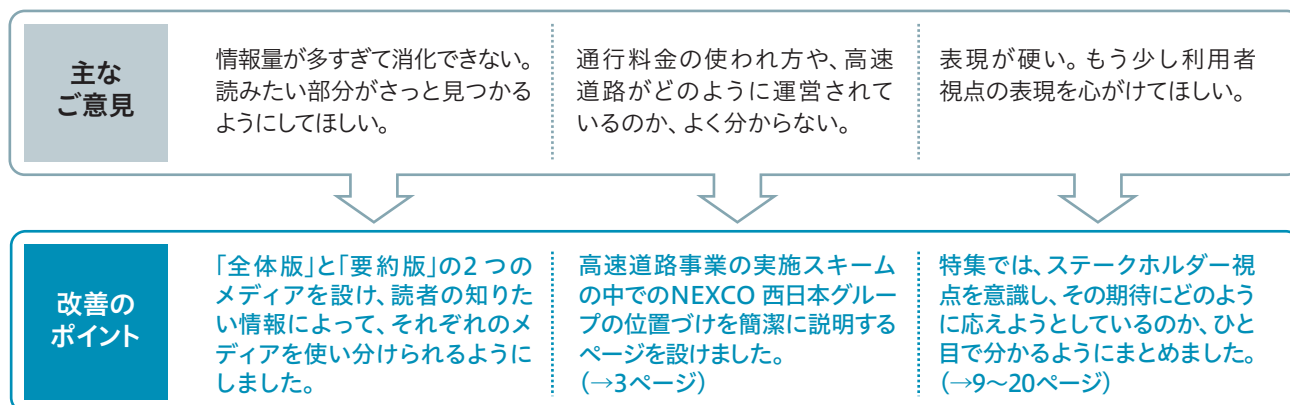
### 全体版

網羅的な情報をウェブサイトで開示

### 要約版

重要な情報を抜粋し、冊子として発行

## レポートへの主なご意見と改善のポイント（「コミュニケーションレポート2014」読者アンケートより）





みち、ひと…未来へ。



### ブランドネーム：NEXCO(ネクスコ)西日本

会社の英語表記「West Nippon Expressway Company Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へを表す「Next(次なる)」と、「Co(「共に」を表す接頭語)」の2つの語を包含しています。

### ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行すること」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

### ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



ハイウェイ交通情報ケータイサイト

「アイハイウェイ」とは、高速道路やサービスエリアをご利用されるお客さまの安全・快適な走行計画にお役立ていただくために、全国の高速道路の交通情報や道路映像などを24時間、携帯電話やパソコンのインターネットを活用して配信するサービスです。



「DRIVE&LOVE」は、「愛する人・愛してくれる人を想う気持ち」を原動力に、みんなでいっしょに交通事故ゼロを目指すプロジェクトです。

### (お問い合わせ先)

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課

TEL(06)6344-4000(代表)

FAX(06)6344-7183

インターネットからのお問い合わせ：NEXCO西日本ウェブサイト(<http://www.w-nexco.co.jp>)から、「お問い合わせ」ページへアクセスできます。

NEXCO西日本グループ コミュニケーションレポート2015